

スハキカノ問題ヲ生ス、本來同會社ハ初メ獨逸銀行ニヨリテ設立セラレ、其業務ヲ補助スル爲メニ設ケラレタリ、サレハ其始メハ範圍狹少ナル一ノ財務信託ニ過キサリキ、其後ニ至リ検査事務及財産管理事務ヲ開始シ、之ニヨリテ新ナル生活ニ入りタリ、即チ一ノ新ナル業務ヲ附加經營スルコト、ナリ、依テ一方ニ於テハ自己ノ計算ニヨリテ財産管理事務ヲ營ミ、他方ニ於テハ公平ナル代理人トシテ検査事務ヲ行フコト、ナレリ、本會社カ單ニ検査事務ヲ行フニ止マル時ハ、其検査ニ對シ何等私法上特別ノ責任ヲ負ハサルカ故ニ、資本金及積立金ハ其依頼人ニ對シテハ殆ト何等ノ用ヲモナサス、然レトモ財産管理ニツキテハ全ク之ト異リ、管理ノ過失ニ對シテハ法律上責任ヲ負ハサル可カラサルカ故ニ、資本ノ大部分ハ容易ニ回收シ得ル投資方法ヲ選ハサル可カラス、若シ世人カ株式會社ニ財産管理事務特ニ遺言執行事務ヲ委託セント欲セハ、其會社ヲシテ投機的業務ヨリ遠サカラシムルコトハ甚タ重要ナリ

遺言執行ニ際シテ常ニ難點トスル所ハ、久シキ以前ニ遺言ノ執行人タルヲ依頼セラレテ承諾シタル人カ、實際遺言ノ效力ヲ發スル時ニハ既ニ死亡セル後ナルコトニアリ、此困難ハ原則トシテ法人ノ場合ニハ存セス、然ルニ若シ法人カ投機的企業ニ關係シ、從テ其會社ノ存立ヲモ危カラシムル場合ニハ、個人ニ比シテ勝ル所少キニ至ル、吾人ハ信託會社ノ執行セル業務ニツキテ知ル所少ナシ、從テ亦本會社カ確實ナルカ危険ナルカニツキテ判斷スル地位ニアラス、然レトモ一般ニ吾人ハ公衆カ

投機的ナリト思フニ至ルコトハ信託會社ノ發展ヲ促進スル所以ニアラスト信スルナリ」

第三節 債券者保護業務

債權者保護業務トハ債權者ノ權利ヲ確保シ及其權利ノ實行ニ關スル時間ト費用トヲ省ク目的ヲ以テナス一切ノ行爲ヲ稱ス、此種ノ業務ハ相互間ニ複雑ナル關係ヲ有スルカ故ニ、其間ニ明確ナル區分ヲ設クルコト不可能ナレトモ、通常ハ外國ニ對スル債權者ノ保護ト、内國債權者ノ保護トニ分タル、尙コノ外ニ登録事務、名義書換事務アリ、而シテ米國ニアリテハ此等事務ハ主トシテ當該會社ノ爲メニ行ハル、モ、獨逸ニアリテハ寧ロ債權者ノ爲ニ行フノ觀アレハ之ニ入ル、コト、セリ

第一、外國有價證券所持人ノ保護

此業務ハ獨逸信託會社設立ト同時ニ營マレタルモノニシテ、北米合衆國ト密接ナル關係ヲ有スル業務ナリ、第十九世紀末米國ノ經濟生活ハ非常ナル進歩ヲナシ、且獨逸モ亦漸ク債權國トナル氣運ニ向ヒ、米國ノ企業ニ對シテ投資スルモノ次第ニ増加セリ、特ニ亞米利加鐵道會社ハ其頃多額ノ資本ヲ要望シ、而シテ獨逸カ一八八六年ヨリ一八九一年迄五ヶ年間ニ米國ノ鐵道證券ニ對シテ投資シタル額ハ凡ソ一億五千萬弗（六億麻克）ニ達セリ、カ、ル際ニ當リ獨逸信託會社ハ其債權者保護ノ職能ヲ全クセンカ爲ニ生出テタリ、其目的トスル所ハ獨逸株主ヲシテ有力ナル地位ヲ獲得セシムルコト、特ニ外國

會社又ハ國家ガ危機ニ瀕シ又ハ其義務ヲ盡サ、ル場合ニ獨逸側ノ利益ヲ代表シ其保護ニ任スルニアリ、是ニ於テカ本會社ハ一八九六年カンサス市終期建造會社ノ獨逸株主集會ノ爲メ受託者ノ行爲ヲ營ミ、一八九七年ニハ紐育中央信託會社ト共ニ北太平洋鐵道會社ノ株券登錄者ニ指名セラレ、該會社ノ組織變更ニ際シテ著シキ活動ヲ爲セリ、同年中央太平洋鐵道會社ノ五分利債券ノ預託者トシテ合衆國信託會社ノ代理ヲナシ、米國ノ二信託會社ト共同セリ、一八九八年アルゼンチン國ブエノスアイレス州々債ノ整理ニ關シ、保護集會ノ業務執行者トナレリ、當時獨逸信託會社長ハゲオルク・シューメンズ氏ニシテ獨逸債權者ノ債權額ハ三千八百萬弗ニ達セリ、當時外交談判ヲ以テ此事件ヲ處理スルコト不可能ナリシヲ以テ、シューメンズハ困難ナル經過ノ後遂ニブエノスアイレス州政廳ト一ノ契約ヲ結び、獨逸債權者ノ爲ニ現在ノ狀況ノ下ニ於テ出來得ル限り多クノ利益ヲ與フヘキ旨ヲ約セリ。同年當會社ハ危險ニ瀕シ居ル羅馬ノ一般不動産會社 *Societa generale immobiliare* ノ債權者集會ノ書記役ヲ勤メタリ

此頃ヨリ債權者保護集會ノ根本目的ハ從來ヨリモ異ル意義ヲ有スルニ至レリ、即チ從來ハ既ニ危險ニ瀕セル資本ノ救済ヲ目的トセンカ、今ヤ之ニ加フルニ未タ現實危險ニハ瀕シ居ラサレトモ將來ノ危險ヲ慮リテ集會ヲ設クルニ至リタリ、此種ノ集會ニシテ當會社ノ深キ關係ヲ有スルモノハ、ウィットウオータースランドノ金鑛其他ノ企業ニ對スル株券及社債所有者保護組合 (*Schutzvereinigung der Besitzer*

von Aktien und Debentures von Goldminen und anderen industriellen Unternehmungen am Witwaterand) 及西班牙國債ノ獨逸所有者保護集會 (*Schutzvereinigung der deutschen Besitzer spanischer Staatspapiere*)

ナリ、ツラシスバル戦争後、南阿金鑛株ハ非常ナル暴落ヲ來シ、獨逸信託會社ハ多クノ損害ヲ蒙リタルカ如シ、コレカ爲ニヤ遂ニ南阿ニ關スル債權者保護集會ヲ消滅セリ、又西班牙國債保護集會モ亦其後開ユルコトナシ、其後本會社ノ外國債權者保護ニ關スル重ナル行動ハ、一九〇二年ニ設立セラレタル土耳其國債所有者保護集會ノ業務執行ニアリ、本集會ニハ獨逸ノ有名ナル多數ノ銀行カ關係シ、其出資總額ハ一億二千萬麻克ニ達セリ、此集會ノ努力ノ結果土耳其古政府ハ一九〇三年獨逸側ノ希望ヲ入ル、コト、ナリタリ、是ニ於テ各國モ皆之ニ倣ヒ、佛國ニ於テハ外國有價證券佛國側所有者集會、英國ニ於テハ外國有價證券所有者集會、白耳義ニ於テハ公債所有者保護集會ヲ設ケタリ

第二、内國有價證券所有者ノ保護

信託會社カ内國有價證券所有者ノ保護ニ當リテ、其債權者集會ニ加ハルコトヲ得ルハ勿論ナルモ、此種ノ業務ニ比シテ尙一層重要ナルハ企業救済 *Sanierung* ナリ、前者ノ突發的ナルニ反シテ後者ハ繼續性ヲ有シ其發生モ亦多キカ故ニ、之ヲ以テ繼續的營業ノ目的トナスコトヲ得、而シテ信託會社ハ此種ノ業務執行ニ對シテ適當ナル機關ナリト認メラル、ニ至レリ

此種ノ業務ニ關スル獨逸最初ノ法律ハ、一八九九年四月四日ニ發布セラレタル債券所有者ノ共同權利

ニ關スル法律ナリ、然レトモ本法ハ債權者ノ直接保護ヲ目的トスルニアラス、債權者ハ自ラ自己ノ利益ヲ擁護セサル可カラス、此法律ハ只一個ノ法律上ノ方法ヲ供スルニアリ、即チ必要アル場合ニハ債權者ハ相集リテ共同代表者ヲ任命シ、債務者ハ其代表者ヲ通シテ表ハル、債權者ノ意思ニ從ハサル可カラストスルニアリ、此法律ニヨリテ信託會社カ最初ニ關係セシ事件ハ、一九〇一年ニ最高潮ニ達シタル獨逸恐慌ノ際ニ當レリ、即チ一九〇〇年十一月廿六日普魯西抵當銀行ノ債權者集會ノ代表者トナリ、該銀行將來ノ營業ヲ常ニ監視シ債權者ノ利益ニ關シテ注意ヲナスコトヲ其任務トセリ、而シテ該集會ハ尙五名ノ委員ヲ選出シテ信託會社ト共ニ行動セシムルコト、セリ、一九〇〇年十一月二十八日同銀行總會ノ決議ニヨリ信託會社ハ本銀行及其從屬銀行ノ帳簿其他ノ檢査ヲナスコトヲ許サレタリ、其他本會社ハボンメルン抵當銀行、メクレンブルグストレリツク抵當銀行、一般獨逸輕便鐵道會社等ノ解散又ハ組織變更ニツキテモ力ヲ盡シ、且信託會社ハ組織變更ニ係ル會社ノ債券所持人又ハ債務者ノ代表者タルコトヲ引續キ更新シ、英國及米國ニ於ケル會計士ノ業務ヲ遂行セシヲ以テ、漸次經濟社會ニ重ヲナスニ至レリ。信託會社ハカクノ如ク企業救済ニ關セル業務ヲ執行スルト同時ニ、又擔保權保有者タルノ職務ヲ營メリ、一九〇七年ニハ擔保權保有及債權者代表トシテノ職務ハ二十二件ニシテ其金額ハ五億麻克ヲ超エタリ

第三、登錄事務、名義書換事務

獨逸信託會社ハ米國ノ信託制度ニ倣ヒテ一八九一年一ノ重要ナル業務即チ外國證券ノ登錄事務ヲ始メタリ、本會社ハ此年米國北太平洋鐵道會社ノ優先株並ニ基本株、及エヂソン電氣會社ノ株券ニ關シテ此業務ヲ營メリ、獨逸人ノ所有スル株券ノ配當ヲ米國ヨリ受取ルコトハ甚タ困難ニシテ且多數ノ費用ヲ要スルカ故ニ、信託會社カ此種ノ業務ヲ營ムハ公衆ニトリテ大ナル利益ナリ

同社ハ此種ノ業務ヲ獨リ米國ニ限ラス廣ク各國ニ及ホサント欲シ、其定款ヲ變更シテ一八九三年以來南阿金礦諸會社ノ爲メニコノ業務ヲ營ム、而シテ其後此等諸會社ノ收支代理人トナルニ至レリ、收支代理人トハ諸會社ノ代理人トシテ金錢出納事務ヲ營ムモノヲ云フ、一九〇六年ニハ十六金礦會社ノ大陸代理人トナリタリ

此種ノ業務ノ發達ヲ阻害スル一大原因ハ一八九六年一月ノ大審院ノ判決ナリ、即チ此種ノ業務ニツキテモ印紙稅法ヲ適用スルコト、ナリ、其高率ナル課稅ノ爲ニ、信託會社ノミナラス獨逸資本家モ亦困難セリ、然レトモ一八九七年同社ノ事業報告書ニヨレハ、登錄事務ハ之カ爲メニ減少セザリキ

第四節 檢査事務

一九〇一年獨逸信託會社ハ新ニ重要ナル營業科目ヲ採用セリ、即チ帳簿、營業狀態等ノ繼續的檢査事務コレナリ、從來ハ危險ニ瀕セル企業ノ清算又ハ組織變更ニ關スル事務ヲ營ムニ過ギザリシカ、今後

ハ健全ナル企業ニツキテモ其検査鑑査ヲ行ハントスルニ至レリ、一九〇一年同社カ之ニ關シテ宣明スル所左ノ如シ

「曩ニ本社カ抵當銀行債權者ノ代理人トシテ行動シタル結果、今回新ニ英米兩國ニ存スルカ如キ検査事務ヲ營マントス、其目的トスル所ハ抵當銀行ノ爲シタルカ如キ不適當ナル行動ヲ豫防シ、以テ公衆ノ信用ヲ増加セントスルニアリ、此種ノ業務執行ニヨリテ、從來帝國不動産抵當銀行法ニ基キ政府ヨリ任命セラレタル受託者、又ハ國家ノ監督ニヨリヨリモ著大ノ貢獻ヲナシ得ヘシト信ス：英米兩國ニ於テハ確實ナル大會社ハ皆此ノ制度ヲ利用シテ其嚴格ナル検査ニ服ス、吾人ハ此制度ヲ獨逸ニ輸入シテ公衆ノ福利ヲ増進センコトヲ期ス」

獨逸ニアリテハ検査人ハ從來極テ限ラレタル職務ヲ行フニ過キサリキ、假令法律特ニ一八九九年ノ會社法及商法カ營利會社株式會社ノ設立及貸借對照表ノ検査ニ關シテ規定スル所アリト雖モ、此等ハ實際經濟上重要ナル意義ヲ有セザリキ、此等ノ法律ニヨレハ少クトモ毎年一回検査ヲ受ケサル可カラズ、而シテ實際ハ一年一回ノ検査ニヨリテ、事物ノ真相ハ明カトナルモノニアラサルカ故ニ、其營業上ニ事實上勢力ヲ有スルコト能ハス、且獨逸ノ検査人ト雖モ、其専門的智識技能ニツキテハ敢テ英米ニ劣ラサレトモ、其委託者ニ對スル關係ニ至リテハ全然異ル、英米兩國ニアリテハ一ノ獨立ノ業務ニシテ企業者ニ從屬スルモノニアラサルニ獨逸ニアリテハ未タ獨立スルニ至ラスシテ多クハ只顧問タルニ過キサ

サルナリ

一九〇一年ノ恐慌ハ本會社ヲシテ此種ノ業務ヲ開始セシムル導火トナレリ、同社ハ相當ノ學識經驗アル者ヲ常置シテ検査ヲナサシメ、其執行シタル職務ニツキテハ無限絶對ノ秘密ヲ守ルヘキモノトス同社ハ繼續的ニ又ハ一年內數回繰返シテ検査ヲナス、カ、ル検査ニヨリテノミ始テ意義アル検査ヲナスコトヲ得、又コレニヨリテ其營業ノ改革ヲモナスコトヲ得ルナリ

サレト此業務ノ發達上少カラサル困難アリ、企業者ハ自己ノ業務ノ内容ニ第三者ノ立入ルコトヲ好マス、信託會社ノ介入ハ其事業ノ内情ヲ曝露スル虞アリトナス偏見ナリ、獨逸信託會社ハ此非難ニ對シテ極力杞憂ニ過キササルコトヲ説示シ、英米ニ於テ永ク此制度ノ嘉賞セラレ、最善ノ保障ヲ與フルモノナルコトヲ指摘スルニ努メタリ、爾後數年間ノ經過ヲ聞クニ

「検査ノ初期ニ際シテヤ、一般會社側ニ於テハ他人ノ監督ニ服シテ自己ノ營業ヲ第三者ニ了知セララルヲ嫌忌スルノ風アリシモ、本信託會社ハ検査事務ヲ行フニ付周密ナル思慮ト嚴格ナル秘密守信トニヨリテ右ノ困難ヲ擊退セリ、更ニ他ノ困難ハ從來ノ検査方法ト異ル點ニアリリシカ、社會モ一般ニ信託會社ノ行フ方法ヲ是認スルニ至リ、凡テ帳簿整理ノ方法面目ヲ一新シ簿記ノ進歩ヲ促シタリ、貸借對照表ノ公示ニ際シテモ、法律若ハ定款ノ規定ニ適合スルヤ否ヤヲ監査シ、凡テ機械的ノ方法ヲ避ケテ寧ロ企業ノ特質及其他ノ事情ニ適合センコトニ重キテ置キ、形式ノ検査ノ外事業全般ノ觀

察、収益能力等ニ着眼スルニ至リシハ、喜フ可キ進歩ト云ハサル可カラス、而シテ検査ハ一時的若
 ハ一定期間繼續シテ行ハレ、希望ニヨリテハ現金及貯藏品ノ検査ヲモ行ヒシヲ以テ大ニ信用ヲ博シ、
 大會社ノ取締役又ハ監査役中信託會社ノ検査監督ヲ以テ有利安全ナリト認ムルモノヲ加ヘ、組織的
 ノ營利企業ニアリテハ、其缺ク可カラサルモノナルコトヲ認識セラル、ニ至レリ」

此種ノ業務カ次第ニ盛大ニ赴キタルコトハ、同社ニヨリテ取扱ハレタル件數ニヨリテ知ルコトヲ得

年次	會社及商店數
一九〇三年	二七
一九〇四年	七〇
一九〇五年	一一〇
一九〇六年	二二〇
一九〇七年	四〇〇

一九〇四年乃至一九〇六年ノ検査事務取扱件數ヲ營業別ニスレハ次ノ如シ

業	一九〇四年	一九〇五年	一九〇六年
農業	四	一〇	一六
工業	五五	九三	一八二

商業	銀行	商
六五	八	九
一〇	一〇	二

検査ノ繼續期間ハ全ク一定セス、業務ノ大小難易ニヨリテ異ル、簡單ナルモノハ一日ニテ足り、大ナルモノニツキテハ一ヶ月ヲ要スルモノアリ、本會社ニヨリテ示サル、平均數ハ六日乃至八日間ニシテ二人ノ検査員ニテ爲サル、本會社ノ言フ所ニヨレハ繰返シ検査ヲナスコトハ一ケ年三回又ハ四回ニテ足ルト、本社ハ獨逸ノミナラス、瑞西、塊地利匈牙利、露西亞、羅尼亞、西班牙、伊太利、和蘭、丁抹等ニモ活動範圍ヲ擴大セリ

一九〇六年ノ獨逸法曹界ハ株式會社監査役ノ責任ニ關スル法律ヲ改正スヘキコトヲ決議シ、且資本金百萬麻克以上ノ會社ハ毎年損益計算書ノ検査ヲ受クル義務アリトナシ、信託會社ヲシテ當ラシムルヲ適當トスル旨ヲ決議セリ、但株主總會ヨリ獨立シタル監査役アリテ其業務ノ遂行ニ對シテ責任ヲ有スル場合ニハ之ヲ除外トス

此決議ハ未タ實行セラル、ニ至ラザレトモ、若シ實施セラル、ニ至ラハ、信託會社ノ活動範圍ハ一層擴大セラルヘシ、此實行ニ關シテ最モ困難トスル所ハ適當ナル検査人ノ不足セルコトナリ、ワルシヤウ氏ノ言フ所ニヨレハ獨逸ニ於テ資本金百萬麻克以上ヲ有スル株式會社ハ五千以上アリ、故ニ此等ノ凡テノ検査ヲナス爲メニハ實ニ多數ノ検査人ヲ必要トス、而シテ僅少ナル時間内ニ此種ノ業務ニ對シ

テ適格ヲ有スル多數ノ検査人ヲ得ルコトハ殆ト不可能ナリ、夫故ニ世人ハ英米ノ先例ニ倣ヒテ高等商業學校ニ検査ニ關スル特別科ヲ設ケ、コレニヨリテ適當ナル検査人ヲナルヘク多ク養成センコトヲ希望セリ、而シテ既ニライプチツヒ大學ニアリテハ如上ノ企テヲ實行シツ、アリ

茲ニ問題トナルハ信託會社ノ地位如何、全ク獨立シテ検査ヲ行フコトヲ得ルカ、他ノ銀行又ハ會社等ノ爲メニ自由ノ行動ヲ妨ケラル、コトナキカノ問題ナリ、先ニ説明シタルカ如ク信託會社ノ設立者ハ大抵銀行ナリ、ソレ故ニ信託會社ハ事實上其等ノ銀行ニ從屬シ、銀行ノ重役ハ又信託會社ノ重役ヲ兼ヌルモノ多シ、例ハ獨逸銀行ハ獨逸信託會社ノ株式ノ大部分ヲ有シ、信託株式會社ハドレスデン銀行ニ關係シ、検査及財産管理株式會社ハ割引會社ニ從屬シ、メクレンブルグ信託會社ハメクレンブルグ抵當及割引銀行ニ從屬シ、而シテ此銀行ハ又獨逸銀行ニ從屬ス、此等銀行ト信託會社トノ親子關係ハ公衆ニ何等ノ危險ヲ與フルモノニアラス、親銀行ハ信用ヲ要求スル會社ニ融通スル際前以テ信託會社ノ検査ヲ受クルコトヲ要求スルコトヲ得ル利便アリ、公衆モ亦其報告ヲ信シテ大ナル危險ヲ蒙ルコトナカルヘシ、法律上信託會社ノ故意過失ニ對スル制裁ヲ嚴重ニスルコトニヨリテコノ弊害ノ大部分ハ匡正セラルヘシ

第三章 結論

信託制度ハ獨逸ニ於ケル一新奇ナル法律現象ニハアラスシテ從前ヨリ存シタルモノナレトモ、現今ノ如キ經濟的社會的現象トシテノ信託會社ハ全クアングロサクソン民族間ニ發生シタルモノヲ承繼シタルナリ、即チ英米兩國ノトラスト、トラストコンパニー、外國證券所有者組合等ハ獨逸信託制度ノ模範タリ

獨逸ニアリテハ十九世紀ノ終リニ於テ資本が増加シタル結果、始テ信託會社ヲ要求スルニ至リシナリ、獨逸信託會社ノ各分子ニ通シテ存スル一般の特色ハ確實安全ナルコト、救済治療スルコトコレナリ、確實安全トハ自ら其財産ヲ管理スルコトヲ得サル人々ノ爲メニ其財産ヲ安固ナラシムルコトニシテ、救済治療ト稱スルハ資本的經濟生活カ當然伴フ處ノ損害ヲ除去又ハ輕減スルコトナリ、近來獨逸ニ於テ検査事務ニ重心ヲ置クニ至リシコトハ注意スヘキ點ナリ、世人ハ信託制度ニヨリ企業ノ永續ニ對シテ保健豫防ヲ得ルコト、ナレリ、即チ信託會社ハ獨逸經濟生活ノ調整機關タリ

英國米國及獨逸ノ信託制度及検査制度ヲ通覽スル時ハ其間ニ同一ナル部分少カラスト雖モ、各國ノ經濟狀態及國民性ニヨリテ又少カラサル差異ヲ有ス

英國ハ受託者特ニ財産管理人制度ノ故郷ナリ、保守的國民性ニヨリテ今尙主トシテ個人受託者ノ制度ヲ保有ス、然レトモ次第ニ會社組織ノ受託者發生シ來レリ、此程ノ會社ハ投機性ヲ缺如スルカ故ニ米國ノ信託會社トハ異ル、英國信託ノ國民經濟上ノ意義ハ、一方ニアリテハ現存スル私有財産ノ一大部

分カ安全ナル状態ニ置カル、コト、他方ニアリテハ國債又ハ地方債カーノ確實ナル地ヲ見位^{見位}出シタルコトニアリ、尙英國ノ特色ノ一ハ外國債權者ノ集會ナリ、コレハ英國カ世界最初ノ債權國タリシヨリ生シタル產物ナリ

米國ノ信託會社ハ全ク新ナル企業ノ形式ナリ、コレハ英國ノ受託者ニ企業管理ヲ結付ケタルモノニシテ、其後銀行業務ヲ附加シ、從テ投機的性質ヲ帶フルニ至レリ、而シテ米國銀行制ノ特色トシテ甚タ分散的ナルニアリ、検査事務ニツキテハ米國ニアリテハ信託會社ノ外ニ新ナル検査會社 Audit Company アリ

獨逸信託會社ノ特色ハ三個ノ職分ヲ合一シタル點ニアリ、純然タル信託的管理ト、債權者ノ利益ヲ代表シ確保スル職務ト検査事務トナリ、獨逸ハ米國ノ信託會社ヲ模範トシタルトモ、其投機的ノ性質ヲ襲踏セサリキ、將來獨逸信託會社ハ検査事務ヲ以テ主要ナル業務トナスニ至ルヘキ傾向ヲ有スルカ如シ、獨逸ハ英米兩國ニ比スレハ尙資本額少シ、故ニ其資本ヲナルヘク有利ニ管理セサル可カラス、信託會社ハ之ニ關シテ利益アル制度タリ、現在ノ信託會社ノ形式ハ一九〇一年經濟大恐慌ノ爲メニ受ケタル經驗ノ產物ナルコトヲ了解スルコト必要ナリ

其他ノ歐洲大陸諸國ノ信託制度

(一) 佛蘭西

此國ニ於テハ所謂信託會社ナルモノ發達セス、蓋シ佛國ニ於テハ銀行ノ勢力頗ル大ニシテ、彼ノ五大銀行ハ同國銀行業ノ霸權ヲ握リ各地ニ網ノ如ク支店ヲ有スルノミナラス地方銀行ハ又其地特殊ノ事情ノ下ニ存立シ、貸付割引等廣汎ナル銀行業務ヲ營ムノ外、個人ノ財産管理ニ驥足ヲ伸ハシ、債券ノ保護預リ利子取立債券賣買等ノ業務ヲナシ、用必深キ貯蓄資本家ノ顧問タル情勢ナルヲ以テ、特種ノ信託會社ヲ必要トセサルニ歸因スルナラム、近年出版セルポール・ルロア・ポリウー氏著財產管理法 Paul Larozy-Beaulieu, L'Art de Placer et Gérer sa Fortune 1912 第二編財產管理ノ方法 la Méthode 第十二章ニ於テ特ニ銀行ノ證券保管ノ利益 Avantages des dépôts de titres dans les maisons de banque ヲ論スルニ徴シテモ、斯國ニ於ケル銀行ノ勢力ヲ察知スルニ難カラス

然レトモ之ヲ以テ佛國ニ信託ノ制ナシト斷スルヲ得ス、羅馬法ノ fidei commissaria ノ觀念ニ酷似シタル法制ハ佛國私法ニ付テ明ニ認メラル、所ナリ、唯英米ニ於ケルカ如ク特殊ノ發達ヲ遂クルニ至ラス、從テ信託ノ業務ヲ專業トスル制度ヲ見ルニ至ラサルナリ、加之佛國ハ貯蓄ノ最モ發達セル國ナルニ拘ハラス、國內ニ於ケル有數ノ企業ハ官營ニアラサレハ國家ノ保護ノ下ニ生存シ、個人又ハ私

立會社ノ經營ニ屬スルモノ他ノ歐米文明國ノ如クナラス、人民ノ貯蓄ハ主トシテ内外國公債其他ノ有價證券ニ投セラル、カ故ニ、企業ヲ經理監督スル特種ノ制度モ亦重大ナル必要ヲ見サルナリ、又相續ニ關シテハ、佛國獨特ノ發達シタル制度ニヨリ、完全ニ行ハル、カ故ニ相續財産ノ管理處分ニ付テモ格段ノ問題ヲ生セサルヘシ

佛蘭西ニ於ケル信託制度ノ現狀略前述ノ如シ、唯輓近小企業ニ對スル金融機關カ問題トナレルト、佛蘭西銀行營業年限ノ滿期ニ近ツケルトニヨリ、特殊ノ制度ヲ企圖スルモノナキニアラサルヲ以テ、今後ノ施設如何ハ尙觀察ヲ要スヘキナリ

(二)其他ノ歐大陸諸國ニ於ケル信託制度ハ別段ノ發達ヲ見ス、埃太利及瑞西ニ於テ最近各一箇ノ信託會社設立セラレタルヲ報セリ *Comral, Handwörterbuch der Staatswissenschaften Bd. VII, s. 1264 ff.*

外國ニ於ケル信託ニ關スル調査終

附錄

米國ノ部

第一 紐育州銀行法拔萃

紐育州銀行法 (Banking Law)

千九百〇九年法律第十號

銀行、個人銀行、其他銀行局 (Banking Department) ノ監督ヲ受クル法人ニ關スル法律ハ、Consolidated Laws ノ第二章ヲナス

第一章 本法適用ノ範圍及適用ヲ受クルモノ、定義 (第一、二條)

第二章 總則 (第三、乃至四十五條)

第三章 銀行 (第六十、乃至百二十條)

第四章 貯蓄銀行 (第三百十、乃至百六十四條)

第五章 信託會社法 (第百八十、乃至百九十八條)

- 第六章 貯蓄并ニ貸付組合 (第二百十、乃至二百四十五條)
- 第七章 建物及敷地組合 (第二百六十、乃至二百六十七條)
- 第八章 モーケージ貸付及投資法人 (第二百八十、乃至二百八十八條)
- 第九章 保護預會社 (第三百、乃至三百〇五條)
- 第十章 個人貸付組合 (第三百十、乃至三百十四條)
- 第十一章 舊法廢止並ニ本法施行期 (第三百三十、乃至三百三十一條)

第一章 本法ノ適用ノ範圍及適用ヲ受クルモノ、定義

- 第一條 適用ノ範圍
- 第二條 定義

第二章 總 則

- 第三條 銀行局長 (銀行監督官)
- 第四條 銀行局長ノ官邸
- 第五條 銀行局長代理、書記及検査員
- 第六條 事務室及什器
- 第七條 銀行局經費ノ支辨
- 第八條 監督官ノ權限
- 第九條 供託物件ノ検査
- 第十條 銀行局長カ六年間支拂ノ要求ヲ受ケサル資金ノ處分
- 第十一條 検査員

- 第十二條 資本金ノ拂込ニ關スル検査及證明
- 第十三條 營業開始前ニ於ケル誓書
- 第十四條 銀行局長ニ對スル公債ノ供託
- 第十五條 供託證券ノ變更
- 第十六條 検査員ノ報告ノ公判
- 第十七條 資本金ノ缺損及検査
- 第十八條 解散ノ原因
- 第十九條 營業停止、訴訟、解散
- 第二十條 裁判所ノ命令ニヨル検査
- 第二十一條 營業報告
- 第二十二條 報告書ニ關スル罰則
- 第二十三條 検査ヲナスヘキ帳簿證憑書類及營業狀態
- 第二十四條 報告書ノ公告
- 第二十五條 銀行局長ノ年報
- 第二十六條 銀行局長ノ報告ノ推定的證據タルコト

- 第二十七條 營業ニ關スル制限
- 第二十八條 利益ノ計算
- 第二十九條 利益ニ超過スル損失
- 第三十條 支拂請求ナキ配當金及預金
- 第三十一條 營業所ノ移轉
- 第三十二條 設立ニ關スル銀行局長ノ認可及證明
- 第三十三條 以下三十五條迄他州及外國人及個人ニ關スルモノ(省略)
- 第三十六條 以下四十條迄合併ニ關スル規定(省略)
- 第四十一條 銀行局ヨリノ命令其他
- 第四十二條 重役會或ハ受託者會並ニ之レニ對スル報告
- 第四十三條 本法ノ適用ヲ受クヘキ會社個人銀行ニ關スル興廢ノ公告
- 第四十四條 裁判所ニ支拂ハレタル資金ノ受託者タル銀行ノ擔保提供並ニ利子支拂
- 第四十五條 裁判所ニ支拂ハレタル資金ノ受託者タル銀行ノ特定帳簿ノ備付

第一章 本法適用ノ範圍及定義 (第一條及第二條)

第一條 適用ノ範圍

本法ハ銀行法ト稱シ本法第二條ニ列舉セル法人及自然人ニ適用ス

第二條 定義

一、銀行

本法ニ於テ銀行トハ法律ニヨリテ手形ノ發行及兌換券其他通貨トシテ流通スヘキ證券ノ發行、現金及商業手形ヲ以テスル預金ノ受入及商業手形ニ對スル貸出、爲替手形、約束手形其他ノ商業手形ノ割引、金地金、銀地金、外國貨幣及外國爲替手形ノ賣買等ヲ營ムコトヲ許サレタル金融會社 (Moneyed Corporation) ヲ云フ

二、個人銀行

本法ニ於テ個人銀行トハ法律ノ要件ヲ充シ銀行局ニヨリ銀行事業ヲ營ムノ權限ヲ賦與セラレ銀行法ニ從ヒテ銀行局長ノ監督ヲ受クル個人ヲ云フ

三、貯蓄銀行

本法ニ於テ貯蓄銀行トハ常州ノ法律ニ規定セララル、特殊預金ノ受入之レニ對スル利子ノ支拂及

預金ヲ法律ノ特定セル有價證券其他ノ諸證券ニ投資スルコトノミヲ營業トスル法人ヲ云フ

四、信託會社

本法ニ於テ信託會社トハ適法ニナサレタル信託ノ受託、執行及法律ノ命スル場合ニ於ケル受託者タルコト

預金其他ノ動産ノ受託及之等ノ寄託物件ニ對スル預リ證券ノ發行及動不動産擔保ノ貸付等ヲナス目的ヲ以テ設立セラレタル内國法人 (Domestic Corporation) ヲ云フ

五、貯蓄及貸付組合

本法ニ於テ貯蓄及貸付組合トハ組合員ノ勤勉、節約、住宅ノ建築、貯蓄預金等ヲ獎勵センカ爲メ貯蓄預金ノ受入及斯クシテ得タル資金ノ組合員ニ對スル貸付及其預金カ一定額ニ達セルトキ或ハ預金者ノ要求ニヨリ或ハ組合ノ任意ノ時ニ於ケル其支拂等ヲナス目的トシテ設立セラレタル法人ヲ云フ

六、建物及宅地組合

本法ニ於テ建物及敷地組合トハ不動産ノ買入ノ爲メノ資金蓄積或ハ不動産ノ上ニ受クル負擔ノ支拂ノ爲メ組合員ヲシテ建物ノ敷地ヲ得セシメンカ爲メ或ハ設立契約書ニ規定シタル方法並ニ形式ニ於テ其敷地ノ上ニ建設ヲナスコト等ノ全部並ニ一部ヲ目的トシテ設立セラル、組合或ハ

法人ヲ云フ

七、不動産抵當貸付、貸付及投資法人

本法ニ於テ不動産抵當貸付、貸付及投資法人トハ當州或ハ他州ノ法律ニヨリテ設立セラレタル保險以外ノ會社ニシテ當州内ニ於テ其所有シ發行シ裏書シ或ハ保證セル不動産或ハ他ノ債權 (Choses in action) ノ上ニ存スル擔保權或ハ信託契約ニヨリテ擔保セラレタル債券其他ノ手形ノ賣出、賣出ノ廣告、及裏書讓渡、或ハ其組合員或ハ其他ノ者ヨリ現金其他ノ財産ヲ受入レ且是等ヲ何時ニテモ且其受入レタル額ニ幾分ノ増加ヲ付シテ受戻スコトヲ得セシムル契約ヲナシ又ハ一定ノ期限ヲ付シ或ハ付セスシテ其預入者或ハ其他ノ者ニ支拂フノ契約ヲナスモノヲ云フ

本法ハ本州内ニ於テ前項ニ列舉セル營業ヲナセル他州或ハ外國ノ法律ニヨリテ設立セラレタル組合 Copartnership, 株式會社個人 Firm ニ之ヲ適用ス

八、保護預會社

本法ニ於テ保護預會社トハ受寄者トシテ寶玉、貴金屬製品、通貨、正貨、地金、株券、公債、其他ノ諸證券及貴重ナル動産等ノ寄託ヲ受ケ寄託者ト會社トノ間ニ取結ハレタル契約ニヨリテ其安全ヲ保證シ且其ノ報酬ヲ受クルモノ及是等ノモノ、保管藏入等ノ爲メ金庫其他ノ倉庫ノ賃

貸等ヲ營ムヲ目的トシテ組織セラレタル總テノ本州ノ會社ヲ意味ス

九、個人貸付組合

本法ニ於テ個人貸付組合トハ千八百九十五年法律第七〇六號ヲ以テ修正セラレタル千八百九十年法律第三二六號千九百〇二年法律第七八號、千九百〇五年法律第三三三號及本法第八章等ニヨリテ組織セラレタル組合或ハ法人ニシテ是等ノ法律ニ規定セラレタル方法ニヨリ不動産擔保ニテ一口二百弗以内ノ利子付貸付ニヨリ金錢上ノ補助ヲ受ケントスル者ニ對シテ補助スルヲ目的トスル組合或ハ法人ヲ意味ス

(參照)

個人銀行 (Individual Banker) ハ銀行局長ノ監督ヲ受クルニ反シ私立銀行 (Private Banker) ハ其監督ヲ受ケス又個人

銀行ハ銀行局ヨリ營業ノ認可ヲ得其檢閲監理ヲ受ク

私立銀行ハ銀行業ヲ營ムモ州ヨリ何等ノ特權ヲ受ケサルモノ

貯蓄銀行以外ノ銀行ハ反對ノ契約ナキ場合ニ預金者ノ署名ヲ明ニシ置クヘキコトヲ強制セラル

第二章 總 則 (第三條乃至第四十五條)

第三條 銀行局、銀行局長

本法ノ適用ヲ受クヘキ法人及自然人ニ關スル法律ノ運用ヲナスヘキ銀行局ヲ設クルヲ要ス銀行局

長ヲ銀行監督官 (Superintendent of Banks) ト稱シ州知事元老院ノ協賛ヲ經テ之レヲ選舉シ其任期

ヲ三年トス

銀行局長ハ直接タルト間接タルトヲ問ハス個人トシテ本法ノ法人及個人銀行ニ關與 (Interested) スルコトヲ得ス

局長ノ俸給ハ年俸七千弗トシ會計官 (Comptroller) ノ支拂命令ニヨリ國庫ヨリ毎月ニ分割シテ月始メニ之レヲ支拂フモノトス

銀行局長ハ其任命ノ時ヨリ十五日以内ニ誠實ニ任務遂行スヘキ旨ノ誓書ヲ作成シ之レニ署名シテ Secretary of State 之ノヲ提出シ尙州人民ニ對シテ職務遂行ノ保證トシテ Comptroller 及 Treasurer of the State ノ承認ヲ經タル一種以上ノ擔保物件ヲ付シタル一萬五千弗支拂ノ證書ヲ提出スルヲ要ス

第四條 銀行局長ノ官印

略ス

第五條 銀行局長代理、書記及検査員

銀行局長ハ法律ニヨリテ命セラレタル任務遂行ノ爲メ書記及検査員ヲ任用スルコトヲ得
書記及検査員ノ義務ハ銀行局長ノ任命ニヨリテ定マル

銀行局長ハ書記及検査員ノ俸給ヲ定メ會計官 (Comptroller) ノ命令ニヨリ國庫ヨリ毎月支拂フモ
ノトス

銀行局長ノ地位空席トナレル場合或ハ三十日間繼續シテ缺勤其他ニヨリ其事務ヲ取扱フコト能ハ
サル場合ニハ第一銀行局長代理、局長ノ代理ヲナス

第一銀行局長代理ノ地位空席ナル場合或ハ缺勤其他ニヨリ其事務ヲ取扱フコト能ハサル場合ハ第
二ノ銀行局長代理之ニ代ル

第二ノ局長代理亦前項ノ事故アルトキハ第三ノ局長代理之レニ當ル

局長代理ハ州民ニ對シ銀行局長ト同様ノ證書提出ノ後ナラサレハ局長ノ代理ヲナスコト能ハス

第六條 事務室及什器

略ス

第七條 銀行局ノ經費

局長以下ノ俸給ハ局長ニ營業報告ヲナスコトヲ命セラレタル法人及自然人ニヨリ局長ノ定ムル率
ニヨリテ負擔スル旨及是等法人及自然人外國法人及其代理人等ノ特殊ノモノ、爲メ事務ヲ取扱ヘ
ル場合ノ費用ハ各々特種ノ法人及個人ニヨリ負擔スヘキ旨及是等法人及個人カ其支拂ヲナサ、ル
トキハ彼等ノ局長ニ供託セル有價證券ヲ處分シテ其費用ニ充ツル旨且彼等カ其支拂ヲナサス又供

託セル有價證券ナキトキハ檢事總長 (Attorney General) ニヨリ州人民ノ各ニヨリテ訟訴ヲ提起ス
ヘキ旨ノ規定ナリ

第八條 局長ノ權限

本法第二條ニ列舉セル各法人及個人銀行ハ銀行局長ノ監督並ニ檢閲ヲ受クルモノトス

銀行局長ハ自ラ或ハ其任命セル検査員ニヨリ銀行、信託會社、個人銀行ハ年二回以上貯蓄銀行ハ
二年ニ一回以上其他ノ本法第二條ニ列舉セル他ノ法人ハ年一回以上ノ検査ヲナスヲ要ス

検査ヲナシタルトキハ法人ノ營業狀態及資産狀態業務經營ノ狀態、重役ノ行動資金投資ノ狀態、
業務經營ニ謹慎ナルヤ否ヤ、其ナセル契約ノ擔保トシテ提供セル物件、其營業經營カ適法ニナサ
レ居ルヤ否ヤ及其他必要ナリト定ムル事項ニ就キテ報告書ヲ作成スルコトヲ要ス

銀行局長ハ本法第二條ニ列舉セル各法人及自然人共必要アリ或ハ利益アリト認ムルトキハ何時タ
リトモ検査スルコトヲ得

銀行局長ハ本州以外ノ内外國銀行或ハ銀行業ヲ營ム法人ノ本州内ニ於ケル代理店ヲ本州法ニ違反
セル所ナキヤ否ヤ及必要ナリト認ムル他ノ目的及他ノ事情ノ爲メニ検査スルコトヲ得

銀行局長及検査員ハ本法第二條ニ列舉セル法人、個人銀行及本州以外ノ内外國銀行及銀行業ヲ營
ム外國會社ノ検査ヲナスニ當リ其證明ヲナサシムル必要アリト認ムル者ヲシテ誓書ヲ提出セシメ

又ハ検査上立會ヲ必要ナリト認ムル者ノ出席ヲ命スルコトヲ得
 検査カ銀行局長或ハ銀行局ノ常任ノ検査員ニヨリテ行ハル、トキハ検査ヲ受クル法人或ハ自然人
 ノ負擔ハ旅費其他ノ實費ノミトス

貯蓄銀行検査ノ結果ハ検査員之レヲ検査ヲ受ケタル法人ノ記録ニ登録スヘシ

第九條 供託物件ノ検査

本法第二條ニ列舉セル會社及個人銀行ノ社長及支配人ハ毎年一回宛其任意ニ撰擇セル日ニ於テ執
 務時間内ニ供託セル有價證券ヲ検査シテ銀行局備付ケノ帳簿ト照合スルヲ要ス

照合ノ結果缺點ナキトキハ其證券ノ種類數量ヲ明記シ當日ニ於テ何等ノ瑕疵ナク局長ニ供託シテ
 ル旨記載セル證書ヲ作成シテ局長ニ提出スルヲ要ス(以下略ス)

本章第三條ニ列舉セル法人及個人カ前項ノ検査ヲ拒絶スルカ或ハ怠ルトキハ Comptroller,
 Secretary of State 及局長ハ適當ナリト認ムル人物ヲ代理人トシテ其検査ヲナサシム

前項ノ代理人カ検査ノ結果何等瑕疵ナキコトヲ發見セルトキハ前項ノ證書ヲ提出スルコトヲ要ス
 前項ノ代理人カ提出セル證書ハ法人ノ代表者及個人銀行頭取及個人銀行頭取カ自ら撰定セル代理
 人等ノ提出セルモノト同様ノ効力ヲ有ス

前項ノ代理人ニ對シテ法人及個人銀行ハ銀行局長ノ定ムル所ニ從ヒ其検査ニ要スル費用及報酬ヲ

要求次第支拂ハサルヘカラス

第十條 銀行局長カ六年間支拂ノ要求ヲ受ケサル資金ノ處分

略ス

第十一條 検査員

銀行局長ノ任命セル検査員ハ其執務以前ニ其居住地ノ郡役所ニ宣誓(the constitutional oath of office)
 ヲナスヲ要ス

検査員ハ検査ノ命令ヲ受ケタルトキハ其命令ニ基キ法人及個人銀行ノ帳簿證憑書類及其營業ノ情
 況ヲ充分ニ調査シ其結果ヲ局長ニ誓書ヲ以テ報告スルヲ要ス

検査員ハ其検査ヲナス法人或ハ個人銀行ノ破産管財人タルコトヲ得

第十二條 資本金ノ拂込ニ關スル検査及證明

本法第二條ニ列舉セル法人或ハ個人銀行カ本州ノ法律ニ基キテ營業ヲ開始スル前ニ局長ニ法定ノ
 證書提出ヲ命セラレ或ハ法律ノ規定ニヨリ擔保ノ供託ヲ要スルトキハ局長ハ検査ヲナシテ其法定
 ノ資本金ノ拂込カ完全ニ行ハル、ヤ否ヤヲ確ムルヲ要ス

局長ハ検査ノ結果、其他ノ調査ニヨリ資本金カ誠實ニ現金ニテ拂込マレタルコトヲ確ムルニアラ
 サレハ營業ノ認可ヲナスコトヲ得ス

第十三條 營業開始前ニ於ケル誓書 (Affidavit)

本法第二條規定ノ法人ハ其代表者、支配人、又ハ其役員中ノ重ナルモノ二名カ資本金全額或ハ法定金額カ其營業開始以前ニ法律ノ定ムル處ニ從ヒテ拂込マレタルコトヲ記載セル誓書ヲ作成スルヲ要ス

前項ノ誓書ハ如斯法人及個人銀行ノ本店ヲ有セル郡ニ於ケル宣誓 (oath) ヲ取扱フ官吏ノ前ニ於テ作成スルヲ要ス

設立認可後一ケ年以内ニ誓書カ提出セラレサルトキハ法人タルノ資格消滅ス (一般會社法第一百一條及第二百二條參照)

第十四條 銀行局長ニ對スル公債供託

銀行、貯蓄銀行及本法第六章及第八章ニ規定セル本州法人ヲ除ク他ノ法人ニシテ本州内ニ於テ信託資金ノ受入ヲナシ且銀行局長ニ其營業報告ヲナスヘキコトヲ命セラル、モノハ其營業ヲ開始スル以前ニ銀行局長ニ對シ合衆國當州又ハ當州内ノ市、郡、町、村、自治學校區 (free school district) 等法律ヲ以テ其發行ヲ許可セラレタルモノ、發行セル登錄セラレタル公債ノ實價ニ於テ其拂込資本金額ノ十分ノ一ニ當ル額ヲ供託シ且常ニ其額ヲ十分ノ一以上ニ保ツコトヲ要ス、但五十萬以上ノ人口ヲ有スル市ニアリテハ十萬弗、人口十萬以上五十萬以下ノ市ニ於テハ五萬弗、二萬五千以上十

萬以下ノ市ニアリテハ三萬弗、二萬五千以下ノ市又ハ町ニ於テハ二萬弗以上タルコトヲ要ス

前項ノ人口ハ最近ノ合衆國或ハ州ノ調査ニヨルモノトス

銀行局長カ供託ヲ受ケタル諸證券ハ本法ニヨリ信託ヲ受ケタルモノトシテ銀行局長ノ名ニヨリテ登錄シ是等法人ノ預金者其他ノ債權者ノ爲メニ其債權ノ擔保トシテ局長其受託者トナリ關係裁判所ノ命令ニヨリテノミ之レヲ賣却シ其手取益ノ處分ヲナスコトヲ得

供託證券ノ處分ヲ命スル權限ヲ有スル裁判所ノ命令ヲ受クル迄ハ銀行局長ハ供託證券ヨリスル利子其他ノ收入ハ之レヲ供託ヲナセル各法人ニ拂渡スヲ要ス

供託證券カ法定額以上ニ達セル場合ニハ其超過額ハ之レヲ拂戻スコトヲ要ス

前項ノ證券ノ供託ヲナス法人ハ銀行局長ノ承認ヲ經テ其供託ノ爲メニ本州内ニ存在シ工作ヲ加ハタル不動産ニシテ之レニ對スル貸付金々額ニ比シテ一倍七割五分以上ノ價格ヲ有スルモノ、上ニ存スル債權證書或ハ抵當權證書ヲ以テ更フルコトヲ得

當州以外ノ地ニ於テ設定セラレタル法人 (Foreign Corporation) 及當州以外ノ州郡ニ於テ設立セラレタル貯蓄及貸付組合等ニシテ本法第二條ニ規定セル營業ヲナスモノハ其預金者其他ノ債權者ニ對スル擔保トシテ前項ニ規定セル證券拾萬弗ヲ監督官ニ供託スルヲ要ス

前項ノ法人カ其供託ヲ拒絕スルカ或ハ怠ルトキハ局長ハ其旨檢事總長 (attorney general) ニ通告ス

ルヲ要ス

檢事總長其通告ヲ受ケタルトキハ當州内ニ於ケル營業ノ停止ヲナサシメンカ爲メノ訴訟ヲ提起スルヲ要ス

前項ノ訴訟ヲ受ケタル裁判所ハ其審議ニヨリ本法ノ規定ニ服從セシムルカ或ハ其營業ヲ禁止スルカノ命令、判決等ヲナスコトヲ得

第十五條 供託證券ノ變更

本法規定ニヨリ銀行局長ニ供託セル法人ノ凡テノ供託諸證券ハ何時ニテモ本法規定ノ他ノ證券ト供託ノ變更ヲナスコトヲ得

供託ヲナス法人カ支拂能力ヲ有シ或ハ州法ヲ遵守シ居ル間ハ其法人ハ其供託證券ニ對スル利子或ハ配當金ノ受入ヲナシ何時ニテモ他ノ同種ノ證券トノ交換ヲナスヲ得ヘシ

但其額面並ニ市價共ニ同額ナルヲ要ス

供託物件カ貸付證書及抵當權證書ナルトキハ其供託ヲナス法人ノ首腦者又ハ充分ナル權限ヲ賦與セラレタル代理人ハ其抵當權證書ニ其抵當物件ハ其貸付金ニ對シ誠實ニ提供ヲ受ケタルモノナルコト且貸付金ハ全部未償還ナルコト及一部償還ヲ受ケタルモノナルトキハ其未償還額ヲ記載シ且其抵當タル不動産ノ價格ハ貸付金額ヨリ七割五分多キ旨ノ宣誓ヲ付スルコトヲ要ス

局長ハ抵當物件ニ關スル權利及價格ノ査定ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

第十六條 検査員ノ報告ノ公刊

局長ハ必要アリト認ムルトキハ検査員ノ検査報告ヲ紐育市及其法人又ハ自然人ノ本店所在地ノ日刊新聞紙ニ廣告スルヲ要ス

第十七條 資本金ノ缺損及検査

局長ハ本法ノ適用ヲ受クヘキ法人或ハ個人銀行ノ資本金カ缺損其他ノ理由ニヨリ法定額或ハ定款及認可書ニ掲ケタル資本金額以下ニ減少セリト信スヘキ理由アルトキハ六十日以内ニ於テ其缺損ヲ補填スヘキ旨ヲ命スルコトヲ得

局長ハ資本ノ缺損額ヲ確ムル爲メ及其補填ヲ命シタルトキハ其補填カ完全ニ行ハレシヤ否ヤヲ検査スルコトヲ得

法人ノ重役ハ前項ノ命令ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク各株主ニ對シ其旨並ニ其補填ノ爲メニスル各株主ノ拂込負擔額ヲ書面ヲ以テ各株主ノ住所宛ニテ通知スルカ或ハ重役自ラ訪ヒテ通知スルヲ要ス

前項ノ催告ヲ受ケテ六十日以内ニ拂込ヲナスコトヲ拒絕スルカ又ハ怠ルトキハ重役ハ其株式ヲ競賣ニ付スヘキ旨其本店ノ所在郡ニ於ケル新聞紙ニ二週間以上廣告ヲナシタル後競賣ニ付スルコト

ヲ要ス

豫メ書面ヲ以テ此種ノ株式ノ購入申込ミヲ受ケ且其寫ヲ以テ其帳簿上ノ株式所有者ニ同様ノ申込
ヲナセルモノニ對シテハ豫メ廣告ヲナスコトナシニ其者ニ賣却スルコトヲ得

株主カ此申込ヲ受ケタル後二週間以内ニ其拂込ヲナサ、ルトキハ重役ハ其申込者ニ之レヲ賣渡ス
カ若クハ其申込者ヨリ高價ノ買手他ニ生セル場合ニハ之レニ賣渡スコトヲ得

前項ノ賣却スル株式價格ハ其拂込ヲ要スル金額以上ニシテ局長ノ決定セル額以上タルコトヲ要ス
重役ハ其賣却手取金ヨリ賣却費用ヲ支拂ヒ拂込ニ充ツルヲ要ス若殘高アルトキハ其株式ノ前所有
者ニ支拂フヲ要ス

前項ノ株式ノ賣却ニヨリテ前株主ノ所有スル株券ハ爾後無効トシ新株主ニ對シテ新株券ヲ交付ス
ルヲ要ス

本法ノ法人又ハ個人銀行カ特許又ハ其他其適用ヲ受クヘキ法律ニ違反セル行爲アリト認ムルトキ
及其營業方法不謹慎ナリト認ムルトキハ局長ハ自己ノ名ヲ以テセル命令ヲ以テ爾後其行爲ヲ禁ス
ルコトヲ得

前項ノ命令ヲ受ケタル法人及個人銀行ハ局長ニ對シ局長所定ノ日ニ定テ其不法行爲或ハ不謹慎ナ
ル營業ヲナセル理由ヲ陳述スルヲ要ス

第十八條 解散ノ原因

本法ノ適用ヲ受クヘキ會社ノ資本金ハ缺損ヲ生シタルトキ検査員ノ検査ノ爲メ帳簿書類ノ提出ヲ
拒絕シタルトキ、重役カ其検査ヲ受クルコトヲ拒絕シタルトキ特許及州法ニ違反シタルトキ負債
ノ支拂ヲ停止タルトキ、不謹慎ナル或ハ其認可ヲ受ケサル種類ノ營業ヲナシタルトキ又ハ本法規
定ノ検査ノ結果及報告書ニヨリ銀行局長カ其營業不安全ナル状態ニアルモノナリト認ムルトキハ
之レヲ檢事總長 (Attorney General) ニ通知シテ其解散宣告ノ請求訴訟手續ヲナスヲ要ス

第十九條 局長ハ本法ノ適用ヲ受クヘキ法人又ハ個人銀行カ其特許又ハ本州ノ法律ニ違反セリト認メ
又ハ其營業不謹慎ナリト認メ又ハ資本金ニ缺損ヲ生セリト認メ又ハ検査員ニ對シテ其帳簿諸證憑
書類ノ検査ヲ拒ムカ又ハ重役カ其検査ヲ受クルコトヲ拒ムカ又ハ其債務ノ支拂ヲ停止スルカ又ハ
検査ノ結果若ハ本法規定ノ報告書ニヨリ其營業状態危險ナルカ又ハ其營業振不謹慎ナリト認ムル
トキ又ハ營業ノ繼續ヲ不可ナリト認ムルトキ及是等法人及個人銀行カ本法第十七條ニ規定セル局
長ノ命令ニ從フコトヲ拒ムトキハ局長ハ是等ノ法人又ハ個人銀行ノ財産ヲ差押ヘ營業ノ停止ヲナ
シ再ヒ其營業ヲ開始スルカ或ハ本法規定ニヨリ清算スル迄之レヲ占有スルヲ要ス
局長カ前項ノ占有ヲナシタルトキハ其法人及個人銀行ノ凡テノ債權者ニ其旨通知スルヲ要ス
前項ノ通知ヲ受ケタル法人及個人銀行ハ其後ニ於テ取引セル支拂、貸付及手形ノ交換又ハ債務ニ

對シ差押ヲナス權利ヲ有セス

局長ノ差押ヲ受ケタル法人及個人銀行ハ局長ノ認許ヲ得タル條件ノ範圍内ニ於テノミ其營業ヲ開始スルコトヲ得

一六

局長ハ法人及個人銀行ノ財産及營業權ノ差押ヲナシタルトキハ債權ノ取立ヲナシ其資産及營業ノ保存行爲ヲナスコトヲ得次ニ述フル方法ニヨリテ清算ヲナスコトヲ要ス
局長ハ總テノ債權ノ取立ヲナシ高級裁判所ノ命令ニヨリテ不確實ナル債權ヲ賣却シ又ハ其債務ヲ解除シ又必要アルトキハ裁判所ノ命令ニ從ヒテ動不動産ノ處分ヲナスコトヲ要ス又會社債務辨濟ノ爲メニハ株主ノ拂込ヲ強制スルコトヲ得

局長ハ本條ニヨル權利義務ニ基キ法人又ハ個人銀行イ名ニヨリテ訴訟ノ提起ヲナシ又ハ受ケ及他ノ法律上ノ手續ヲナシ動不動産ノ賣却及裁判所ノ決定ニヨル賣却、和解、又ハ解除等ノ爲メ必要ナル契約、讓渡、棄權、其他實行通知ヲナスコトヲ得

前項ノ契約其他ハ總テ是等ノ法人及個人銀行ノ重役其他ノ代表者カ其法人及個人銀行ノ名ニ於テナシタルト同様ノ効力ヲ有ス(以下省略)

局長ハ清算事務ノ補助ノ爲メ銀行局長特別代理ヲ選任スルコトヲ得(以下省略)

局長前項ノ特別代理ヲ除ク外尙清算事務ニ關連セル事務ノ爲メ臨時ニ特別代理ヲ選任スルコトヲ

得

局長ハ清算ヲナス法人及個人銀行ノ財産ノ評價ノ爲メ特別ノ技能ヲ有スルモノヲ顧問又ハ助手トシテ選任スルコトヲ得ヘク尙必要アルトキハ清算ヲナス法人及個人銀行ノ重役及使用人ヲ使用スルコトヲ得

局長ハ局長代理及助手ヨリ其職務遂行ノ保證トシテ擔保ヲ徵スルコトヲ得

局長ハ連續セル三ヶ月間毎週一回宛其選定セル新聞紙ニヨリ清算ヲナス法人及個人銀行ヲシテ其債權者ニ對シ公告ニヨリ其公告ノ最後ノ日以後ノ一定ノ時及場所ニ於テ局長ニ債權ヲ申告シ且法律上ノ保證ヲ受クヘキ旨ヲ催告セシムルコトヲ要ス

前項ノ公告ハ知レタル債權者ニハ書面ヲ以テ其旨通知スルヲ要ス

局長カ前項ノ債權ニ疑義ヲ抱クトキハ之ヲ拒絶スルコトヲ得

其拒絶ハ之ヲ通知スルコトヲ要ス

前項ノ抗義ニ關スル訴訟ハ六ヶ月以内ニ之ヲナスヲ要ス

局長ノ公告又ハ通知ヲナセル一定ノ期間以後ニ債權ノ申告ヲナセル債權者ハ現ニ局長ノ手ニ殘存セル財産ニ就テノミ請求權ヲ有ス

局長カ法人及個人銀行ノ財産ヲ占有セルトキハ財産目錄二通ヲ作成シ一通ヲ局長ノ手許ニ保存シ

一七

他ノ一通ハ其本店所在地ノ郡役所ニ提出スルヲ要ス

局長ハ債權ノ申告期間滿了後ニ於テ申告ヲ受ケタル債權總額及其拒絕セル債權ノ額ヲ記載セル表
二通ヲ作り一通ヲ局長保存シ他ノ一通ヲ其本店所在地ノ郡役所ニ提出スルヲ要ス

局長ハ前項ノ表ヲ發表シタル後配當決定ノ許可申請ヲ裁判所ニナス十五日以前ニ前回ニ表ヲ作成
シタル以後ノ申告アリタル債權並ニ其拒絕セル債權ノ補足表ヲ作成シ爾後全財産ヲ處分シ盡ス迄
少クとも六ヶ月毎ニ是レト同様ノ表ヲ作成シ之レヲ保存スルコトヲ要ス

財産目錄、債權額表ハ之ヲ公衆ノ閱覽ニ供スヲ要ス

特別局長代理顧問其他ノ使用人及助手ノ報酬、検査及清算ノ費用額ハ其本店所在地管轄高級裁判
所ノ承認ヲ得テ局長之レヲ決定シ之レヲ其法人及個人銀行ニ通知シ之レヲ其清算ヲナス法人及個
人銀行ノ財産中ヨリ支拂フモノトス

局長ノ集金セル資金ハ之レヲ州立銀行貯蓄銀行信託會社等ニ預金スルヲ要シ是等銀行及信託會社
カ支拂停止ヲナセルトキハ其預金ハ是等受託銀行會社ノ他ノ凡テノ債權ニ優先スルモノトス

債權申告期間ノ經過後ハ最高裁判所ハ清算ヲナスヘキ財産中ヨリ經費及一回以上資産ノ分配ヲナ
シ且ツ最初ニ債權者ニ債權ノ申告スヘキコトヲ通知シタルトキヨリ一ケ年ヲ經過シタルトキハ局
長ニ對シ最後ノ配當ヲナスベキ命令ヲナスコトヲ得

前項ノ分配ハ其分配ヲ受クル者、金額、通知方法等本店所在地ニ於ケル管轄權ヲ有スル最高裁判
所ノ指定ニヨルヲ要ス

局長ノ拒絕セサル債權ニ對スル他ノ關係者ヨリスル異議ハ書面ヲ以テ局長ニ申出ツルコトヲ得、
局長ハ最高裁判所ニ對スル次ノ配當案提出ノ時ニ之ヲ共ニ提出スルヲ要ス

前項ノ異議ヲ受ケタル裁判所ハ之レニ對シ判決ヲ下スカ或ハ仲裁者ヲ選任シ之ヲ附議ス

前項ノ異議カ裁判ノ結果或ハ仲裁者ニ是認セラレタルトキハ局長ハ債權者カ適當ナル裁判ノ判決
ノ結果是認セラル、迄ハ其債權ノ行使ヲ許サ、ルヲ要ス

法人及個人銀行ニシテ局長ノ差押ヲ受クルトキニ保護預トシテ寶玉、貴金屬製品、通貨、正貨、
地金、株券、公債、諸證書、及其他ノ動産ヲ保有セル場合或ハ金庫、倉庫等ノ賃貸ヲナシ居レル
場合ハ其所有者又ハ借入者ニ對シ六十日以上ノ一定ノ期間ニ於テ保護預ニ對シテハ其預リ物件ノ
引出、賃借者ニ對シテハ其賃貸契約ノ解除スヘキコト且預リ料及賃貸料ノ前拂ヲ受ケタル場合ニ
ハ其料金ノ引出或ハ契約解除以後ノ部分ハ爾後其法人或個人銀行ノ債務トナルヘキ旨書面ヲ以テ
通知セシムルコトヲ得

前項ノ保護預及賃貸ニヨル物件カ前項ノ期間内ニ引出サレサルトキハ局長ハ最高裁判所ノ指定ニ
ヨリテ寄託ヲナスヲ要ス

局長ハ局長自ラ又ハ特別局長代理一人及局長部下ノ公證人ニシテ其清算ヲ受クル法人及個人銀行ノ役員ナラサル又ハ其雇傭ヲ受ケタルモノニアラサル公證人ト共ニ立合ヒタル上金庫倉庫等ヲ開キ其保管物件ハ公證人封印ヲナシ其引渡ヲ受クヘキ者ニ引渡スカ或ハ裁判所ノ命スル處ニヨリ處分セラル、迄局長之レヲ取纏メテ其法人又ハ個人銀行ノ金庫又ハ倉庫中ニ之ヲ保管スルノ手續ヲナスコトヲ得

會社及個人銀行ニシテ局長ノ差押ニ異議ヲ有スルモノハ其本店所在地所轄最高裁判所ニ對シテ差押ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

前項訴訟ヲ受ケタル最高裁判所ハ局長ノ意見ヲ徵シ一方訴訟提起者ニ付事實ヲ探究シタル上之レヲ却下スルカ又ハ局長ヲシテ其差押ヲ解除セシムルモノトス

局長ハ清算會社銀行ノ債權者又ハ預金者ノ請求權ノ確否及其額ヲ明ニ調査シ未申告及未拂ノ預金及分配金等ニ對スル準備ヲナシ清算ノ費用ヲ支拂ヒ其預金者其他ノ債權者(株主ヲ除ク)ニ支拂ヲ了シタルトキハ本店所在地ノ新聞紙ニ三十日間廣告ヲナシタル後株主總會ヲ招集スルヲ要ス

前項ノ株主總會ニ於テ局長ヲ引續キ清算者タラシムルカ或ハ他ニ清算人ヲ選定スヘキカヲ決定スルヲ要ス

前項ノ決議ハ株主自ラ出席シ或ハ代理人ヲ以テシ一人ニ付投票權一個トシ株主ノ決議權ノ過半数ヲ以テ決ス

局長ノ清算ヲ續行スル決議ヲナセル場合ハ局長ハ清算ヲ遂行シ諸費用ヲ支拂ヒ殘額ヲ最高裁判所ノ命スル方法ニヨリ且報告ヲナシテ各株數ニ應ジテ配當ヲナスヲ要ス

總會カ清算ノ爲メ他ニ清算人(liquidator)ヲ選任スルコトヲ決議シタルトキハ株式ノ過半数ニ當ル株主出席シテ投票ヲ以テ清算人ヲ選任ス

前項ノ選任ニヨル清算人ハ其信託ヲ受ケタル義務ヲ誠實ニ遂行スヘキ旨ヲ記シタル證書ニ擔保物件ヲ付シテ局長ニ提出スルヲ要ス

前項ノ金額及擔保物件ハ局長ノ承認ヲ經タルモノタルヲ要ス

局長ハ殘餘財産ヲ凡テ清算人ニ引渡スコトヲ要シ爾後一切ノ義務ヲ免ル

清算人ハ財産ヲ全部現金ニ換價シ局長カ清算ヲナス場合ト同様ノ規定ニ從ヒテ其配當處分ヲナスヲ要ス但經費ノ支出ハ適當ナル裁判官ヲ有スル裁判所ノ指定ニ從フヲ要ス

清算人ノ死亡、解任、及其任務執行ヲ拒絕セル場合ニハ局長カ之レニ就キテナスト同様ノ廣告ヲナシテ其選任決議方法ト同様ノ決議方法ニヨリ之レカ繼續ヲナス第二ノ清算人ヲ選任スルヲ要ス第二ノ清算人ノ權限義務ハ第一ノ清算人ト同様ナルヲ要ス

局長カ最後ノ分配ノ發表ヲナシタル後六ヶ月ヲ經過スルモ尙未拂トナレル分配金及支拂請求ヲ受ケサル預金ハ其預金者及其他ノ債權者ノ信託ヲ受ケタルモノトシテ局長ノ名ニ於テ州立銀行ニ預入ル、ヲ要ス

局長ハ立法部ニ對シ其差押及清算ヲナセル會社ノ名稱及未タ要求ヲ受ケサル未拂ノ預金分配金額ヲ毎年ノ報告書ニ於テ報告スルコトヲ要ス

局長ハ凡テ債權ノ確證アルモノ、ミニ其支拂ヲナスコトヲ得、其債權ニ疑義ヲ抱クトキハ最高裁判所ノ命令ヲ仰クヲ要ス

局長ハ清算中ノ資金ニ對スル利子ハ凡テ預金者及其他ノ債權者ニ對スル支拂ニ要スル費用ニ充ツルコトヲ得

第二十條 裁判所ノ命令ニヨル検査

一千弗以上ノ額ニ達セル信託會社債權者又ハ株主ハ會社ノ検査ヲ最高裁判所ニ請願スルコトヲ得請願ヲ受ケタル裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ會社ノ營業狀態及投資ノ正否ヲ確ムル爲メニ仲裁人 (Arbitrator) ニ命ジテ検査ヲナサシム

検査ノ結果ハ仲裁人ノ意見ト共ニ裁判所ノ指定スル方法ニヨリ公告スルヲ要ス
裁判所ハ検査費用及廣告ノ費用支出ニ關シテ命令ヲナスコトヲ要ス

第二十一條 報告

本法ノ適用ヲ受クヘキ會社及個人銀行ハ報告書ヲ局長ニ提出スルヲ要ス、報告ノ内容及形式ハ局長之ヲ定ムヘク尙本條規定ノ條項ハ必ス之レヲ記載スルヲ要ス

局長ハ三ヶ月ニ一回以上銀行信託會社及個人銀行ニ營業報告ノ提出ヲ命ジ其提出ノ期日ヲ指定スルヲ要ス (以下通知ノ方法省略)

銀行信託會社及個人銀行ハ報告書提出ノ指定ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ報告ヲナスコトヲ要ス (以下報告ハ誓書ヲ以テ之レヲ證スルヲ要ス云々省略)

銀行、信託會社及個人銀行ハ報告書ニ法律其他ニヨリ破綻ヲ生セルトキ他ノ預金ニ優先スヘキ預金額ヲ記載スルヲ要ス (以下貯蓄銀行及保護預會社其他ニ關スル規定省略)

第二十二條 報告書ニ關スル罰則

銀行信託會社及個人銀行ハ局長ノ指定ヲ受ケタル提出期日十日以内ニ提出セサルトキ又ハ局長ノ命令ニヨル記載事項ヲ掲載セサリシトキハ其提出ヲナス迄及報告ヲナス迄一日ニ付百弗ノ罰金ニ處ス (以下貯蓄銀行其他ニ關スル規定省略)

會社或ハ個人銀行ニシテ前項ノ罰則ノ適用ヲ受ケテ尙其報告ヲ提出セサルトキハ其營業權ヲ取消シ其營業ノ繼續ヲ禁止スル等支拂不能ニ陥リタル會社及個人ノ場合ト同様ノ處分手續ヲナスヘシ

會社及個人銀行カ本法ノ規定ニヨリ報告ヲ命セラレタル事項ノ報告ヲナサ、リシトキハ局長ハ本法第八條ノ規定ニ從ヒ帳簿、證憑書類及會社及個人銀行ノ營業狀態ヲ検査セシムルヲ要ス

第二十三條 検査ヲナスヘキ帳簿、證憑書類及營業狀態

銀行及信託會社ノ重役會ハ毎年四月及十月ノ二ヶ月ニ各自銀行及會社ノ帳簿、證憑書類及營業狀況ニ付特ニ貸付割引其擔保及副擔保 (Collateral security) 其他局長ノ命スル事項ニ付検査スルカ或ハ三人以上ノ委員ヲ有スル委員會 (Committee) ニ命シテ検査ヲナサシムルヲ要ス重役ハ検査事務ノ補助トシテ助手ヲ使用スルコトヲ得

検査ヲナシタル重役ハ検査終了後十日以内ノ重役會ニ報告書ヲ提出シ之レヲ會社ニ備付ケ複本ヲ銀行局ニ提出スルヲ要ス

報告書ニハ次ノ事項ヲ記載スルヲ要ス

- (一) 資産負債ニ關スル詳細ノ報告、及検査後ニ於テ生シタル資産ノ減少並ニ負債ノ増加
- (二) 缺損ニ歸スヘキ疑アリト認ムル貸付並ニ其理由ノ詳細
- (三) 擔保ノ不充分ナリト認ムル副擔保ニテナセル貸付ニ付口數及其金額副擔保物件ノ名稱及市價アルトキハ其市價、市價ナキトキハ其理由及其實際ノ價格
- (四) 當座貸越中ノ缺損ニ歸スル虞アルモノ

(五) 其他缺損ヲ來タス虞アル事項

銀行及信託會社ノ重役ハ指定ヲ受ケタル期日及形式ニヨリ其検査報告書ヲ提出セサルトキハ提出ヲナス迄一日ニ付百弗ノ罰金ニ處ス

前項ノ罰則適用ノ請求ハ検査總長ノ訴訟ニヨルヲ要ス

第二十四條 報告書ノ公告

局長ハ本法第二十一條規定ノ報告ヲ受ケタル後三十日以内ニ法律上州官吏カ公告ヲナスコトヲ命セラレタル新聞ニ會社ト個人銀行トヲ項ヲ分チ個々ノ營業所名及營業所及其社員 (Generalpart) 氏名住所ヲ記シテ其報告書ノ要領ヲ公告スルヲ要ス

其報告書ノ摘要中ニハ資本金、兌換券、預金、正貨現金、有價證券其他ノ諸證書、其他財産狀態ニ關シ公衆ニ發表スルノ必要アル事項及局長カ特ニ其掲載ヲ必要ナリト認ムル事項ヲ包含スルヲ要ス

本法第二十一條規定ノ報告書ハ會社及個人銀行モ亦自ラ其本店所在地ノ新聞紙一種以上ニ掲載スルヲ要ス本店所在地ニテ發行スル新聞ナキトキハ其最モ近接セル地方ノ新聞ニヨル

第二十五條 局長ノ年報

局長ハ每期議會ノ開會ノ當時ニ於テ立法部ニ對シテ其監督ヲナス會社及個人銀行ニ關スル報告及

其一ヶ年間に營業ノ認可ヲ與ヘタルモノ、商號營業所、同年中ニ營業閉鎖セルモノニ關スル事項
本法ノ改訂ニ關スル局長ノ希望、局長ノ部下及其經費ニ關スル事項等ノ報告ヲ提出スヘキコト、
(其他ノ規定省略)

第二十六條 局長ノ報告ハ推定的證據タルコト

(局長ノ報告書カ訴訟其他ノ場合ニ證據タルコト云々省略)

第二十七條 制限

第一、銀行又ハ信託會社ハ同一個人會社其他ノ一法人及組合ニ對スル貸出高其拂込資本金及積
立金剩餘金ノ十分ノ一以下タルヲ要ス但最近ノ州或ハ合衆國々勢調査ニヨル人口百八十萬以上
ノ Borough ニ其本店ヲ有スル銀行及信託會社ハ一個人一會社、其他ノ一法人及組合ニ對シテ拂
込資本金及剩餘金ノ百分ノ二十五以內ニ於テ其他ノ地ニ本店ヲ有スルモノハ拂込資本金及剩餘
金ノ百分ノ四十以內ニ於テ擔保付貸付ヲナスコトヲ得但其擔保價格ハ貸付金額ヲ一割五歩以上
超過セルモノタルヲ要ス

銀行又ハ信託會社カ拂込資本金及剩餘金ノ十分ノ一ノ一般貸付ヲナシタルトキハ前項人口百五
十萬以上ノ Borough ニ本店ヲ有スル銀行及信託會社ノ貸付金額ヲ一割五歩超過スル價格ヲ有ス
ル擔保物件ニテ貸付ヲナシ得ル額ハ拂込資本及剩餘金ノ百分ノ十五ニ止マル其他ノ地ニ本店ヲ
有スルモノハ百分ノ三十ニ止ル、最近ノ州又ハ合衆國々勢調査ニヨル人口百八十萬以上ノ
Borough ヲ有スル市ニ本店ヲ有スル銀行或ハ信託會社ハ拂込資本及剩餘金ノ百分ノ二十五以內
又人口百八十萬以上ノ Borough ヲ有スル市以外ノ地ニ本店ヲ有スル銀行或ハ信託會社ハ拂込資
本及剩餘金ノ百分ノ四十以內ニ於テ個人、會社、其他ノ法人或ハ組合ニ對シテ實際ノ取引ニ基
キテ振出サレタル爲替手形、實際取引ヲナセル者ノ手ニヨル商業手形等ニ對スル貸出等ヲナス
コトヲ得

合衆國、紐育州郡其他 Incorporated City 等ヲ除ク個人、會社、法人、或ハ組合等ノ銀行或ハ信
託會社ニ對スル負債總額ハ最近ノ合衆國或ハ州ノ調査ニカ、ル人口百八十萬以上ノ Borough ヲ
有スル市ニ本店ヲ存在スル銀行或ハ信託會社ナルトキハ各銀行或ハ信託會社ノ拂込資本及剩餘
金ノ百分ノ二十五、是等ノ市以外ニ本店ノ存スルモノニアリテハ百分ノ四十五ヲ超過スルコト
ヲ得ス

第二、銀行及信託會社ハ次ノ四個ノ場合ニハ數人ノ個人及數個ノ組合或ハ數個ノ法人ニヨリテ個
個ニ其一部分宛ヲ支拂ハルヘキ一個或ハ數個會社ノ下引受アル貸付ヲナスコトヲ得ス

(a) 借受人或ハ下引受人カ貸付金ノ擔保物件ヲ必然的或ハ偶發的ニ買入ルヘキ義務ヲ有スル場合
ニシテ借受人或ハ下引受人カ未タ其買入ノ爲メ支拂フヘキ額ノ二割五分以上ニ當ル現金或ハ

之ニ準スヘキモノヲ以テ拂込ヲ了セサル場合

(b) 此種ノ貸付ヲナス銀行又ハ信託會社カ其貸付ノ償還ニ就テ直接間接或ハ偶發的ニ債務ヲ負フ場合

(c) 明示又ハ默示ヲ以テ其貸付期限ノ延長ヲ契約スルトキ其期限ヲ一年以上トスル場合

(d) 如何ナル場合ト雖其貸付金額カ銀行或ハ信託會社ノ拂込資本及剩餘金ノ二割五分ヲ超過スル場合

第三、貯蓄及貸付組合ヲ除ク外ノ本法ノ適用ヲ受クヘキ法人ハ已ニ第一抵當其他ノ擔保權設定セラレタル不動産又ハ他ノ負擔アル不動産ニ對スル貸出ハ其第一抵當其他ノ擔保權等ニヨル現存債務總額カ其法人ノ資本金及剩餘金ノ十分ノ一ヲ超過スルカ或ハ此種ノ不動産ニ對シテナシタル貸付總額及其不動産ニ對スル已存ノ負債額ノ合計カ其法人ノ重役會或ハ受託者ニヨリテ評價セラレタル其不動産價格ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス

但已ニ取引ヲナシタル貸付金ニ對スル擔保トシテ前項ノ不動産ノ提供ヲ受クル場合ニハ前項ノ制限ヲ適用セス

抵當權ノ設定並ニ抵當權ノ讓渡ハ凡テ抵當物件ノ所在地ニ於ケル郡役所ニ於テ登記スルヲ要ス千九百〇八年十一月一日以後ニ於テ本州内ノ市内ニアル最近ノ合衆國又ハ當州ノ調査ニヨル人

口百八十萬以上ノ Borough 本本店ヲ有スル銀行ハ直接タルト間接タルト問ハス其資産總額ノ一割五歩以上ノ不動産抵當貸付ヲナスコトヲ得ス

當州或ハ合衆國最近ノ調査ニヨル人口千五百以下ノ村ニ本本店ヲ有スル銀行ニシテ同村内ニ貯蓄銀行ノ設ナキトキハ其不動産擔保ニテナシ得ル貸付額ハ全資産四割以下トス

前二項以外ノ地ニ本本店ノ存在スル銀行ハ其不動産擔保貸付ハ全資産ノ合計ノ二割五分以下トス

第四、不動産抵當貸付及投資會社ヲ除ク本法ノ適用ヲ受クヘキ法人又ハ其重役代理人使用人ハ其法人カ發行シタル約束手形其他ノ負債ヲ示ス諸證券ヲ直接タルト間接タルト問ハス其額面以下ニ買取ルコト及其買入ニ關係スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタルモノハ其買入レタル約束手形其他ノ證券ノ額面額ノ三倍ノ罰金ニ處セラル

第五、本法ノ適用ヲ受クヘキ法人カ他ノ金融會社ニ其資金ヲ預入ル、場合ハ其重役或ハ受託者(但其重役或ハ受託者ニシテ委託會社或ハ受託會社ノ業務執行ノ任ニ當レル重役及受託者ナルモノハ之ヲ除ク)ノ多數決ニヨリテ選定セラレタル金融會社タルコトヲ要ス

第六、本法ノ適用ヲ受クヘキ法人ノ重役、支配人其他ノ使用人、代理人、其他營業ニ關係ヲ有スルモノハ直接タルト間接タルト問ハス其會社ニ對シテ割引ノ依頼ヲ受ケ且之レヲ拒絶セラレ

タルモノナルコトヲ知レル手形其他ノ證書ヲ個人トシテ割引ヲナシ或ハ之レニ對シテ貸付ヲナスコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反セルモノハ其貸出額ノ二倍ノ罰金ニ處セラル

第七、本法ノ適用ヲ受クヘキ法人重役使用人其他代理人ハ重役會ノ多數決ニヨルニアラサレハ其法人ヨリ借入ヲナスコトヲ得ス

重役、使用人又ハ代理人カ他ノ會社ノ株式ノ過半數ヲ有スルトキハ其會社ニ對スル貸出ハ是等ノ重役使用人又ハ代理人ニ對スル貸出ト見做シテ前項ノ適用ヲ受クヘキモノトス

本項ノ規定ニ違反セルモノハ其借入額ノ二倍ノ罰金ニ處セラル

第八、貯蓄及貸付組合ヲ除ク本法ノ適用ヲ受クヘキ法人ハ豫メ善意ヲ以テ取引ヲナセル債權ノ缺損ヲ防ク場合ノ外自己ノ株券ヲ擔保トシテ貸出ヲナスカ或ハ之レヲ買取又ハ所有スルコトヲ得ス債權ノ缺損ヲ防カンカ爲メニ取得シタル場合ニハ六ヶ月以内ニ之レヲ賣却スルヲ要ス

本項ノ規定ニ違反シタルモノハ其取得シタル株券額面額ノ二倍ノ罰金ニ處セラル

第九、本法ノ適用ヲ受クヘキ法人ハ他ノ一金融會社ノ資本金ノ一割以上ニ當ル株式ヲ擔保トスル貸出ヲナスコトヲ得ス

第十、凡ノ銀行ノ重役ハ每半期或ハ年四期毎ニ其純益ノ配當ヲナスコトヲ得但其配當ヲナス以前

ニ資本金ノ百分ノ二十ニ達スル迄其前期末以來ノ純益ノ十分ノ一ノ積立ヲナスヲ要ス

本法施行以前ニ積立タル積立金ハ其資本金ノ二十分ノ一タル額ノ一部ト做ス

各會社ハ其配當ノ發表ヲナシタル日ヨリ十日以内ニ其配當額配當金ヲ差引キタル利益殘額及積立金額ヲ局長ニ報告スルヲ要ス(以下報告書ニ關スル宣誓ノ件省略)

重役カ故意ニ前項ノ規定ニ違反スルカ又ハ其使用人又ハ代理人ノ違反ヲ故意ニ認許スルトキハ其法人營業權其他ノ特權ハ總テ奪ハレ局長ノ起訴ニヨリ本州最高裁判所其違反ヲ決定シ其解散ヲ命スルモノトス

第十一、本法施行以後設立セラル、貯蓄銀行ハ他ノ銀行及國立銀行ト同一ノ營業所或ハ是等ノ營業所ト互ニ相通スル營業所ニ於テ營業ヲナスコトヲ得ス

第二十八條 利益ノ計算

法人及個人銀行ノ未收入利息中本法第二十七條ニ規定シタル擔保物件ニヨル貸付金ニ對スルモノ以外ノモノハ假令期限到來セルモノナリト雖モ配當前ニ於ケル利益中ニ之レヲ加入スルコトヲ得ス

配當計算ヲナシ得ル利益ハ損益勘定ニ於テ實際ノ利益ヨリ次ノ三者ヲ差引キタル殘額トス

(一)營業ノ爲メニ要シタル經常費及特別費ノ已ニ支拂ヒタルモノ及支拂フヘキモノ

- (二) 支拂ヒタル利子及支拂期限到來セルモノ及支拂フモノ
- (三) 總テノ損失

損失ノ計算ニハ訴訟ヲ提起セサル而モ一ヶ年以上利子ノ支拂ナキ期限到來セル債權及債權ニ對スル訴訟カ二ヶ年以上決定セスニ残り居リ且利子ノ拂込マレサルモノ入ル

第二十九條 利益ニ超過スル損失

本法ノ適用ヲ受クヘキ法人及個人ノ損失カ其利益ニ超過スルトキハ資本金ノ缺損 (underwriting) シテ之レヲ處理シ爾後其損失トセルモノカ損失ヲ免レタルカ又ハ利益ノ増加ノ爲メ其資本金ノ缺損カ補填セラル、迄配當ヲナスコトヲ得ス

第三十條 支拂請求ナキ配當金及預金

本州ノ法律ノ下ニ營業ヲナス銀行及個人銀行ハ毎年九月一日以前ニ於テ其所在郡ノ新聞紙及法律ノ規定ニヨリテ州官吏ノ公告ヲナス新聞ニ於テ連續シテ六週間其受入レタル預金及會社ノ株券社債券其他會社ノ負債ヲ表示スル證書ニ對スル配當金或ハ利子ニシテ五十弗以上ニ達シ過去五年間其受取人ヨリ支拂ノ請求ヲ受ケサリシモノニ關シ次ノ各項ニ付キ正實明確ナル公告ヲナスヲ要ス

- 一、預入レノ日
- 二、金額
- 三、預入レヲナシタル者ノ氏名住所
- 四、受取人ノ氏名及其配當

ノ發表及利子ノ支拂ノ期日及金額及其株式社債券其他ノ負債證書ノ番號及金額

公告ノ費用ハ支拂請求ナキ預金、配當金及利子ニ對シ其金額ニ比例シテ課スモノトス (以下貯蓄銀行ニ關スル同様ノ規定省略)

前項ノ法人及個人カ其公告ヲ怠リタルトキハ其遲延ノ日一日ニ付百弗ノ割合ヲ以テ罰金ヲ課セラ

第三十一條 營業所ノ移轉

本法ノ適用ヲ受クヘキ會社及個人ハ同郡内及他郡へ營業所ヲ移轉セントスルトキハ局長ニ認可申請ヲナスヘシ

移轉先カ同一市町村内ナルトキハ局長ノ書面ヲ以テスル認可ノミニテ直ニ變更ヲナスコトヲ得

移轉先カ同一市町村以外ナルトキハ其移轉セントスル旨ノ公告ヲ主タル重役二名ノ署名ヲ以テ其市ニ於テ發行スル新聞紙及局長ノ指定スル其移轉先ノ郡ノ新聞紙ニ一週一回宛二週間公告スルヲ要ス

前項ノ營業所移轉認可申請書ニハ移轉ノ理由ヲ附シ重役會ノ過半数ノ者之ニ署名シ且本法第六章ニ規定セル法人ノ場合ヲ除外總テ法人ノ株式ノ三分ノ二以上ニ當ル株主ノ書面ヲ以テスル賛同ヲ添付スルヲ要ス個人銀行ナルトキハ其個人自ラ署名スルヲ要ス

局長カ其移轉ヲ以テ別ニ不都合ナシト認ムルトキハ認可書ヲ作成シ之ヲ銀行局ニ保管シ其寫ヲ其營業所々在郡ノ郡役所ニ送付シ尙其移轉先カ他郡ナルトキハ其移轉先郡ノ郡役所ニ回付シ然ル後前ニ移轉ノ趣旨ヲ公告セル同一新聞紙ニ每週一回二週間公告スルヲ要ス
前數項ノ要件ヲ充シタルトキハ法人又ハ個人ハ其認可書記載ノ移轉日以後ニ於テ移轉ヲナスコトヲ得(以下移轉後ト雖モ其權利義務ニ何等ノ變更ナキコト等省略)

第三十二條 設立ニ關スル局長ノ認可及證明

局長ノ認可書並ニ其法人カ本法並ニ本州ノ法律ノ規定ヲ遵奉シ且特ニ特殊ノ業務ヲ營ムコトノ認可ヲ得且其業務ヲ營マシムルニ適セルモノナリトノ局長ノ證明書ヲ有スルニアラサレハ本法ノ適用ヲ受クヘキ法人ノ設立ヲナスコト及ヒ本州内ニ於テ其設立ニヨリ當然營ムコトヲ得ヘキ營業以外ノ營業ヲナスコトヲ得ス

前項ノ證明書ハ銀行局ニ於テ登錄シ其局長ノ署名アル寫ヲ其法人ノ本店ノ所在地管轄郡役所ニ備ヘ置クヲ要ス

(第三十三條以下三十五條迄他州及外國法人及個人ニ關スルモノ省略)

(第三十六條以下四十條迄本法ノ適用ヲ受クヘキ法人ノ合併ニ關シ合併ハ本法ノ規定ニ從フ外局長ノ認可ヲ經ヘキコト株主總會ノ承認ヲ經ルコト株主ノ權利、合併ノ結果債權者ノ權利等ノ

規定省略)

第四十一條 銀行局ヨリノ命令書其他

銀行局ヨリ銀行貯蓄銀行及信託會社ニ對シ局長カ其検査ノ結果等ニ關シテ或ハ是等銀行會社ノ業務ニ關スル通知或ハ其營業ニ關スル命令注意等ヲ與ヘタルトキハ是等ノ銀行及會社ノ業務執行ヲナス重役ハ次ノ重役會又ハ其受託者會ニ之ヲ提出スルヲ要ス

第四十二條 重役會或ハ受託者會並ニ之ニ對スル報告

本法ノ適用ヲ受クヘキ法人ノ重役又ハ受託者ハ毎月一回定期會合ヲ催スヲ要ス
重役會又ハ受託者會ハ處務細則ノ規定ニヨリ役員ヲ選任スルヲ要ス
前項ノ役員ハ重役會又ハ受託者會ニ於テ其役員受託者又ハ五人以上ヨリ成ル業務執行役員會ニ對シ前會合以後ニ於ケル有價證券ノ賣買額一千弗以上ノ割引貸付貸越等及貸出ニ對スル擔保物件等ヲ記載シ尙其取引者ニシテ其者ニ對スル貸付割引及貸越等カ前會ノトキヨリモ一千弗以上増加セルモノニ對スル貸付、割引及貸越總額並ニ是等貸出ニ對スル擔保品ニ關スル説明ヲ付セル報告書ヲ提出スルヲ要ス

前項ノ報告書ノ寫ハ其出席重役ノ氏名表ト共ニ其報告書提出ノ義務ヲ有スル役員署名シテ其記載事項ヲ證明シ會社ノ記録中ニ保存スルヲ要ス

第四十三條 (本法ノ適用ヲ受クヘキ法人及個人ノ興廢其他ニ關スル事項ヲ一週間宛銀行局ニ於テ公衆ノ爲メ揭示スルコト並ニ是等揭示事項ハ之ヲ整理シ置キ一般公衆ノ閱覽ニ供スヘキコト等省略)

第四十四條 裁判所ニ支拂ヒタル資金ノ受寄者タル銀行ノ擔保提供並ニ利子支拂

裁判所ニ拂込マレタル資金ノ受寄者トシテ州會計官ニヨリ選任セラレタルモノハ其預金ニ對シテ適當ノ利子ヲ支拂フヲ要ス

受寄者ハ其預金ノ受入前ニ檢事總長ノ指定スル形式ニヨリ且ツ其受寄者タル貯蓄銀行、銀行及信託會社銀行組合及個人銀行ノ存在スル郡ノ郡裁判所並ニ會計官ノ承認セル形式ノ證書 (indemnity certificate) ヲ提供スルヲ要ス

右證書ニハ州財政法ノ第八條ニヨル證書ヲ擔保トシテ添付スルヲ要ス

第四十四條 裁判所ニ支拂ハレタル資金ノ受寄者トシテ指定セラレタル銀行ハ一定ノ内容ヲ備ヘタル帳簿ヲ備フルコトヲ要ス

第五章 信託會社法

第八十條 信託會社ノ設立

第八十一條 設立目論見書ノ公告

第八十二條 設立契約書ノ受理

第八十三條 銀行局長調査并ニ設立ノ認可

第八十四條 資本金ノ拂込

第八十五條 株主名簿ノ提出

第八十六條 營業權其他ハ權利義務

第八十七條 特權ヲ有スル信託會社

第八十八條 位置ニヨル權限ノ増加

第八十九條 官選遺產清算、後見遺產保管

第九十條 信託事務取扱ニ關スル擔保提供、信託資金ニ關スル優先權

第九十一條 信託會社ノ宣誓ヲ要セサル場合

第九十二條 未青年者ノ預金及信託資金ノ預入

第九十三條 資本金剩餘金及預金ノ投資方法

第九十四條 信託資金ニ對スル利子及其元本ヘノ組入

第九十五條 重役

第九十六條 株主及重役ノ義務

第九十七條 特別法ニヨリ設立セラレタル信託會社ノ權限

第九十八條 法定支拂準備金

第八十條 信託會社ノ設立

信託會社ノ設立者ハ十三人ヲ下ルコトヲ得ス

設立者ハ左ノ事項ヲ記載セル設立契約書ニ通テ作成シ六十日以内ニ其一通ヲ設立地ニ於ケル郡役所ニ他ノ一通ヲ州銀行局長ニ提出スルヲ要ス

- (1) 會社ノ商號
- (2) 營業所
- (3) 資本金額及株式數
- (4) 設立者ノ氏名住所並ニ郵便指定受信地
- (5) 五十ヶ年以下ノ存立期限
- (6) 設立者ノ重役ニ選任セラレタルトキハ重役トシテノ總テノ責任ヲ負擔シ誠實ニ其職務ヲ實行スヘキ旨ノ宣誓

信託會社ノ資本金ハ五十萬弗トス但シ人口十萬以上二十五萬以下ノ市ニアリテハ二十萬弗、二萬五千以上十萬以下ノ市ニアリテハ十五萬弗、二萬五千以下ノ市或ハ町ニアリテハ十萬弗迄下スコトヲ得

市及町ノ人口ハ最近ノ合衆國或ハ紐育州人口調査ニヨル

(參照)

設立者ノ資格ニ付テハ一般會社法第四條參照、株主ノ投票權ニ付テハ同第二十三條參照、株主代理人、重役ノ選舉ニ付テハ同第二十六條以下三十條參照

第八十一條 設立目論見書ノ公告

設立契約書提出以前ニ其設立セントスル旨ヲ每週一回以上四週間其設立セントスル地ニ於ケル銀行局長ノ指定スル新聞紙ニ公告スルヲ要ス

公告ニハ設立者ノ氏名、會社ノ商號及營業所々在地名ヲ記載スルコトヲ要ス

設立セントスル地ニ於テ營業ヲナス已設信託會社アルトキハ其公告ノ寫ヲ設立契約書提出ノ十五日以前ニ於テ配付スルヲ要ス

第八十二條 設立契約證書ノ受理

銀行局長カ設立契約證書ノ提出ヲ受ケタルトキハ其形式、記載事項並ニ提出方法カ本法ノ規定ニ抵觸スルカ或ハ公告及通知カ本法ノ規定ニ從ハサリシトキハ銀行局長ハ之カ訂正セララル迄受理

セサルコトヲ要ス

設立契約證書カ適法ナル形式内容ヲ有シ其公告通知及提出ノ方法カ適法ナルトキハ銀行局長ハ之レニ「調査ノ爲メ受理ス」トノ裏書ヲ其日付ト共ニ記入スヘシ

第百八十三條 銀行局長ノ調査並ニ設立ノ認可

銀行局長設立契約證書ノ受理ヲナシタルトキハ其設立者ノ信用カ設立地ニ於ケル社會ノ信用ヲ受クルニ充分ナルヤ否又其設立ニヨリ社會ノ福利カ増進セラルルヤ否ニ付出來得ル限ノ方法ニヨリテ調査スルヲ要ス

銀行局長カ調査ノ結果其設立ヲ適當ナリト認メタルトキハ設立契約證書提出後六十日以内ニ於テ本法規定ノ設立認可書ヲ作成シ之レヲ郡長ニ送付ス郡長ハ之レヲ設立契約證書ト共ニ設立登記簿ニ登記シ銀行局長ハ其複本ヲ保管スルヲ要ス銀行局長カ調査ノ結果其設立ヲ不適當ナリト認ムルトキハ設立契約證書受理ノ日ヨリ六十日以内ニ其設立不認可ノ旨ヲ郡長ニ通知シ郡長ハ設立契約證書ト共ニ登記スルヲ要ス

第百八十四條 資本金ノ拂込

銀行局長ハ設立認可書下付以前ニ會社ノ資本金カ現金ニテ拂込マレタルヤ否ヤヲ調査シ其拂込カ不完全ナルトキハ認可ヲナスコトヲ得ス而シテ設立認可アル迄ハ會社ハ其業務ヲ開始スルコトヲ

得ス

第百八十五條 株主名簿ノ提出

會社ハ營業開始以前ニ株主ノ氏名、住所、郵便指定受信地、各所有株式數等ヲ記載セル株主名簿ヲ作成シ重役二名署名シテ銀行局長ニ提出スルヲ要ス

第百八十六條 營業權其他ノ權利義務

信託會社カ設立認可ヲ受ケタルトキハ其認可書ニ記名シタルモノ及其後繼者ハ法人トナリ爾後信託會社トシテ普通會社法及株式會社法ニヨリテ得ル權利ノ外ニ次ニ列舉スル營業ヲナス權利ヲ取得ス

(1) 州、自治體、其他ノ公私法人ノ收支事務代理人及受渡事務代理人トシテ現金ノ出納株式社債其他ノ諸證券ノ受渡登錄、書換等並ニ紐育州内及其他内外國法人ノ適法ナル代理事務取扱

(2) 個人又ハ法人ヨリスル現金諸證券其他動産ノ信託ヲ受クルコト及動産不動産ニ對スル貸付金

(3) 營業上必要ナル爲メ或ハ會社ノ目的上必要ナル爲メ又ハ賣買裁判ノ結果其他抵當貸付等ノ事由ヨリスル債權ノ全部又ハ一部ノ實行ノ爲メ或ハ貸付ノ一部或ハ全部ノ償還ノ爲メニスル不動産ノ借入所有、買入、所得

(4) 自治體其他公私法人ノ抵當借入及社債發行ノ場合ニ於ケル受託、及公私法人ニ關スル當州法律

ノ認ムル範圍内ニ於ケル他ノ信託ノ受託又ハ清算事務取扱

(5) 妻タル婦人ノ財産ニ關スル信託ノ受託又ハ清算事務取扱並ニ其財産管理又ハ其財産ニ關スル取引ノ代理

(6) 裁判所ノ命令或ハ選任ニヨル未成年者ノ後見人、及其財産ニ關スル保管又ハ清算事務取扱並ニ未成年者其他ノ個人、法人、團體等ノ爲メ裁判所ニ支拂ハレタル現金ノ寄託ヲ受クルコト

(7) 裁判、個人、公私法人等ニヨリテ賦與セラレタル權限ニ基キテ動、不動産ノ所有管理、處分ニ關スル裁判所ノ選任ニヨル信託 (Trust) 其他權利義務ノ行使

(8) 個人、團體、公私法人ヨリ贈與、讓渡、遺贈、其他ノ原因ノ爲メ或ハ裁判所及遺言ニ關スル裁判官ノ命令ニヨリ託セラレタル總テノ信託ノ受託其他權利義務行使ノ受任及之等信託ニ基ク動、不動産ノ受入及保有

(9) 株式、爲替手形、社債、不動産擔保貸付ニ關スル證券、其他ノ證券ノ賣買、借入金預金、及投資ノ爲メニスル委託ヲ受ケテ受入レタル資金ニ對スル預證書ノ發行、但シ通貨トシテ流通スヘキ證券ノ發行ヲナスコトヲ得ス

(10) 死者ノ財産ニ關シ遺言ニ基ク清算、遺産管理又ハ遺言ノ存スル或ハ存セサル官選遺産清算事務及瘋癲、白痴、心神喪失者、酒精中毒者等ノ保佐人タルコト

(11) 本法第七十四條、第七十五條ニヨリ銀行、個人銀行ニ對シテ與ヘタル權利及其制限ハ之レヲ信託會社ニモ適用ス個人ニ取リテ不法ナル取引又ハ信託ノ受託ハ信託會社モ亦之レヲ營ムヲ得ス直接タルト間接タルトヲ問ハス重役一人ニ對シ資本金ノ十分一ヲ超過スル貸付ヲナスヲ得ス重役ニ對スル貸付ハ重役會ノ多數決ニヨルヲ要ス

紐育州銀行局長ノ命令ニヨルニアラサレハ裁判所ニ支拂ハレタル資金ノ受託者トナルコトヲ得ス

設立認可書又ハ設立特許ニ記載アル以外ノ市ニ於テ支店ヲ設クルコトヲ得ス但シ資本金及積立金ヲ合セテ五百萬弗ヲ超過スル場合ニハ紐育州以外ノ他ノ州及外國ニ支店ヲ設クルコトヲ得

支店ノ設置ニハ銀行局長ノ書面ヲ以テスル認可ヲ受クルコトヲ要ス
銀行局長ハ其支店ノ設置ニヨリテ當州ノ福利ノ増進セララルヘキコトヲ確メタル後ニアラサレハ認可ヲナスコトヲ得ス

支店ノ設置ニハ現金ニテ拂込マレタル資本金カ會社設立ニ關スル法律ノ資本金制限額ヲ支店一ケ所ニ付十萬弗ヲ超過スルコトヲ要ス

文書ヲ以テスル認可ナクシテ支店ヲ設ケテ營業ヲナセル信託會社ハ其營業ヲ繼續スル間一週間毎ニ一千弗宛ノ罰金ニ處セラル

當州以外ノ内外國會社ハ當州内ニ於テ本條第二項第三項及第九項以外ノ各項ニヨル個人會社其他ヨリ信託資金諸證券其他動産等ノ受入レヲナスコト及直接タルト間接タルトヲ問ハス此種ノ營業ヲナス支店其他ノ營業所ヲ當州内ニ設クルコトヲ得ス但シ當州ニ於テ設立セラレタル遺產清算財產管理等ノ事務取扱ヲナス信託會社ノ營業ヲナスコトヲ許セル他ノ州ニ於テ設立セラレタル此種ノ信託會社ハ當州内ニ於テ之レト同様ノ事務取扱ノ任命ヲ受クルコトヲ得

此場合ハ當州銀行局長ヲ其代理人トナシ其會社ノ遺產清算人及財產管理人等ノ責務ニ關シテ訴訟其他ノ法律問題ニ關シ其衝ニ當ラシムルヲ要ス
前項ノ會社ハ銀行局長ニ對シ會社責任者ノ署名シタル設立認可書ノ寫及其本店ノ郵便受信指定地及銀行局長ヲ會社ノ代理人トナス旨ノ委任狀ヲ提出スルヲ要ス
銀行局長ハ其代理人トシテ事件ノ生セル場合ニハ遲滯ナク其本店ニ對シテ之レヲ通知スルヲ要ス

本州以外ノ地ニ於テ設立セラレ本州内ニ於テ遺言及遺言書ニヨル遺產清算及財產保管ノ事務取扱ノ任命ヲ受クルノ權限ヲ得タル信託會社ハ當州内ニ於テ直接タルト間接タルトヲ問ハス支店或ハ代理店ヲ設置シ或ハ遺產清算及財產管理ノ爲メ顧客ノ勸誘ヲナスコトヲ得ス
前項ノ規定ニ違反シタルトキハ銀行局長ハ其任命ヲ得タル權限ノ取消ヲナスコトヲ得

第百八十七條 特權ヲ有スル信託會社

本法ニヨリテ設立セラレタル次ノ三種ノ信託會社ハ本法ノ一般規定ニヨリ賦與セラル、權利ノ外尙定款ノ定ムル所ニ從ヒテ貸付金證書、抵當權證書、寶石、株券其他一切ノ證券類及其他ノ動産等ノ保護預リ並ニ金庫ノ貸付ヲナスコトヲ得

- (1) 人口六十萬以下三十萬以上ノ郡ニ本店ヲ有シ資本金五十萬弗以上ヲ有スル信託會社
- (2) 人口三十萬以下六萬五千以上ノ郡ニ本店ヲ有シ資本金二十萬弗以上ヲ有スル信託會社
- (3) 人口六萬五千以下五萬以上ノ郡ニ本店ヲ有シ資本金十萬弗以上ヲ有スル信託會社

前項ノ人口ハ最近ノ紐育州或ハ合衆國ノ調査ニヨルモノトス
前項第一種ノ信託會社ハ不動産ニ關スル權利ノ歸屬ヲ調査シ之レニ關スル各種ノ報告ヲナシ又不動産ノ關係者ニ對シ其不動産ニ對スル權利ノ缺陷及其他ノ負擔ヨリスル損害ノ保證 (Insure or Guarantee) ヲナスコトヲ得

前三種ノ信託會社ハ裁判所ノ任命ニヨル後見人、遺產管理人及遺產清算人及之カ任命ノ權限ヲ有スルモノ、選任ニヨリ或ハ其同意ニヨリ之レニ代リテ或ハ之レト共同シテ後見、遺產管理及遺產清算ノ事務取扱ヲナスコトヲ得但其主ナル受益者及裁判所其任命ヲナセル裁判官カ適當ナリト認ムル及其信託財產ニ關係ヲ有スルモノ、同意ニヨリ其他ノ其信託ノ財產ニ關係ヲ有スル者ニ對シ

法律ノ定ムル所ニ從ヒテ其受任ノ旨通知スルヲ要ス

前項ノ選任ヲ受ケタル信託會社ハ信託契約ノ基礎トナルヘキ或ハ後見人ノ指定ヲナス其他法律ノ定ムル遺言證書或ハ契約ノ條項中ニ報酬ヲ受クル權利ヲ有スルモノトシテ指名セラレタル者以外ニ之レニヨリテ報酬ヲ享クル者ヲ増加スルコトヲ得ス

一個人カ裁判所ノ命令ニヨリテ遺言證書ヲ伴ヘル或ハ伴ハサル後見人、遺產管理人、遺產清算人トシテ本條ノ信託會社ト共同選任ヲ受クル場合ハ其個人ハ信託會社其他ニ對シテ其信託財產ノ保管ヲナサシムルモノトシ又其個人ヲシテ其任命ヲナス裁判所或ハ裁判官ノ命スル特定ノ擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第百八十八條 位置ニヨル權限ノ増加

本法ニヨリテ設立セラレ最近ノ州ノ調査ニヨル人口八十萬以上百萬以下ノ市ニ接近セル町ニ本店ヲ有シ且資本金二十五萬弗以上ヲ有スル信託會社ハ本法ニヨリテ與ヘラル、一般ノ權利以外ニ尙其定款ノ定ムル所ニヨリ公債不動産擔保ニ關スル諸證券、寶石、貴金屬成作品、株券、其他ノ貴重品ノ保護預リ不動産ニ關スル權利ノ調査ヲナシ之レカ報告ヲナシ不動産ニ關スル利益關係者、不動産擔保關係者ニ對シ之等ニ關スル權利ノ缺陷其他ノ負擔ヨリスル損失ヲ保證スルコトヲ得

第百八十九條 遺產清算人、破產管財人及受託者タルノ權

信託會社カ遺言 (last will or testaments) ニヨリ遺產清算者トシテ指定セラレ適法ナル申請アルトキハ當州ニ於ケル遺言證書賦與ノ權利ヲ有スル裁判所其他ノ官吏ハ其會社ニ其任命書 (letters testamentary) ヲ賦與スルヲ要ス

遺言書ノ有スル死者ノ財產ニ對スル官選遺產清算任命書ノ賦與ヲナスコトヲ得ル裁判所或ハ其他ノ官吏ニ對シ信託會社ヨリ遺產清算者タルノ任命申請アル場合他ニ適當ナル指定ヲ受ケ而シテ好意ヲ有シ且其任ニ對スル能力ヲ有ス者ナキ場合ハ其裁判所其他ノ官吏ハ其信託會社ニ對シテ遺產清算者タルノ任命書ヲ賦與スルコトヲ得

未成年者ノ後見任命書賦與ノ權限ヲ有スル裁判所其他ノ官吏ハ後見人選任ニ關スル法律ノ規定ニヨル手續ニヨリ後見人トシテ信託會社ヲ任命スルコトヲ得

瘋癲、白痴、酒精中毒者等ノ財產管理者、後見人、破產管理者、保佐人及其他ノ信託ヲ必要トスル場合之等ノ者ヲ選任スル權ヲ有スル裁判所ハ之等ノ業務取扱ノ爲メ信託會社ヲ選任スルコトヲ得

裁判所ノ命令或ハ判決ニヨリテ裁判所ニ提供セラレタル資金ハ民事訴訟法ノ規定ニヨリ紐育州會計官ノ指定セル信託會社ニ預入ル、コトヲ得

第百九十條 信託會社ニ關スル擔保提供並ニ信託資金ニ關スル優先權

信託會社ハ總テノ信託ノ受託及遺產清算者、官選遺產清算者、後見人、遺產管理者、破産管財人、保佐人、信託資金ノ受寄者等ノ事務取扱ノ受任ニ關シ左ノ二個ノ場合ヲ除ク外擔保ノ提供ヲ要セス

- (1) 選任ヲナシタル裁判所其他ノ官吏カ適當ナリト認ムル請求ヲ受ケタルトキハ適當ナリト認ムル擔保ノ提供ヲ命スルコトヲ得會社カ其提供ヲナサ、ルトキハ之レヲ解任スルコトヲ得
- (2) 裁判所ニ支拂ハレタル資金ノ受寄者トシテ選任セラレタルトキハ其預金ノ受入ヲナス以前ニ於テ本法第四十四條ノ規定ニヨリ擔保ヲ提供スルコトヲ要ス

本法ニヨル信託會社及千八百九十二年五月十八日以前ニ特許ニヨリ設立セラレタル信託會社カ受入レタル資金ノ投資ニ關シテハ其投資カ財産管理者、遺產清算者、官選遺產清算者、後見人、破産管財人、保佐人、信託資金ノ受寄者等ノ事務ヲ個人カ取扱ヘル場合ト同様ニ正當ナルモノナリト裁判所ニヨリテ認メラル、ニアラサルカ或ハ信託關係ヲ構成シ且限定スル證書或ハ遺言ニヨリテ許サレタル範圍内ノモノニアラサレハ會社ハ之ニ對シテ全責任ヲ負ヒ其損失ニ對シテハ全財産ヲ以テ之レニ充ツルヲ要ス

立法府或ハ裁判所ニヨリテ解散ヲ命セラレタルトキハ信託會社カ遺產清算者、官選遺產清算者、遺產保管者、破産管財人、保佐人、信託資金ノ受寄者等ノ資格ニ於テ取扱ヘル事務ヨリスル負債

ニ就キ其債權者ハ他ノ債權ニ優先スル權利ヲ有ス

裁判所及關係官吏ハ遺產清算者、官選遺產清算者、後見人、遺產管理者、破産管財人、保佐人、及信託資金ノ受寄者等ノ事務ヲ取扱フ信託會社ニ對シ自然人カ之レヲ行フ場合ト同様ノ計算書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第九十一條 信託會社ノ宣誓ヲ要セサル場合

信託會社カ遺產清算者、官選遺產清算者、後見人、遺產管理者、破産管財人、保佐人等ニ選任セラレタル場合ニハ宣誓ヲナスヲ要セス

第九十二條 未成年者ノ預金及信託預金

未成年者ノナシタル預金及未成年者ノ爲メニナサレタル預金ハ預金者ノ特別ノ優先的利益ノ爲メニ保管サルヘク債權者以外ハ何人モ之カ管理ヲナスコトヲ得ス、且期限ノ到來ヲ俟チテ配當利益及利子トトモニ預金者ニ返還スヘシ而シテ預金者カコノ預金受領ノ承認書ヲ與ヘタルトキハ信託會社ハ其預金ニ對スル責任ヨリ全ク免除セララル、モノトス

第三者ノ爲メニナサレタル信託預金ニツキ特別ノ意思表示ナキトキハ信託者カ死亡ト同時ニ其預金ニ對スル配當又ハ利子ヲ附シテ受益者ニ返還スルコトヲ要ス

第九十三條 資本金剩餘金及預金ノ投資方法

信託會社ノ資本金ノ投資ハ次ノ物件ニ限ル

(1) 社債 (bonds) 抵當證券及負擔ナキ不動産 (其價格ノ六割以內)

(2) 本州及合衆國及法律ヲ以テ其發行權ヲ賦與セラレタル當州内ノ郡及市 (Incorporated City) ノ發行スル公債

信託會社ノ法定投資タル社債及公債ハ其原投資價格毎期減價銷却ヲ行ヘル以上ノ價格ヲ以テ其帳簿或ハ銀行局長ニ對スル報告ニ記入スルコトヲ得ス而シテ各證券其満期日ニ至リテ其帳簿價格ヲ額面額ト同様ニナス様銀行局長ノ認可ヲ得タル方法ニヨリテ漸次買入價格ノ打歩ヲ銷却シ割引ヲ補足スルコトヲ要ス

信託會社ハ信託ノ爲メ受入ヲナセル資金ハ資本金ノ法定投資物件或ハ合衆國各州ノ州債、其他適當ナリト信スル總テノ動不動産ニ投資スルコトヲ得

信託會社ハ其資本金積立金、剩餘金ノ合計ノ一割以上ニ當ル營利法人ノ株式ヲ保有スルコトヲ得ス

信託會社ハ保險及金融會社 (Monied Corporation) ノ株式ヲ保有スルニ當リ其會社ノ資本金ノ一割以上ニ及フコトヲ得ス但其株式カ保護預會社ノ株式ニシテ其金庫カ其信託會社ノ營業所ト隣接シ關係ヲ有スルモノナルトキハ此限ニアトス

千九百八年四月十三日ニ於テ保險及金融會社ノ資本ノ一割以上ニ當ル株式ヲ保有セル信託會社ハ其一割ヲ超過スル部分ヲ賣却其他ノ方法ニヨリ處分スルヲ要ス

本條ハ千九百八年ノ Chapter 121 ニヨリテ訂正セラレタルモノナルカ其訂正ノ目的ハ信託會社ノ資本金ヲ形成スル有價證券ノ評價ヲ規定シ私益法人ノ株式所有ノ制限ヲ規定セントスルニアリ
信託會社ハ何等ノ目的ヲ以テスルモ其資本金ノ投資タル有價證券ヲ質入スル供ト能ハス常ニ會社ニ所持スルコトヲ要ス

第九十四條 信託資金ニ對スル利子及其元本ヘノ組入

裁判所其他ノ官吏ニヨリテ遺產清算、官選遺產清算後見、遺產保管及破産管財或ハ保佐人等ノ事務取扱者トシテ選任セラレタル信託會社カ此等ノ資格ニ於テ受入レタル或ハ此種ノ選任ニヨリ代理人タル資格ニ於テ受入レタル或ハ裁判上ノ供託金ノ保管者タル資格ニ於テ受レタル百弗以上ノ資金ハ其費途ヲ見出ス迄ハ年二分以上ノ利子ヲ付スルヲ要ス
前項ノ利子カ信託證書ノ條項ノ定メニヨリテ年々他ニ放資セラレサルモノナルトキハ信託會社ハ總テ其信託關係者ノ利益ノ爲メニ元金ニ繰込入ル、コトヲ要ス

第九十五條 重役

信託會社ノ業務並ニ會社ノ權利義務ハ定款ノ規定ニヨリ十三人以上三十人以下ノ重役會ニヨリテ

執行セラル、モノトス

五二

會社營業ヲ取扱フ重役ノ定員ハ設立契約書或ハ定款ニ之レヲ定ム但其數ハ七人以上ニシテ重役總數ノ三分ノ一以上タルヲ要ス

重役ハ十株以上ノ株主タルコトヲ要シ重役就任後ニ於テ此資格株ヲ失フカ或ハ質入スルトキハ重役タル資格ヲ失フモノトス

設立契約書ニ記名セラレタル者ニシテ十株以上ノ株主トナレルモノハ第一ノ重役會ヲ組織スルコトヲ要シ之レニ總員三十人ノ限度ニ於テ他ノ有資格者ヨリ重役ヲ増補スルコトヲ得其後任ノ選任セラル、迄其任ニアルモノトス

會社カ營業ヲ開始スヘキ日ヨリ六ヶ月以内ニ第一重役會ハ抽籤ノ方法ニヨリ其重役會ヲ殆ント同人員ノ三組ニ分ツヲ要ス

第一組重役會ハ其組別ヲナシタル翌年ノ一月ノ第三水曜日迄其任ニアルヘク第二組ハ其後ノ一ケ年間之レニ代リ第三組ハ之レニ次ク一ケ年間之レニ代ル

第一組ノ任期滿了以前ニ於テ第一組ノ人員ニ相當スル人員ノ重役ヲ選舉シ其重役ハ以後三ケ年或ハ其後繼者ヲ得ル迄其職ニアルモノトス第二組以下順次此方法ヲ繰返スモノトス

重役ノ選舉ハ其定款ニ定メタル時ニ於テ且會社ノ營業所ノ存在スル市ニ於テ發行セラル、銀行局

長ノ認可ヲ得タル新聞紙一種以上ニ十日間以上廣告シタル後ニ於テ行フコトヲ要ス
指定ノ日ニ於テ選舉セラレサリシトキハ其年ニ於テ任期ノ滿ツル重役ヲ除キ他ノ重役ハ其年ニ任期滿ツル重役數ト同數ノ或ハ再選セラレサリシモノヲ除キタル殘餘ノ數ノ重役ヲ選舉スルコトヲ得

前項ノ方法ニヨリテ選舉セラレタル重役ハ其年ニ於テ任期滿了セサル重役ト共ニ次ノ改選期迄重役會ヲ形成スルモノトス

改選期以前ニ重役ニ缺員ヲ生シタルトキハ其地位ハ他ノ重役ニテ補填スルモノトス

各重役ハ其就任ノトキ次ノ宣誓ヲナスコトヲ要ス

(1) 忠實ニ義務ヲ遂行シ會社ニ適用セラルヘキ法律ニ故意ニ違反シ或ハ他人ノ違反スルコトヲ許スコトナカルヘキコト

(2) 其拂込タル或ハ會社帳簿上自己ノ名義トナル本法規定ノ資格株カ善意且瑕疵ナキ所有ニ屬セルモノナルコト

(3) 資格株カ借入金其他ノ負債ノ擔保トシテ質入シアラサルコト及再選ノ場合ニハ前任期中ニ借入金或ハ其他ノ負債ノ擔保トシテ提供セラレサリシコト
宣誓書ハ之レヲ作成セル重役署名シテ所管官吏ノ證明ヲ得遲滯ナク銀行局長ニ提出スルヲ要ス銀

五三

行局長ハ之レヲ保管スルヲ要ス

(参照)

本法ノ千九百八年法律年第二十號ニヨリテ改正セラレタル趣旨ハ信託會社重役ガ其資格株ヲ買入等他ハ擔保ニ供スルヲ防カントセルニヨリ選舉權ノ委任及重役ノ選舉ニ關シテハ千九百九年法律第二十八號ニヨル一般會社法第二十六條以下参照

重役ノ選舉セラレサリシ結果ニ關シテハ同二十八條參照

重役ノ定員並ニ多數者ノ權力ニ關シテハ同三十四條參照

重役カ會社解散ノ場合ノ會社財產保管者タル場合ハ同第三十五條參照

重役カ會社使用人任命ニ關スル件ニ付テハ株式會社法第三十條參照

第九十六條 株主及重役ノ義務

會社ノ契約セル負債ノ支拂ニ關シテ現在拂込資本ニ缺損ヲ生セジトキハ各株主ハ其特株ニ比例シテ責任ヲ負フモノトス但其負擔ハ各其持分ヲ限度トス

缺損カ資本ヲ超過セル場合ニハ重役ハ法律或ハ衡平法ノ規定ニ從ヒ責任ヲ負フ

(參照)

不法ナル配當ヲナセル重役ノ責任ニ付テハ株式會社法第二十八條、同五十六條參照、株式會社ノ役員及重役ノ不法行爲ニ付テハ罰則第六百六十四條、同六百六十五條參照

第九十七條 特別法ニヨリテ設立セラレタル信託會社ノ權限

特別法ニアリテ設立セラレタル信託會社ハ本法ニヨル權限ヲ得ヘク又特殊ノ規定ナキ限り本法規定ノ義務ヲ負フ

第九十八條 法定支拂準備金

紐育州ニ存在スル市ニシテ最近ノ紐育州或ハ合衆國々勢調査ニヨル人口百八十萬以上ヲ有スル「パロ」ニ本店ヲ有スル或ハ預金ノ受拂ヲナス支店ヲ有スル信託會社ハ次ノ各項ニ相當スル預金並ニ金額ヲ除キタル他ノ預金ノ總額ノ一割五分以上ノ準備金ヲ其店舗ニ備ヘ置クヲ要ス

(1) 信託條款ニヨリ其支拂ニ三十日以上ノ期間ヲ有スル信託資金

(2) 三十日以上ノ期間ヲ有シ發行ノ日附及支拂期日ヲ明記セル預金證書ヲ以テ預金ノ存在ヲ現ハス定期預金

(3) 紐育州ニ於テ發行セラル、未償還諸公債及紐育市ノ發行スル市債

(4) 預金中信託會社自ラ所有スル紐育州及紐育市ノ公私債證書ノ市價ニ相當スル金額並ニ諸官廳當州他ノ州又ハ合衆國ノ諸官廳ノ官吏ニヨリ信託會社ニ對シテ信託契約ニ基キ提供セラレタル公私債證書ノ市價ニ相當スル金額、但有價證券ノ市價カ額面以上ナルトキハ額面額ニ相當スル額準備金ハ合衆國法貨或ハ適法ニ設立セラレタル國立銀行組合ノ發行ニ係ル金銀預證書兌換券及手

形タルコトヲ要ス

紐育州ニ存スル市ニシテ最近ノ州或ハ合衆國ノ調査ニヨル人口百八十萬以下ノ「バロ」ニ其本店ヲ有シ人口百八十萬以上ノ「バロ」ニ支店ヲ有セサル信託會社ハ總預金中前項ニ列舉シタル額ヲ除キタル金額ニ對シテ一割五分以上ノ支拂準備金ヲ備フルコトヲ要ス

法定準備金ノ三分ノ二ハ合衆國法貨及適法ニ設立セラレタル國立銀行組合ノ發行ニ係ル金銀預證人及兌換券其他ノ手形ヲ以テ之レニ充ツルヲ要ス其他ノ殘額ハ銀行局長ノ承認ヲ經タル資本金二十萬弗以上ヲ有スル或ハ資本金ト剩餘金トノ合計三十萬弗以上ヲ有スル當州ノ銀行或ハ信託會社ニ對スル「コールマネー」ヲ以テ之レニ充ツルコトヲ得

紐育州中前二項以外ノ地ニ本店ヲ有スル信託會社ハ預金總額中前項(1)乃至(3)ニ列舉シタル額ヲ除キタル金額ニ對シテ一割以上ノ準備金ヲ備フルコトヲ要ス

右準備金ノ半額以上ハ合衆國法貨或ハ適法ニ設立セラレタル國立銀行組合ノ發行ニ係ル金銀預リ證券、兌換券其他ノ手形ヲ以テ之レニ充ツルコトヲ要シ其他ノ殘額ハ銀行局長ノ承認ヲ經タル資本金二十萬弗以上或ハ資本金ト剩餘金トノ合計三十萬弗以上ヲ有シ當州ノ銀行及信託會社ニ對スル「コール」ヲ以テ之レニ充ツルコトヲ得

前三項ニ規定スル準備金ハ之レヲ法定準備金 (Lawful money Reserve) ト稱ス

法定準備金カ法定ノ割合ニ達セサルトキハ其法定額ニ達スル迄ハ新ナル貸付及一覽拂爲替手形以外ノ手形ノ割引及利益ノ配當ヲナスコトヲ得ス

信託會社ノ法定準備金カ法定額ニ達セサルトキハ銀行局長ハ之ヲ法定額ニ引上クルコトヲ命スルコトヲ得

銀行局長カ此命令ヲナシタル後三十日ヲ經過スルモ尙之レカ補正ヲナサ、ルトキハ銀行局長ハ其信託會社ヲ支拂不能ノモノト做シ支拂不能金融會社トシテ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

(參照)

銀行使用人ノ不正行爲ニ關シテハ罰則第二百九十條參照、定期預金證書ノ發行セラル、預金ハ準備金ヲ要セサルハ百九十八條ノ規定スル所ナルカ期限到來以前ニテ支拂ヲナス旨ヲ條件トセル預金證書ノ發行ハ罰則第二百九十條ニヨリテ禁セラル

參照條文

紐育州法制上ニ於ケル法人ノ種類



○銀行法總則第十三條參照條文

一般會社法第一條 法人解散ニ關スル訴訟

當州法律ニヨリテ設立セラレ法律ニヨリテ特權ヲ賦與セラレタル會社ニシテ次ノ四項ノ何レカニ

當ル場合ニハ本法第二百二條ニヨリ解散ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ得

一、一ヶ年以上支拂不能ノ状態ニアルトキ

二、一ヶ年以上其發行セル手形其他債務證書ノ支拂ヲ怠ルカ或ハ拒ムトキ

三、一ヶ年以上其營業ヲナサ、ルトキ

四、法人カ銀行業ヲ營ムモノナルトキ或ハ貸付又ハ預金ノ取扱ヲナスノ權限ヲ有スルモノナルトキ

キ及保險業ヲ營ムモノナルトキ其法人カ支拂不能ナレルカ其負債ノ完済ヲナス能ハサルニ至レル

場合或ハ其適用ヲ受クヘキ法律ニ違反セル場合

同第二百二條 會社解散ノ訴訟ヲ提起シ得ヘキ者

前條ノ訴訟ハ檢事總長之ヲ提起スルコトヲ得會社債權者或ハ株主カ檢事總長ニ書面ヲ以テ前條ニ

相當スヘキモノナルコトノ理由ヲ付シテ訴訟ノ提起ヲ請求シ檢事總長カ六十日間其提起ヲナサ、

ルトキハ債權者或ハ株主ハ適當裁判所ニ訴訟提起ノ許可ヲ申請シ其許可ヲ得タル後訴訟ヲ提起ス

ルコトヲ得

○信託會社法第八十條參照條文

一般會社法第四條 設立契約書作成ヲナシ得ルモノハ成年者タル自然人ノミニシテ其設定者ノ三分

ノ二以上ハ紐育州民ニシテ其中一名以上當州内ニ住所ヲ有スルモノタルヲ要ス

但現存會社ノ合併ノ場合ニハ此限ニアラス

同第二十三條 設立契約書ニ特別ノ規定ナキ限り株式會社株主ノ投票權ハ一株ニ付一個トス

此株式組織法人ノ社員ハ定款ニ特別ノ規定ナキトキハ總會ニ於ケル投票權ハ各員一個トス
此株主總會ハ多數決ニヨリテ總會前四十日以内ニ於ケル一定ノ期間内株式ノ賣買讓渡ヲ禁スル旨
定款ニ規定スルコトヲ得

信託關係ヲ明ニスル證書其他書面ヲ以テセル特殊ノ契約アルニアラサレハ會社帳簿上株式所有者
タルモノニシテ事實ハ其株式ヲ擔保トシテ徵セルモノ或ハ其株式カ事實他人ノ有ニ歸セルモノナ
ルトキハ其事實上ノ株式所有者ノ請求アルトキハ適當ナル經費ノ支拂ヲ受ケテ總會ニ於ケル投票
代理ヲナサシムルコトヲ要ス

法人ノ社員ハ總會ニ於ケル投票權ヲ賣リ或ハ投票代理ヲ有償ニテ委任スルコトヲ得ス(以下省略)

同第二十六條 代理人

宗教ニ關スル法人以外ノ法人ノ社員及株主ハ其總會ニ於テ代理人ヲ以テ投票ヲ爲スコトヲ得
銀行法ノ適用ヲ受クヘキ法人ノ役員、書記、出納役、帳簿係等ハ總會ニ於ケル株主ノ代理人タル
コトヲ得ス(以下省略)

同第二十八條 重役ノ選舉セラレサリシ場合

重役カ定款或ハ法律ニヨリテ規定シタル期日ニ於テ選舉セラレサルトキハ從來ノ重役ハ新重役ノ
選任セラル、迄其職ニアルモノトス

同第二十九條 特別選舉

重役選舉ノ日ニ於テ選舉セラレサリシトキハ重役會ハ年次總會ノ場合ト同様ノ手續ニヨリテ豫告
ヲナシテ選舉ノ爲メニ臨時總會ヲ招集スルコトヲ要ス
臨時總會カ一ヶ月以内ニ招集セラレサルカ或ハ招集セル、モ重役カ選舉セラレサリシトキハ法人
ノ社員或ハ株主ハ每週一回宛二週間以上總會ノ期日及場所ヲ其總會ノ招集セラルヘキ地ニ於テ發
行セラルヘキ新聞紙ニ公告シ且ツ二週間以前ニ各株主ニ通知ヲナシテ重役選舉ノ爲メニスル總會
ヲ招集スルコトヲ得

同第三十條 重役特別選舉ニ關スル總會

前條ノ總會ハ出席社員或ハ株主ヲ以テ定足數トシ總會ノ監査人ヲ選任シ重役ヲ選舉スルコトヲ得
ル外已定ノ定款ナキ會社ニアリテハ將來ノ年次總會及重役會ニ關スル定款ノ作成ヲ爲スコト及年
次總會ニ審議スヘキ事項ヲ決議スルコトヲ得

○信託會社法第九十五條參照條文

一般會社法第二十六條 (前出)

同第二十八條 (前出)

同第三十四條 重役會ノ定足數及決議方法各法人ノ業務ハ其重役會之ヲ執行ス重役會ハ重役ノ一人

以上當州内ニ住所ヲ有スルコトヲ要ス

重役會ハ定款ニ別段ノ定ナキトキハ重役ノ過半数ヲ以テ定足數トナシ多數決ヲ以テ法人ノ業務ヲ執行シ重役會ヲ代表ス

社員或ハ株主總會ハ定款ヲ以テ重役會ノ定足數ヲ定ムルコトヲ得

但定足數ハ重役ノ半数以下三分ノ一以上タルコトヲ要ス

社員總會或ハ株主總會ニヨリテ制定セラレタル定款アルトキハ之ニ基キ重役會ハ規約ヲ作成スルコトヲ得

同第三十五條 解散ノ場合重役ハ受託者タルコト

法人解散ノ場合ニ立法院或ハ所轄裁判所ヨリスル特別ノ命令ナキトキハ法人ノ重役ハ法人ノ債權者株主社員ヲ代表シテ業務執行ノ權限ヲ有シ債權ノ取立債務ノ辨濟及殘餘財産ノ分配經費支拂等ヲナスヲ要ス

株式會社法第三十條 役員

株式會社ノ重役會ハ重役中ヨリ社長ヲ選任スルコトヲ得ヘク尙秘書役支配人 (Secretary, Treasurer) 其他ノ役員及代理人其他ノ使用人ヲ任用スルコトヲ得

社長以下役員ハ重役會ノ監督ヲ受ケ重役會ノ指定或ハ定款ノ規定ニ基キテ各職務ヲ行フ

重役會ハ役員及使用人ニ對シ身元保證ヲ提供セシムルコトヲ得何時ニテモ之レヲ解任スルコトヲ得

○信託會社法第九十六條參照條文

株式會社法第二十八條 不法ナル配當ヲナセル重役ノ責任

株式會社ノ重役ハ會社營業ノ結果生セシ純利益以外ニ株主ニ配當ヲナスカ或ハ法律ノ許ス範圍以外ノ方法ニヨリ資本ヲ減少シ或ハ之レヲ株主ニ配當スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ違反シタル場合ハ其事件ニ特ニ異議ヲ有セシモノ及事件發生當時不在ナリシ場合ヲ除キ重役ハ其事情ニヨリ各々ニ或ハ連滞ニテ依テ生スル損害ニ付キ其會社債權者ニ對シテ責任ヲ負フモノトス

但會社解散ノ場合ニ會社債務ヲ支拂ヒタル殘餘財産ノ分配及重役會カ不確實ナル貸出ト決定セル債權ノ辨濟ノ爲メ株券ノ受入ヲナスハ此限ニアラス

同第五十六條 株主ノ債務

株式會社ノ株主ノ會社債權者ニ對スル責任ハ其所有株式ヲ限リトス (以下省略)

罰則第六百六十四條 株式會社ノ役員及重役ノ不法行爲

株式會社ノ重役カ左ノ事項ニ付會社重役ノ投票或ハ其他重役權ノ行使ニ付同意セルモノハ輕罪ノ

刑ニ處セラルヘシ

六四

- 一、會社ノ營業ヨリ生スル利益以外ノ資産、並ニ法律ニヨリテ許シタル方法以外ノ方法ニヨリ配當ヲナスコト
 - 二、株主ニ對シ資本金ヨリ配當其他支拂ヲナスコト
 - 三、資本金ノ拂込トシテ手形其他ノ信用證券ヲ受入ル、コト及故意ニ何等カノ方法ニヨル其拂込ノ手段ヲ給スルコト
 - 四、故意ニ株主ヲシテ其拂込ヲナシタル資金ヲ引出サシメシカ爲メニスル手形其他債務證書ノ割引ヲ爲スコト
 - 五、直接タルト間接タルトヲ問ハス純益金以外ノ資産ヲ以テ自會社ノ株券ヲ買入ル、コト
- 左ノ二項ニ當ル場合ニハ六ヶ月以内ノ禁錮或ハ五千弗以内ノ罰金ニ處ス
- 一、適法ニ定メラレタル資本金以上ニ株券ノ發行ヲ爲シタルモノ及發行ヲナスモノニ共同セルモノ贊同セルモノ
 - 二、自己ノ所有ニアラサル自己會社ノ株券ヲ賣却シ賣却ノ契約ヲナシ其他間接直接ヲ問ハス其賣却ニ關係スルコト
- 罰則第六百六十五條 重役、役員代理人及使用人ノ不法行爲

法人株式組織組合 (Joint stock association) ノ重役、役員、代理人及使用人ニシテ次ノ各項ニ當ル行爲ヲナセルモノハ輕罪ノ刑ニ處ス

- 一、適法ナル請求權ヲ有シテ支拂ハレタルモノニアラサル會社財産ヲ受取り所有スルカ或ハ故意ニ帳簿ノ記入ナサ、ルトキ
- 二、虚偽ノ帳簿記入ヲ爲シ或ハ爲スコトニ同意ヲナストキ
- 三、故意ニ虚偽ノ報告説明ヲ爲スコトニ同意シ或ハ法定ノ報告事項ヲ故意ニ脱漏スルトキ
- 四、會社ハ帳簿ノ保管ヲナスモノナルトキハ法定ノ記入事項ノ記入ヲ怠リ或ハ其記入ヲ拒ミ或ハ法律ニヨリ之ヲ檢閲スル權利ヲ有スルモノ、檢閲ニ供スルコト或ハ之レヨリ移書ヲナスコトヲ怠ルカ或ハ拒絶スルトキ
- 五、株式組織組合或ハ法人ノ財産或ハ營業ニ影響ヲ及ホス事件ニ關シ injunction ノ請求アリタル場合ニ其請求ノ事實時及場所ヲ重役役員支配人ニ發表セサリシトキ
- 六、官吏ヨリ適法ニ請求セラレタル報告或ハ説明書ノ提出ヲ怠ルカ或ハ拒ムトキ

六五

第二 「コロラド」州信託會社法 (一八九一年制定)

「コロラド」州信託會社法

第一條 信託會社ノ設立

信託會社ハ五人以上ノ發起人ニ依リ本法ノ規定ニ依リ信託會社設立ノ目的ヲ以テ發起セラル、コトヲ得

第二條 設立ニ關スル規定

前條ノ發起人ハ信託會社設立ニ關シ「コロラド」州一般法第十九章第二條ノ規定ニ遵據スルコトヲ要ス

第三條 第二條ニ所謂設立ニ關スル規定

三人(現在ハ五人ニ改メラル)以上ノ發起人ハ適法ノ營業ヲ目的トスル會社ノ設立ノタメ一通ノ定款 (Articles) ヲ作製シ捺印シタル上主務官廳ニ提出スルコトヲ得

前項各定款ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一、名稱

二、目的

三、資本金

四、存立期限(二十年以内)

五、株式ノ數

六、會社ノ取締役又ハ受託者ノ數

七、設立第一年ノ間會社事務ヲ支配スヘキ者ノ姓名

八、會社ノ主タル營業所アル郡市ノ名

第四條 定款ニ關スル規定

前條ノ定款ハ州秘書 (Secretary of State) 局ニ登録シ且其ノ寫ヲ營業地區内ノ郡記録事務所ニ差出スヘシ

第五條 創立總會、總會ノ通知

本法ノ規定ニ依リ會社ヲ設立シタル場合ハ發起人二名ハ一定ノ時期及場所ニ於テ第一回ノ總會ヲ召集スルコトヲ得召集ニ關スル通知ハ總會開會ノ前少ナクモ十日間以前ニ爲スコトヲ要ス

第六條 取締役、役員

會社ノ株式、所有財産、其他會社一切ノ事務ハ三人以上ノ取締役ニヨリテ處理セラル、モノトス

取締役ハ會社定款ノ規定ニ據リテ選任セラルル其任期ハ一箇年ニシテ後繼者ノ選任迄トス取締役ハ互選シテ頭取一名ヲ選任ス便宜ニ依リ外ニ副頭取一名ヲ選任又ハ指名スルコトヲ得

第七條 會社ノ權能

本法ノ規定ニ據リ設立セラレタル信託會社ハ會社ノ名ニ於テ一切ノ信託事務ヲ引受ケ且ツ之レヲ實行スルコトヲ得信託事務ハ適法ナルコトヲ要シ且ツ事務ノ信託ハ書面ヲ以テ爲スコトヲ得、又個人及會社等ノ委託ニ應ジ、金、銀、寶石、金錢、株券、有價證券、其他ノ貴重品ノ保護預 (for safe keeping & Storage) ヲ爲スコトヲ得、又會社ハ右ノ株券又ハ債券其他ノ有價證券ヨリ生スル利子配當ノ取立ヲ爲スコトヲ得、且ツ一定ノ期限及手数料ヲ協定シテ金櫃其他ノ保管器ヲ使用セシムルコトヲ得、其他法律又ハ其他ノ規定ノ結果遺言執行者、後見人、保佐人、其他ノ受託者カ數人ノ保證人ヲ附スルコトヲ要スル場合ニ於テ、取締役會ニ於テ定メタル條件、期限、報酬等ニ從ヒテ右ノ保證人トナルコトヲ得

第八條 不動産保有ニ關スル規定

信託會社ハ營業ノ執行上必要ナル不動産ノ租借、保有、及移轉ヲ爲スコトヲ得ルノミナラス業務上ノ權利ノ主張又ハ義務ノ履行上自然取得スヘキ不動産ノ保有スルコトヲ妨ケス、又信託會社ハ營業上必要ナル受領證、證明書、又ハ契約書ヲ作製發行スルコトヲ得、右ノ書類ハ會社

ノ定款ニテ定メラレタル者一名乃至數名之レニ捺印スルモノトス

第九條 資本金及其他ノ資金ノ放資

信託會社ハ取締役ノ決議ヲ以テ資本金ヲ優等ナル有價證券ニ放資シ之レヲ資本金ノ代リトシテ保管スルコトヲ得、信託會社ハ資本金又ハ營業上受領シタル資金ノ全部若クハ一部ヲ本州内部ノ債券、其他ノ動産又ハ負擔ナキ不動産ニ放資スルコトヲ得、又本州、他州、又ハ合衆國ノ株券、債券又ハ適法ニ發行シタル本州ノ郡債市債町債或ハ「スクール、デイストリクト」債ニ放資スルコトヲ得

第十條 信託會社ノ營業權

本法ニ依リ設立セラレタル信託會社ハ左ニ列記シタル行爲ヲ爲スコトヲ得
一、合衆國內ノ州、市、政治團體、會社ノ收支代理人タル事務又右ノ資格ニテ金錢ノ受拂ヲナスノ事務及株券、債券又ハ其他債務ヲ表示スル證書ノ輸送、登録、及副印ヲナスコトヲ得
二、信託會社ハ個人或ハ會社ヨリ又ハ裁判所ノ命令ニ依リ信託ノタメ或ハ放資ノタメ或ハ安全保管ノタメ金錢、有價證券又ハ他ノ動産ヲ受入ルコトヲ得、而シテ右ノ金錢、有價證券、其他ノ動産ハ要求拂又ハ定期拂等契約ニテ任意ニ協定スルコトヲ得、且ツ之等ノ保管ニツキテノ報酬トシテハ協約ニテ隨意ニ其利子ヲ定メ且ツ協約ニ從ヒ利子ノ仕拂ヲ爲スコトヲ得、但シ右ノ利

子ニ關スル協約ハ年六分ヲ超ユルコトヲ得ス
又信託會社ハ個人又ハ會社ニ對シ貸付ヲ爲シ之レカ抵當トシテ動産又ハ不動産ヲ受領スルコトヲ得

三、信託會社ハ信託證書又ハ個人若ハ會社ノ債券ヲ抵當トシテ受託事務ヲ行フコトヲ得、而シテ當州ノ諸法ニ違背セサル限りハ如何ナル信託事務ヲモ引受クルコトヲ得

四、信託會社ハ裁判所ノ命令ニ依リ後見人、保佐人、又ハ年收額百弗以上ノ利得ヲ生ズル未成年者ノ財産ニ關スル受託人ト成ルコトヲ得、又未成年者又ハ其他ノ個人若ハ會社ノ利益ノタメニ裁判所ニ仕拂ハレタル金銭ノ受寄者トナルコトヲ得

五、信託會社ハ裁判所、個人又ハ會社ノ委託シタル趣旨ニ從ヒ、動産、不動産、其利子又ハ他代或ハ賣上代金ヲ保管、運用、處分スルノ權利及義務ヲ享有シ且ツ之レヲ實行スルコトヲ得、右ノ財産ハ死者タルト生者タルトヲ問ハス

信託會社ハ信託事務ノ處理上ニ於テ、各利害關係人ニ對シ一般ニ公平ニ行フコトヲ要ス

六、信託會社ハ個人、政治團體、會社又ハ其他ノ委託者ノ許容、指定、移轉、遺言、贈與其他ノ法律上ノ原因ニヨリ各種ノ信託及權能ヲ引受及實行スルコトヲ得、又當州ノ裁判所ノ命令ニ依リ各種ノ信託事務ヲ受託スルコトヲ得、之レト同時ニ以上ノ信託事務ニ關係アル動産及不動産

ヲ受寄スルコトヲ得

七、信託會社ハ株券、手形、債券、不動産其ノ他有價證券ヲ買入レ、之等ニ放資シ又ハ之等ヲ賣却スルコトヲ得、又金銭或ハ金銭ニ代ル有價證券ヲ購入シ又ハ寄託ヲ受ケ又ハ放資物トシテ受入レタル場合ハ之レニ對スル信託會社ノ受領證、證明書、債券又ハ其他ノ債務證書ヲ發行スルコトヲ得、但シ之等ノ證券ニ對シ金銭ノ代リトシテ轉帳融通スルノ性質ヲ賦與スルコトヲ得ス

八、信託會社ハ遺言及遺言狀ニ依リテ遺言執行者又ハ受託者トシテ指定ヲ受クルコトヲ得、又遺産ニ附屬スル遺言ノ有無ニ拘ラス官選遺言執行者トシテ指定セラル、コトヲ得、又癡癩、白痴、精神耗弱者、又ハ浪費者ノ財産保管者又ハ保佐人トシテノ事務ヲ行フコトヲ得

九、信託會社ハ未成年者ノ後見人ヲ指定スル權能ヲ有スル裁判所ノ命ニヨリ年收壹百弗ノ價額ヲ下ラサル所得アル未成年者ノ財産ノ管理人トシテ指定セラル、コトアルヘシ、裁判所ハ十四歳以上ノ未成年者又ハ十四歳未滿ノ未成年者ノ友人ノ請求アル場合ハ之等未成年者ノ後見人タル事務ヲ委託スルコトヲ得裁判所ハ其ノ命令又ハ判決ニ依リ訴訟者ノ仕拂又ハ提供スヘキ金銭ヲ信託會社ニ預ケ入レシムルコトヲ得

十、信託會社ハ責任又ハ信任ノ地位ヲ占ムル人ノ誠實ヲ保證スル權利ヲ有ス且定款ノ定ムル所ニ

依リ金錢、地金、株券、債券、其他各種ノ貴重品ノ保管ヲ受託スルコトヲ得、但シ信託會社ハ銀行業ニ從事スルコトヲ得ス、特ニ法律ニテ明カニ認メラレタル場合ニ其範圍内ノミニテ銀行業ヲ爲ス場合ハ之ノ限リニアラス

十一、信託會社ハ自己ノ權利義務ヲ完全ニ遂行スル爲メニ必要ナル一切ノ行爲及權能ヲ實行スルコトヲ得、本法ニ定メタル規定ハ右ノ目的ヲ遂行スル爲メニ適當スルカ如ク自由ニ解釋スルコトヲ得

第十一條 後見人、遺言執行者タルノ事務ヲ行フ會社ニ對スル裁判所ノ監督權

信託會社ヲ後見人、保佐人、遺言執行者、官選遺言執行者（遺言ニ明示スルト否トニ係ラス）ニ指定スル權能アル裁判所ハ之等ノ信託事務ニ關シ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得、又若シ後見人、保佐人、遺言執行者、官選遺言執行者カ自然人ナル場合ニ裁判所カ必要ニシテ合法ナリト認めタル場合ハ信託會社ニ命シテ凡テノ計算事務ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條 信託資金ハ如何ナル有價證券ニ放資スヘキカ

信託會社ノ受入レタル信託資金ハ之レヲ合衆國ノ公ノ株券、國債ニ放資スルカ、各州ノ州債ニ放資スルカ債券發行權アル州ノ市債郡債又ハ株券ニ放資スヘキカ或ハ適當ト認めヘキ動産不動産ニ放資スヘキカハ一切信託會社ノ取締役會ノ決定ニ待ツモノトス、但シ信託會社ハ其受入タル信託

資金ヲ私ノ會社ノ株券又ハ債券ニ放資スルコトヲ得ス

第十三條 貸付

信託會社ハ受託者、取締役、又ハ其他ノ役員ニ直接ト間接トヲ問ハス貸付ヲ爲スコトヲ得ス、又會社ハ自己ノ株券ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 株主ノ責任

株主ハ其株主タル資格ノ繼續中信託會社ノ締結シタル契約ノ一切ノ債務ニ就キ各人其ノ所有株式ニ比例シテ平等ニ債務ヲ負擔スルモノトス

第十五條 信託會社カ遺言執行者等ノ事務ヲ行フ場合ハ自然人タル遺言執行者ヲ支配スルト同一ノ法律ノ支配ヲ受ク

信託會社カ後見人、保佐人、遺言執行者、官選遺言執行者、禁治産者ノ保護者タル場合或ハ裁判所ノ命ニヨリ一定ノ責務ヲ課セラレタル場合ニ於テハ之レト同一ノ地位ニ立テル自然人ト同一ノ責任、權能及報酬ヲ有シ又ハ受クルモノトス、但シ他ノ法律ニヨリテ特別ノ規定アル場合ハ之ノ限リニアラス

第十六條 信託資金ト放資物トハ分離シテ整理スルコトヲ要ス

信託會社ハ信託資金ト放資物トヲ分離シテ保管シ且ツ會社財産ト混同セシメサルコトヲ要ス會社

カ受信事務トシテ放資シテ得タル有價證券其他ノ財産ハ各信託契約ニツキ一見シテ識別シ得ル如ク整理スルコトヲ要ス

第十七條 會社資本金

本法ニ規定スル業務ノ全部又ハ一部ヲ營ミ且ツ本法ノ賦與スル權能ヲ實行セントスル會社ハ其拂込資本金額第一級市ニ於テハ二十五萬弗ヲ下ルコトヲ得ス、第二級市ニ於テハ五萬弗ヲ下ルコトヲ得ス且ツ營業ノ開始ニ先立チ右資本金ヲ現金ニテ現實ニ拂込ミ且ツ本法ノ規定ニ遵據シタル旨ヲ證明シ取締役ノ捺印シタル證書ヲ州秘書局迄提出スルコトヲ要ス

第十八條 本法制定當時現存スル信託會社

現在本州ニ存在スル信託會社ハ凡テ爾後本法ノ規定ニ遵據スルコトヲ要ス

第三 「カリフォルニア」州信託會社法

加州信託會社法

加州信託會社法ハ一八九一年四月六日ノ制定ニ係リ其内容ハ信託會社ノ業務取締ニ關スル規定ノミニシテ信託行為ノ實體法ヲ規定シタルモノニアラス故ニ本法ヲ一覽セハ信託會社ハ其設立及營業ニ關シ如何ナル程度迄監督官應ノ監督權ニ服スヘキカヲ識ルコトヲ得ヘシト雖モ信託契約ノ結果契約ノ當事者ハ相互ニ如何ナル權利義務ヲ有シ且ツ負フヘキカハ更ニ窺知スルコト能ハス

信託會社ト銀行業トノ關係ニ付テハ加州信託會社法ニ於テモ銀行業ヲ以テ信託會社當然ノ業務トシテ認メス信託會社カ銀行業ヲ營マントスルトキハ兼營ニ關シ認可ヲ受ケサルヘカラス其認可權ハ銀行監督委員 (Board of Bank Commissioners) ノ掌中ニアリ而シテ兼營ノ認可ヲ受ケタル信託會社ハ銀行業取締ニ關スル規定ニ服セサルヘカラサルハイフ迄モ無シ右ノ銀行監督委員トハ四人ノ合議制ニシテ元老院ノ同意ヲ經テ州知事ノ任命スルモノニシテ四名中二人ハ任期二年ニシテ他ハ四年ナリトス

第一條 信託會社ノ業務ノ種類

信託會社ハ加州一般會社法ニ準據シテ設立シ其定款ヲ以テ遺言執行者、官選遺言執行者、後見

人、保佐人、破産管財人、官選財産整理人、收支代理人又ハ受託者タルノ事務ヲ取扱フヲ以テ營業トナス旨ヲ規定シ其資本金ハ拂込済二十五萬弗以上ヲ有シ内十萬弗ハ現金ヲ以テ拂込マレタル會社ニシテ信託事務ノ執行ニ付キテ自然人ト異ナル所ナキモノナリ

遺言執行者、官選遺言執行者、後見人、保佐人、破産管財人、官選財産整理人、收支代理人又ハ受託者タル事務ノ執行上宣誓ヲ爲シ又ハ證明ヲ爲スコトヲ要スル場合ハ會社ノ社長、秘書、支配人又ハ其他ノ役員之レヲ爲スヘシ而シテ右ノ者ハ自然人カ受託者トシテ法律上負フヘキ一切ノ責ニ任シ會社カ之レニ背キタル場合ハ其責ニ任シ且ツ罰則ニ服スヘキモノトス而シテ會社ノ責任ノ限度ハ其資本金ノ全額トス但シ後見人保佐人等ノ事務ハ其財産關係ノ事務ニ限ルモノトス會社ノ上記ノ事務執行ニ就テハ相當ノ報酬ヲ受クルモノトス唯右報酬高ハ自然人タル受託者ノ受クヘキモノヨリモ多キコトヲ得ス

第二條 受寄者トシテノ業務

遺言執行者、官選遺言執行者、後見人、保佐人、破産管財人、官選財産整理人、收支代理人又ハ受託者ヲ指名シ且ツ之レヲ監視スル裁判所ハ會社ノ役員又ハ受託者又ハ右受託者ノ管理ニ屬スル財産上ニ利害關係ヲ有スル者ノ請求アリタルドキハ他ノ利害關係人ニ通知シ且ツ右ノ請求ニ就キ其當否ヲ審査シタル後右役員又ハ受託者ニ對シ現ニ保管スル現金又ハ事務ノ執行中ニ收納スヘキ

金錢ノ一部又ハ全部ヲ預金トシテ他ニ預ケ入ルルコトヲ命スルコトヲ得右ノ預金ヲ爲シタル受託者(信託會社)ハ爾後其金錢ニツキテハ裁判所ヨリ特別ノ命令無キ限リハ保管ニ關スル一切ノ責任ヲ解除セラル且ツ右預金ノ引出ハ裁判所ノ命令ヲ待ツコトヲ要ス

第三條 官選遺言執行者ハ其受託財産ノ一部ヲ他ニ預ケ入ルルコトヲ得

官選遺言執行者カ遺言中ノ財産ニ屬スル金錢ノ一部若クハ全部ニシテ事務執行上不斷ノ費用トシテ必要ナル部分ノ外ハ遺言執行區域内ノ市又ハ郡内ニ住所ヲ有スル信託會社ニ預ケ入ルルコトハ適法ノ處置ト認ム官選遺言執行者カ斯ノ如キ信託會社ニ預ケ入レタル金錢ニ對シテハ郡金庫ニ證券ヲ供託スルノ義務ヲ免カル右ノ預金ハ遺言執行事務其他ノ用途ノ爲メニ遺言執行者ノ振出しテ高等裁判所ノ判事ノ副印アル手形ヲ以テ引出スコトヲ得

第四條 裁判所ハ預金ヲ命シ煩鎖ナル供託ヲ減スルコトヲ得

遺言執行者、官選遺言執行者、後見人、保佐人、破産管財人、官選財産整理人、收支代理人又ハ受託者タル事務ノ執行ニ關シ信託會社ノ保管内ニ屬スル信託財産ニツキ監督權ヲ有スル裁判所ハ信託會社ノ役員ノ請求アリタル場合ハ他ノ利害關係人ニ通知シ右請求ノ當否ヲ審査シタル上法律ノ規定ニ基キ受託會社ヨリ擔保證券ヲ供託セシムルノ不必要ト煩鎖トヲ認メタル場合ハ信託財産ノ全部又ハ相當ト認メタル分量ヲ安全保管ノタメ他ノ信託會社ニ寄託セシムル爲メ信託會社ノ役

員ニ命令ヲ發スルコトヲ得又裁判所ハ擔保トシテ信託會社カ將來供託スヘキ又ハ現ニ供託スル證券ヲ會社カ現ニ保管スル財産ノ額迄減少シセムル爲メ書面ヲ以テ命令ヲ發スルコトヲ得之ノ場合右ノ返還サレタル證券ハ信託會社ニ於テ保管シ裁判所ノ指揮命令ニ從フモノトス
官選遺言執行者ノ受託シタル財産上ニ管轄權ヲ有スル裁判所ハ該官選遺言執行者ニ命シテ其管理上通常要スル費用以外ノ財産ヲ遺言執行地區内ニ住所ヲ有スル信託會社ニ預ケ入レシムルコトヲ得

第五條 放資ニ關スル責務、預金及貸付ノ制限規定

信託會社ハ前條ノ場合ニ於テハ擔保トシテ證券ノ供託ヲ爲スヲ要セザルヘシ雖然裁判所カ信託會社ニ資金ヲ寄託シ之レカ放資ヲ委託シタル場合ハ信託會社ハ其運用ニツキ責任ヲ負フモノトス且ツ信託會社ノ責任ハ自然人カ資金運用ノ信託ヲ引受ケタル場合ニ負フヘキ責任ト何等異ナル所ナシ信託會社カ受入ルル預金ノ總額ハ拂込資本金及剩餘金ノ十倍ヲ超過スルコトヲ得ス又其貸付總額ハ加何ナル場合ト雖モ同上ノ金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第六條 信託會社ノ仕拂フヘキ利子ニ關スル規定

信託會社ハ本法ノ規定ノ結果受入レタル金錢ノ凡テニ對シテ利子ヲ附スルコトヲ要ス而シテ其利率ハ事務委任ヲ引受ケタル當時ニ協定シタル歩合又ハ裁判所ノ命令ニテ定メラレタル歩合ニ從フ

コトヲ要ス

第七條 信託會社ノ州金庫ニ供託スヘキ義務ニ關スル規定

信託會社ハ信託事務ノ引受又ハ預金ノ受入ヲ開始スニ先立チ會社債權者ノ利益ノ爲メニ合衆國債、加州内ノ市債、郡債又ハ市債或ハ貸付金高ノ二倍ノ價格ヲ有スル加州内ノ第一順位ノ不動産抵當物ヲ以テ州金庫 (state treasurer) ニ十萬弗ノ供託ヲ爲スコトヲ要ス
前項ノ債券又ハ不動産抵當ハ隨時同價格ノモノヲ以テ引換フルコトヲ得
國債、加州市債、郡債及市債ハ州金庫ノ名義ニ書換ヘ且ツ相當裁判所ノ命令アル場合ハ州金庫カ之レヲ賣却讓渡シ其賣上代金ハ其自由ニ處分スルコトヲ得ルモノトス

第八條 供託加重ニ關スル規定

信託會社ノ拂込資本金高二十萬弗以上ニ達スルトキハ銀行監査官ハ相當ト認ムル程度ニ於テ十萬弗以上ノ不動産ヲ州金庫ニ供託セシムルコトヲ得而シテ右ノ供託シタル不動産ハ會社債權者ノ利益ノタメ別ニ供託セシメタル有價證券擔保ニ加算スルコトヲ得

第九條 供託證券ニ關スル規定

信託會社ハ其仕拂能力ニ缺損ナキ場合ハ州金庫ニ供託シタル供託物ヨリ生スヘキ利益又ハ配當ノ拂渡ヲ請求スルコトヲ得但シ信託會社ノ半期營業報告書ニ依リ會社所有財産、現在有金、保管金

ノ總計カ供託金額ノ十倍以上ニ昇ル場合ハ銀行監督委員ハ同種ノ擔保證券ニテ五十萬弗迄供託ヲ增加スルコトヲ得

之レニ反シテ信託會社ノ所有財産及保有現金ノ總計カ前條ニ規定シタル供託金ノ十倍以下ニ降リタルコト及信託會社ニ歸スヘキ債務其他一切ノ責任ニ於テ欠缺スル所無キコトヲ銀行監督官ニ於テ認メタル場合ハ爾後會社ノ所有財産ノ増加シテ更ニ供託金ヲ増加スルノ必要アル迄現金供託金ノ一部ヲ返還シ二十萬弗迄減少スルコトヲ得

第十條 供託物ヲ添附スヘキ説明書ニ關スル規定

供託財産ノ一部カ債券及不動産ヨリ成ル場合ハ之レ等債券及不動産ニ關スル權利其他ノ詳細ナル事項ニ互リ調査シタル書類ヲ添附スルコトヲ要ス右書類ハ銀行監督委員之レヲ審査スルカ又ハ審査セシムルコトヲ要ス監督委員カ他ニ審査セシメタル場合ハ其審査料ハ信託會社ヲシテ仕拂ハシムヘク其金額ハ擔保不動産一箇ニツキ二十弗ヲ超過スルコトヲ得ス鑑定官ハ二人以下ナルコトヲ要シ各鑑定官ニ對スル料金ハ鑑定ニ關スル實費ノ外擔保不動産一箇ニツキ五弗ヲ超過スルコトヲ得ス

第十一條 信託業免許ニ關スル規定

銀行監督委員ノ營業免許ヲ受ケザル會社ハ公衆ヨリ信託ヲ受ケ又ハ預金ヲ受入ルルコトヲ得ス

第十二條 報告書提出ノ義務ニ關スル規定

信託會社ハ毎年十二月三十一日及六月三十日ニ於ケル會社ノ營業狀態ヲ記載シタル報告書ヲ翌年一月及七月ノ月内ニ銀行監督官ニ提出スルコトヲ要ス且ツ會社ノ現ニ取扱フ信託事務委任ノ原因及之ニ因リテ會社ノ保管ニ屬スル動産及不動産ノ額ニ關シテ計表及其説明書ヲ提出スルコトヲ要ス但シ會社カ未タ何等ノ行爲ヲ爲ササル單純ナル受寄不動産ニツキテハ右ノ計表及其説明書ヲ提出スルコトヲ要セス

右ノ提出書類ノ形式内容ハ時々銀行監督官ノ要求スル要件ニ遵據シテ作製スルコトヲ要ス

第十三條 報告書提出ノ手續及罰則ニ關スル規定

前條記載ノ報告書類ハ信託會社ノ支配人一名及取締役二名ノ證明ヲ經ルコトヲ要ス右ノ支配人及取締役ハ證明ト共ニ報告書作製ノ目的ノ爲メ會社ノ財産及帳簿書類ヲ檢閲シタル旨ヲ記載スルコトヲ要ス

銀行監督官ニ提出スヘキ書類ニ不正ノ記載ヲ爲シタル場合ハ相當罰則ニ照シ處斷ス

第十四條 監督ノ實行、検査ニ關スル規定

銀行監督官ハ信託會社ノ行爲、狀態、又ハ營業ニ關スル其他ノ事項ニ關シ信託會社ニツキ又ハ會社ノ役員ニツキ尋問ヲ爲スノ權ヲ有ス右ノ場合ニ於テハ會社又ハ其ノ役員ハ書面ヲ以テ即時ニ回

答ヲナスノ義務アルモノトス監査官ハ又何時ナリト雖モ必要ト認メタル場合ハ報告書ノ提出ヲ請求スルコトヲ得

又銀行監督官内部ニ於テ定メタル内規ニ從ヒ監督官ノ一名又ハ數名カ臨時信託會社ニ豫告スルコト無ク突然出張シテ會社ノ仕拂能力又ハ債務履行ノ能力ニツキ毎年又ハ必要ト認メタル都度検査ヲ行ヒ其結果ヲ遲滯ナル検査長ニ報告スルノ義務ヲ有ス

第十六條 検査ニ關スル規定

銀行監督官ハ信託會社ノ検査ニ際シ必要ト認メタル場合ハ關係人ニ宣誓ヲ爲サシムル權利ヲ有ス又裁判所カ裁判所上目撃者ヲ參考人トシテ召喚スルノ方法ニ倣ヒ検査上必要ト認ムヘキ者ヲ召喚シテ尋問スルコトヲ得又検査ノ上ニ必要ト認ムヘキ書類ヲ提出セシメ又ハ臨時之レカ作製ヲ命スルコトヲ得

第十七條 會社ノ不法行爲ニ對スル處置ニ關スル規定

前數條ニ規定シタル報告書又ハ検査ノ結果ニ依リ銀行監督官カ信託會社ノ行爲カ違法又ハ不確實又ハ認容スヘカラサルモノナリト認メタル場合ハ之等ノ業務ヲ停止シ法律ノ規定ヲ嚴守スルコトヲ命スルコトヲ得又信託會社ニシテ報告書提出ヲ拒絶スルカ或ハ命令ヲ遵奉スルコトヲ拒否スルカ或ハ銀行監督官カ信託會社ヲシテ營業ヲ繼續セシムルヲ不安全又ハ不便ナリト思惟シタル場合

ハ右ノ事實ヲ検査長ニ報告スルコトヲ得之ノ場合検査長ハ事件ノ性質上適當ナリト思惟スル訴訟手續ヲ爲スモノトス

第十八條 營業停止ニ關スル規定

信託會社カ每半年提出スル所ノ報告書其他本法ノ規定ニヨリ會社ノ提出スル所ノ書類ニシテ虛偽ナルコトノ明カナル證據アル場合ハ銀行監督官ハ營業ノ免許ヲ取消シ會社ニ其旨ヲ報告シ併セテ裁判所ニ通知スルコトヲ要ス右免許ノ取消ハ其後信託會社ノ狀態カ事實上報告書其他ノ書類ニ記載シタルモノト全然同一ニシテ且ツ會社ハ諸法規ニ遵據シテ營業ニ從事スルコトノ明確ナル事實上ノ證據ヲ舉クルニアラサレハ之レヲ撤廢スルコトヲ得ス

免許ノ取消アリタル場合ハ本法ノ規定ニ依リ信託會社カ受理シタル信託事務ハ當然解除セラル、モノトス

第十九條 營業廢止ニ關スル規定

信託會社カ本法ニ定メタル業務ヲ廢止セント欲スル場合ハ從來引受ケタル信託事務ニ關シ會社ノ負擔シタル一切ノ債務ノ履行ニ關シ明カナル證據ヲ銀行監督委員ニ提出スルコトヲ要ス此場合ハ銀行監督委員ハ營業ノ免許ヲ取消シ且ツ供託トシテ預カレル擔保物ヲ返還スルモノトス

第二十條 法律又ハ規定ノ廢止ニ關スル規定

他ノ法律又ハ法律中ノ規定ニシテ本法ノ規定ト矛盾スルモノハ之レヲ廢止ス

第二十一條 信託事務ニ關シ秘密ヲ守ル義務ニ關スル規定

本法ノ規定ニヨリ權利ヲ有シ義務ヲ負フ信託會社ハ其引受ケタル信託事務ノ存在、條件、取扱方法等一切ノ信任ニ違背セサルコトヲ要ス信託會社ノ債權者又ハ株主ハ何人ナリト雖モ信託會社ノ引受ケタル信託事務ニツキ秘密ヲ守ルコトヲ要ス但シ社長支配人其他信託會社ノ秘書役ハ信託事務ニ關シテ必要ナル場合ニ内容ヲ開陳スルコトヲ得信託契約ノ存在狀態及其事務ノ取扱等ニ關シテ係争事件アル場合ハ當該裁判所ハ右信託契約ニ就キ内容ノ開陳ヲ強要スルコトヲ得

第二十二條

Company, Corporation, Incorporation, Association, Society, Organization, or Syndicate 等ノ文字ニ信託ナル文字ヲ冠シテ稱號ノ一部トナスコトハ條例ノ規定ニ遵據シテ認メラレタル個人又ハ會社外ノ個人又ハ會社ニ於テハ之レヲ許サス又會社ナル文字ト共ニ信託ナル文字ヲ用ヒ稱號トナスモノハ右條例ノ規定ニ從フコトヲ要シ且ツ條例ノ規定スルカ如ク銀行監督委員ノ監督ニ服スコトヲ要ス

個人又ハ會社ニシテ會社等ノ文字ト共ニ信託ナル文字ヲ使用シ稱號トナシ然モ條例ノ規定ニ遵據セス且ツ銀行監督委員ノ監督ニ服セサルモノハ違法一日ニツキ一百弗ノ割合ヲ以テ罰金ヲ徵收セ

ラルヘシ右罰金ハ法定ノ手續ニ依リ銀行監督委員ニ於テ收納ス

Civil code 第二百九十條 拂込資本金ノ證明ニ關スル規定

會社設立ノ定款中ニ遺言執行者、官選遺言執行者、後見人、保佐人、破産管財人、收支代理人、受寄者又ハ受託者ノ事務ヲ以テ營業ト爲スヘキコトヲ規定シタル會社ノ設立ニ關シ免許ヲ決スルニ先立テ資本金中尠ナクモ十萬弗ノ拂込ヲ會社最初ノ取締役トシテ定款中ニ指名シタル者迄會社ノ利益ノタメニ拂込ミタルコトノ證明ヲ右ノ取締役ヨリ州ノ秘書役迄提出スルコトヲ要ス

同第二百九十條ノ二 信託ナル文字ノ使用禁止ニ關スル規定

會社設立ノ定款ヲ以テ遺言執行者、官選遺言執行者、後見人、保佐人、破産管財人、收支代理人、官選財産整理人又ハ受託者タルノ事務ヲ營業トスヘキコトヲ規定シタル會社ニアラサレハ本法施行後新ニ設立セラル、會社ハ如何ナルモノト雖モ其稱號中ニ信託ナル文字ヲ使用スルコトヲ得ス且ツ本法施行後新ニ設立セラル、會社ハ「遺言執行者、其他ノ者ノ事務執行能力ヲ會社ニ賦與シ且ツ信託事務ニ關シ規定ヲ設ケタル條例」ニ遵據スルモノニアラサレハ一切ノ信託事務ノ引受ヲ爲スコトヲ得ス

第四 「マサチユセッツ」州信託會社法概要

「マサチユセッツ」州信託會社法概要

千九百〇二年ノ修正法ハ貯蓄銀行及其他ノ貯蓄機關、銀行事業ヲ營ム諸機關、信託會社、及其他相互銀行等ノ數編ニ分ル

今信託會社法ノ規定ヲ分類シテ要領ヲ示セハ

第一、一般的權利義務

信託會社ハ普通銀行業及貯蓄銀行事業ヲ經營スルコトヲ得

信託關係ニ於テ受入レタル資産ハ其他ノ一般資産ト全々別ツコトヲ要ス

重役ハ其利益中ヨリ信託資金準備金 (Trust Guaranty Fund) ノ積立ヲナスコトヲ得但其準備金ハ裁判所ヨリノ寄託金 (Legal trust fund) ノ投資物件ニノミ投資スルコトヲ得其投資物件ハ裁判所ヨリ寄託ヲ受ケタル預金遺産清算人其他裁判所ノ任命ニヨリテ取扱フ信託資金及是等ノ任命ヲ受タルモノヨリノ預金等ノ支拂擔保ニノミ供スルコトヲ得而シテ信託資金準備金ハ之ニ依テ擔保スル信託債務ノ存在スルハ間ハ一般資金ニ繰入ル、コトヲ得ス

其準備金ヨリ生スル收入ハ毎配當期ニ於テ其信託債務ノ缺損補填ノ必要ナキトキハ會社ノ一般收入ニ繰入ル、コトヲ得

信託會社ノ資本金ハ二十萬弗以上百萬弗以下タルコトヲ要シ一株ヲ百弗トス但人口十萬以下ノ市或ハ町ニ於テハ十萬弗迄下スコトヲ得

資本金全額拂込済トナル迄ハ營業開始スルコトヲ得ス但現金ニテ全部拂込マ、ル迄ハ株券ノ發行ヲナスコトヲ得ス

法定準備金ハ資本ノ百分ノ二十五ニ達スル迄純益ノ十分ノ一以上宛積立ツルヲ要シ貯蓄預金ノ投資ト同様ノ方法ニノミ投資スルコトヲ得

信託會社ヲ設立センスルトキハ其設立ニヨリテ社會ノ福利ノ増進セララルヘキ旨ノ證明ヲ貯蓄銀行監督委員會 (Board of Commissioner of Savings Bank) ヨリ受クルコトヲ要ス其證明ノ請求ノ却下セラレタルトキハ一ケ年間ハ再ヒ提出スルコトヲ得ス

信託會社ハ裁判所ヨリノ預金ノ受託及裁判所ノ任命ニヨリテナス信託事務取扱ノ以前ニ主務官應 (Board of Bank Incorporation) ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

主務官應ハ其認可ヲナス以前ニ其資本金ノ拂込ノ完了セルヤ否ヤヲ検査スルヲ要ス

(註 Board of Bank incorporation & Bank Commissioner treasurer & receiver general 及 Commissioner

又最近ニ至リテハ貯蓄預金ノ取扱ヲナスモノハ貯蓄事業ヲ全ク他ノ事業ト別ツヘキ旨規定スルニ至レリ即チ次ノ各項ノ預金ヲ取扱フモノハ之ヲ貯蓄部トシテ他ノ業務ト別チ取扱フヲ要ストナス

a 預金通帳ヲ發行シ何時ニテモ之ヲ提出シテ預金ノ出納ヲナスモノ

b 引出ノ請求ヲ受ケタル後已約ノ日數ノ經過後信託會社ノ任意ニテ支拂フ預金

c 其他貯蓄銀行ノ預金ト同様ニ受入レ放資スヘキ性質ノ預金ト一般ニ信セラル、カ如キ預金總テ此種ノ預金ノ貸出投資ハ貯蓄銀行ニ關スル法規ニ從フモノニシテ其預金及貸出投資ハ會社ノ他ノ資産ト明ニ區別スルヲ要ス而シテ其預金ニヨル資産ハ會社ノ他ノ部ノ負債ニ對シテ負擔ナキモノトス而モ尙其預金者ハ他ノ會社一般債權者ト共ニ一般資産ニ付キテ請求權ヲ有スルモノトス

第二、株主及重役ノ義務

各株主ノ會社債務ニ對スル責任ハ其所有株券ニ對スル各自ノ原投資額ノ外尙其額面額タケ二重責任ヲ負フモノトス

重役ハ十株以上ノ株主タルコトヲ要シ其過半數カ當州ニ公民權ヲ有シ且住所ヲ有スルコトヲ要ス

重役ニシテ他ノ信託會社ノ重役タリ得ルハ其重役總數ノ三分ノ一ニ止ル

第三、監督

甲、監督官ノ權限

Board of Bank incorporation ノ組織及銀行監督官 (Bank Commissioner) 其他ノ職制ニ關シテハ銀行ニ關スル法規ヲ參照スヘシ

監督官ハ信託會社カ法律ニ違反シタリト認ムルトキハ檢事總長ニ其旨通知シ檢事總長訴訟ヲ提起ス

監督官ハ信託會社ノ營業振不安全ナリト認メタルトキハ之カ中止ヲ命スルコトヲ得而シテ尙之ニ從ハ

サルトキ或ハ會社ノ重役カ其信託ノ濫用ヲナシタリト認ムルトキハ株主ニ其旨報告スルカ又ハ社會

公衆ニ發表スル必要アリト認ムルトキハ檢事總長及會社監督官 (Commissioner of Corporations) ノ同

意ヲ得テ其事實ヲ公告スルコトヲ得

信託會社檢査ノ結果支拂不能ノ状態ニアリト認ムルカ其他危殆ニ陥レリト認ムルトキハ其營業ヲ停止

シ之カ解散ノ請求ヲナスコトヲ得會社カ法律ニ違反セルトキ及權限以外ノ行爲アリタルトキハ亦同様

ノ手續ニ出ツルコトヲ得

監督官ハ破産管財人ノ職務ヲ檢査シテ其義務ヲ怠リタリト認ムヘキ點アルトキハ其任命ヲナシタル裁

判所ニ報告ヲナスコトヲ得

監督官ハ信託會社ノ帳簿及記帳方法等ニ關シテ命令ヲナスコトヲ得

監督官ハ「ボストン」ニ於ケル信託會社ニシテ他會社ノ準備受寄會社 (Reserve Agent) タルヘキ會社

ノ指定ヲナスコトヲ得

信託會社カ準備會社ニ對シ準備金ノ預入ノ取引ヲ開始セントスルトキハ監督官ノ同意ヲ受クルコトヲ要ス

監督官ハ信託會社ノ準備金カ法定額以下ニ下レルトキ之ヲ法定額以上ニ引上クコトヲ命スヘク六十日ヲ經ルモ尙會社カ其整理ヲナサ、ルトキハ清算ノ爲メ裁判所ニ通知スヘシ

準備受寄會社タルノ權限ヲ與ヘラレタル會社ニ於テ其準備額カ規定額以下ニ下レルトキハ監督官ハ之カ整理ヲ命スヘク而シテ十日ヲ經ルモ尙整理ヲナササルトキハ準備受寄會社タルノ權限ヲ剝奪スルコトヲ得資本ノ増加ヲナサントスルトキハ監督官ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

Board of Bank incorporation ハ社會公衆ノ利益ニアラスト認ムルトキハ會社ノ設立ヲ拒絕スルコトヲ得且不適當ナリト認ムルトキハ信託事務取扱ヲナスコトヲ認可セサルコトヲ得

乙、報告

信託會社ハ監督官ノ命令スル時ハ何時ニテモ（但年五回以下）左ノ事項ニ付營業報告ヲナスコトヲ要ス

一、資本金 二、會社ノ所有ニカ、ル或ハ其寄託ヲ受ケタル現金其他一切ノ財産ノ詳細 三、要求拂或ハ十日以内ニ支拂フヘキ預金額 四、信託資金準備金 (Trust Guarantee Fund) 五、信託資金 六、預

金者ノ數 七、合衆國及新「イングラント」諸州、郡、市、町等ニ對スル貸付 八、銀行株、鐵道株、

鐵道社債等各別金額 九、會社ノ發行セル手形ニ對スル貸出 一〇、個人ノ發行セル手形ニ對スル貸

出 一一、不動産擔保貸出額 一二、現金在高 一三、前報告以後ニ於ケル配當金ノ割合額及配當ノ期

日 一四、其他貯蓄銀行監督官ノ指定スル事項

以上ノ報告ハ監督官ノ命スル形式ニヨル資産負債ノ内譯ヲナシ試算表ノ形式ヲ以テスルコトヲ要ス

營業報告書ハ地方新聞紙ニ公告スルヲ要ス

株主三人ヨリ成ル委員會カ検査ヲナシタルトキハ十日以内ニ監督官ニ報告スルコトヲ要ス

其報告書ハ監督官ノ指定スル形式ニヨリ一般ノ資産負債狀態ノミナラス信託部ノ資産負債ヲモ之ニ付シ且其他監督官ノ命スル事項ヲ具シテ報告スルコトヲ要ス報告書ニハ検査員ノ不確實ナリト認メラル貸出ヲ明記スルコトヲ要ス監督官カ立法議院ニ對シテナスヘキ報告ニ關シテハ銀行ニ關スル規定ニ明ナリ

丙、検査

検査ニ關スル一設の事項ハ總テ銀行ニ關スル規定ニ從フ

検査官或ハ其代理人ハ毎年一回以上何時ニテモ必要ナリト認ムル時ニ検査ヲナスヘシ尙役員重役債權者其他預金者等ノ五人以上ノ請求アルトキハ特別検査ヲ行フコトヲ要ス

信託會社設立ノ場合ノ検査ハ Board of Bank incorporation ニヨリテナサレ資本ノ拂込ノ完全ニ行ハレタルヤ否ヲ確ム

監督官ハ貯蓄銀行ノ検査ト同様ニ検査ヲナスヘク遺産ニ關スル事務 (Probate Business) ヲ營メル信託會社ノ検査ノ場合ニ特ニ専門ノ智識ヲ有スルモノヲ顧問トシテ使用スルコトヲ得

監督官ハ所轄裁判所ノ命令アルトキハ何時ニテモ検査ヲナスコトヲ要ス

各信託會社ノ株主ハ三人以上ノ検査委員ヲ選舉スルコトヲ要ス會社ノ役員タルモノハ委員タルコトヲ得ス

委員會ハ毎年一回役員及重役ニ豫告スルコトナク會社ノ資産負債並ニ信託部ノ資産負債ヲ検査スルコトヲ要ス

検査終了後十日以内ニ監督官ニ報告スルコトヲ要シ其結果監督官カ尙検査ヲ要スルモノト認ムルトキハ特殊ノ専門家ヲシテ之ヲナサシムルコトヲ得

第四、預金支拂準備金 (Reserve)

信託會社ハ貯蓄預金及三十日以内ニ支拂ハレサル預金證書ノ存スル定期預金ヲ除ク總テノ預金ノ百分ノ十五以上ノ支拂準備ヲ備フルヲ要ス

但 Boston ニ於テ營業ヲナス會社ハ百分ノ二十以上タルコトヲ要ス

準備金ノ五分ノ二ハ合衆國法貨或ハ金銀引換證或ハ國立銀行券タルコトヲ要シ殘餘ハ監督官ニヨリ準備金受寄會社トシテ指定セラレタル「ボストン」ニ存在スル信託會社或ハ當州内及其他特定ノ市ニ存在スル國立銀行ニ對スル預金タルコトヲ得、尙準備金ノ五分ノ一ハ合衆國或ハ當州ノ公債ヲ以テスルコトヲ得

但合衆國法貨、金銀引換證券、國立銀行兌換券ノ總額ハ貯蓄部預金ヲ除キタル他ノ定期及當座預金總額ノ百分ノ五以上タルコトヲ要ス

監督官ハ「ボストン」ニ於ケル信託會社ニ對シ準備金受寄會社タルノ權限ヲ賦與スルコトヲ得ト雖モ一般信託會社ハ監督官ノ同意ヲ得サルトキハ假令權限ヲ有スル會社ナリト雖モ之ヲ準備金受寄會社トシテ契約スルコトヲ得ス

準備金受寄會社タルノ權限ヲ得タル信託會社ノ準備金ノ二分ノ一以上ハ合衆國法貨或ハ金銀引換證券或ハ國立銀行兌換券等タルコトヲ要シ殘餘ハ「ボストン」ニ存在スル準備金受寄會社タル信託會社ニ對スル又ハ當州内其他特定ノ市ニ存在スル國立銀行ニ對スル要求拂ノ預金ヲ以テ充ツルコトヲ得

信託會社ノ準備金カ法定額以下ニ下レルトキハ新規ノ貸出及投資ヲナスコトヲ得ス
準備金カ法定額ヲ下レルトキハ監督官ハ之カ整理ヲ命スルコトヲ要シ尙六十日ヲ經ルモ之カ整理ヲナサ、ルトキハ會社解散ノ訴訟ヲ提起スルコトヲ要ス

準備金受寄會社ニシテ法定額以下ニ其準備金額ヲ下シタルトキハ監督官之カ整理ヲ命シ尙十日以内ニ之カ整理ヲ行ハサリシトキハ受寄會社タルノ權限ヲ剝奪ス

第五、割引及貸付ニ關スル制限

信託會社ハ其資本金及一般預金ヲ當州内ニ存在スル不動産或ハ動産ニ對シテ貸出スコトヲ得
 信託會社ハ新「イングラント」諸州或ハ紐育州以外ノ他州ニ於ケル耕地其他工作ヲ施ササル土地ヲ擔保トシテ貸出ヲナスコト並ニ是等ノ貸出ヲナス會社ノ株式ヲ所有スルカ或ハ之ニ對シテ貸出ヲナスコトヲ得ス

信託會社ハ自己會社ノ株券擔保ニ貸出ヲナスコトヲ得ス但已ニ存在セル貸出ノ缺損ヲ免レンカ爲メニ之ヲ取得スルハ此限ニアラス但此場合ハ六ヶ月以内ニ賣却スルヲ要ス

資本金五十萬弗以上ノ信託會社カ市及町ヲ除ク一人格ニ對スル（組合ナルトキハ組合自體ノ債務ニ各組合員ノ負債ヲ加ヘタルモノ）貸付金ハ其拂込資本金及積立金ノ合計ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス
 其他ノ信託會社ニ對シテハ拂込資本ノ五分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

但現實ノ取引ヨリ生セル爲替手形及實際作成ノ當事者ノ所有セル商業手形ノ割引ハ之ヲ借入金ト看做ス

信託資金ハ其他ノ資産ト全々別テ整理シ信託資金ノ貸出ハ其信託金 (Trust Deposits) ノ擔保ノミニ

充當スルヲ要ス

信託會社ノ取扱フ貯蓄預金ノ貸出ハ凡テ貯蓄預金ノ拂戻擔保ニ供スヘク總テ貯蓄預金ニ關スル制限ニ從フモノトス

第六、投資 (Investment) ニ關スル制限

信託會社ハ其營業用ノ爲メ拂込資本ノ百分ノ二十五以内ニシテ且二十五萬弗以内ニ於テ他ニ負擔ナキ不動産ヲ所有スルコトヲ得

信託會社ハ其資本及普通預金 (General Deposit) ヲ凡テノ公私法人ノ株式公債社債其他ノ借入證券ニ投資スルコトヲ得

信託會社ハ其貸出ノ擔保トスルコトヲ禁セラレタル不動産ヲ擔保トシテ貸出ヲナス會社ノ發行スル諸證券ニ對シテ投資ヲナスコトヲ得ス

信託會社ハ擔保ニ徵スルコトヲ禁セラレタル證券ノ取引ノ代理ヲナスコト及專ラ不動産ヲ以テ擔保トスル借入證券ノ取引ノ代理ヲナスコトヲ得ス

信託會社ハ自會社ノ株券ノ買入ヲナスコトヲ得ス
 但已存負債ノ損失ヲ免レンカ爲メニスルハ此限ニアラス但此場合ハ六ヶ月以内ニ賣却スルヲ要ス
 信託部ハ明ニ之ヲ別チ信託資金ノ投資ハ信託資金支拂擔保トナシ資本金其他ノ資産ト混同スルコトヲ

得ス

信託資金準備金 (Trust Guaranty fund) ハ信託資金ノ投資ヲナスコトヲ得ル證券ニノミ投資スルコトヲ得

九六

(註) 信託資金 (Trust fund) ノ投資目的物トシテ特ニ規定セラレタルモノナク單ニ裁判所ノ寄託金 (Court deposit) ノ投資物件ノ列擧セラレタルアルノミ然レトモ此種ノ預金及遺産清算者其他ヨリスル (夫等ノモノ、受託金) 預金及遺産清算其他此種ノ事務取扱ヨリスル信託金等ハ信託部ヲ設ケテ他ノ一般資産ト別ツヘキ旨規定 (信二十四條) アルヲ以テ信託資金トハ是等三種ヲ總括セルモノナルベク第二第三者ト雖トモ遺言其他ニテ投資ニ關シテ特殊ノ制限ナキ限り第一ノモノト同様ノ投資物件ニ投資スヘキモノト解スヘキモノナルヘシ普通ノ財産管理ノ場合ハ特ニ以上三者ト同様ノ取扱ヲナスヘキ旨ノ強制規定ナキモ信託者ハ其信託財産ノ投資ヲ特定ノモノニ限ルカ或ハ一般信託資金 (General Trust fund) 中ニ繰入レテ投資スルカヲ指定スルコトヲ得 (信二十三條)

裁判所ノ資金ノ受寄ヲ命セラレタル信託會社ハ其預入ヲ受ケタル資金ハ左ノ物件ニノミ投資スルコトヲ得

一、合衆國々債證券 二、新英蘭諸州々債 三、新英蘭諸州中ノ各自治體ノ發行スル債券 四、「イリノア、イオワ、ミチガン、ミネソダ、ウキスコニン」諸州ノ州債 五、是等諸州中ニ存スル自治體ノ發行スル債券 六、當州々債及當州ニ存在スル國立銀行株券 七、最近二ケ年間繼續シテ配當ヲナセル新英蘭諸州鐵道ノ第一抵當付債券及他ニ抵當ニ供セサル鐵道ニ對スル普通債券 八、當州内ノ不動

產第一抵當 九、貯蓄預金ニ關スル法定投資物件 一〇、以上ノ何レカニ相當スル證券ヲ見返トスル當州工業會社或ハ個人ノ二人以上ノ裏書アル手形ニ對スル貸出 抵當流トナリタル不動産又ハ強制執行等ノ結果取得シタル不動産ハ二ケ年内ニ競賣ニヨリ處分スルコトヲ要ス

第七、支店

信託會社ハ Board of Bank Incorporation ノ認可ヲ得テ其本店所有地ニ於テ支店一ヶ所ニ限り設置スルコトヲ得

第八、信託會社以外ノ會社個人ニ對スル制限

當州ノ法律ニ準據シテ設立シタル貯蓄銀行或ハ信託會社以外ノ當州内或ハ當州以外ノ會社、個人、組合ハ貯蓄銀行ノ業務ヲ營ムコトヲ表示スル印章、用紙等ヲ使用スルコトヲ得ス 當州ノ法律ニ準據シテ設立セラレタル信託會社以外ノ個人、組合會社ハ信託會社ナル名稱ヲ用ウルカ或ハ信託會社トシテ廣告或ハ預金ノ吸收ヲナスコトヲ得ス

第十、罰則

總テ銀行ニ關スルモノノ適用ヲ受ク

九七

第五 信託會社定款二種

其一、銀行業者信託會社定款 (By-Laws of the Bankers trust Company.)

第一章 株主總會

第一條 株主年次總會ハ左記ノ時日場所ニ於テ左記ノ事項ヲ議決ス
場所、本店

時日、毎年一月第二木曜日午前十二時

議事、重役ノ選舉其他本總會ニ決議スヘキ他ノ營業ニ關スル件

總會前二週間毎週一回宛銀行局長ノ指定ニヨル紐育市ニ於テ發行セラル、新聞紙ニ總會ノ

時日場所及目的ヲ公告シ且總會十日以前ニ於テ株主ニ對シテ通知スルヲ要ス

第二條 法律ノ規定ニヨル株主總會ノ外左ノ場合ニ臨時株主總會ヲ開ク

- 一、重役ノ過半数ノ決議ニヨル場合
- 二、株式ノ過半数ニ當ル株主ノ請求アル場合

臨時株主總會十日以前ニ於テ各株主ニ總會ノ期日、場所、目的ヲ通知スルヲ要ス

第三條 株主總會ハ總テ株式ノ過半数ノ株主(委任狀ヲモ含ム)ノ出席アルコトヲ要ス

但法律ノ規定ニヨル重役ノ特別選舉ニ關スル場合ヲ除ク

第二章 重役

第一條 本會社ノ營業及其法律ニヨリテ與ヘラレタル權利ノ行使ハ銀行法第九十五條ノ規定ニヨリテ選舉セラレタル定員三十人ヨリナル重役會ニ於テセラル

重役會集會ハ十人ヲ以テ定足數トス

第二條 總會以前ニ重役會ニ決員ヲ生シタルトキハ他ノ重役會ノ多數決ニヨリテ重役中ヨリ其缺員ノ

地位ノ殘餘期間ニ對スル補缺員ヲ選舉ス

第三條 重役會ハ紐育法及定款ノ規定ニ違反セサル範圍ニ於テ重役會々議ノ方法及營業ノ經營ニ關スル規則ヲ制定スルコトヲ得

前項ノ規則ハ重役及使用人共ニ之ニヨリテ拘束ヲ受クルモノトス

第四條 重役會ノ例會ハ毎月第一及第三月曜日ニ開ク但休日ニ當ルトキハ其以後第一ノ營業日ニ開ク

臨時會ハ重役三名以上ノ重役會長ニ對スル書面ヲ以テセル請求ニヨリテ開ク

第五條 重役會ハ株主總會以前或ハ配當ノ發表以前四十日ヲ超ヘサル一定ノ期間株式ノ名議書換ヲ禁スルコトヲ得

第三章 役員

第一條 役員ハ左ノ如シ

社長一名、重役會ノ決議ニヨル員數ノ副社長、信託部長 (secretary) 銀行部長 (treasurer) 各一名
其他重役會ノ定ムル役員

社長及副社長ハ株主總會ニ於テ選舉セラレ信託部長及銀行部長及其他ノ役員ハ重役會之ヲ任命ス
重役會ハ役員、書記、其他ノ使用人ニ對シテ身元保證證書ノ提供ヲナサシムルコトヲ得特別ノ事情アルトキハ其増加ヲ要求スルコトヲ得

第二條 役員ノ權利義務ハ各其職務ニヨリテ限定セラレ重役或ハ業務執行委員ノ検査並ニ命令ヲ受クヘキモノトス

第四章 業務執行委員會 (Executive Committee)

第一條 業務執行委員會ノ委員ハ重役會之ヲ選任シ定員ヲ十人以下トス

業務執行委員ハ重役會ヲ代表シ其三人以上ノ同意ニヨリテ其事務ノ執行ヲナシ其記録ヲ作り何時

ニテモ重役會ノ検査ヲ受クヘキモノトス

業務執行委員ハ其缺員アル場合ニ補缺員ヲ選任スルコトヲ得但補缺員ノ任期ハ次ノ定時重役會迄或ハ其後繼者ノ選舉セラレ、迄トス

業務執行委員會カ其權根ニ基キテ執行セル處ハ總テ重役會カ執行セルモノト看做ス

重役會ハ必要アリト認ムルトキハ他ノ委員會ヲ任命シ或ハ其任命ヲ解クコトヲ得

第二條 重役會或ハ業務執行委員ハ會社ノ利益ノ爲メニ使用人ヲ雇傭スルコトヲ得ヘク重役以下役員及使用人ノ給料ヲ定ム

第五章 印 類

第一條 重役會ハ會社ニ印類ヲ作り各重役會或ハ業務執行委員會ノ指定ニヨリ適當役員ニ使用セシム

第六章 資 本 金

第一條 株式ノ賣買讓渡ハ其所有者自ラ或ハ適當ナル委任狀ニヨリ會社秘書役或ハ其他適當ノ會社役員ノ承認ヲ經テ會社帳簿上ニ於テ之レヲナスコトヲ得

第七章 監査

第一條 重役會或ハ業務執行委員ハ年次總會或ハ特別總會以前ニ於テ選舉ニ關スル監査人ヲ任命ス
監査人其任命ヲ拒絕スルカ或ハ其他ノ理由ニヨリ其任務ヲ盡スコトヲ得サルトキハ總會ニ於テ之
レヲ任命ス

第八章

本定款ハ豫告ヲ以テ重役會ニ於テ變更加除スルコトヲ得

其二、保證信託會社 (Guarantee Trust Company) 定款

第一

重役會ハ定員ヲ三十人トス
毎年一月第三水曜日ニ年次株主總會ヲ開キ重役ヲ選任ス重役ノ任期ハ三ケ年トス但後任者ナキトキハ
之ヲ得ル迄トス

第二

重役ハ株主總會ニ於ケル得票數ノ多數ヲ以テ決定シ同點者數人アルトキハ當選重役ノ多數決ニヨリテ
決ス

重役會ニ缺員アルトキ重役會ハ其空席ヲ他重役ニテ兼ネシムルコトヲ得

第三

重役ハ其就任後第一重役會ニ於テ社長ヲ選任ス

社長ノ任期ハ次ノ年次總會或ハ其後任者ヲ得ル迄トス

重役會ハ重役會々長一人副會長一人或ハ數人及外國部長第五街支店支配人、營業部長、秘書役、信託
部長、各一名宛營業部助役及秘書助役一人或ハ數人、信託部助役一名ヲ選任スルコトヲ得

重役會ハ會社重役以外ノモノヨリ副社長、營業部助役、秘書役助役トシテ選任シ受託者タル資格ニ於
テ會社カ取引スル擔保付社債發行ノ場合ノ不動産擔保其他信託契約ノ爲メニスル役員トシテ及株式及
社債券ノ預リ證書信託諸證券ノ登録及受渡代理者等トシテノ記名調印等總テ重役ヨリナルモノト同様
ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ役員任期ハ重役會之ヲ定ム

社長カ缺席其他其事務ヲ執ルコト能ハサルトキハ副社長之レカ代理ヲ爲ス

役員ノ報酬ハ重役會或ハ業務執行委員會ニ於テ之ヲ定ム

第四

年次總會後ノ第一ノ重役會ニ於テ社長ハ重役會ノ定ムル員數ノ業務執行委員ヲ重役中ヨリ任命ス
業務執行委員會ハ重役會ヲ代表シテ其職務ヲ執行シ且重役會ニ報告ヲナス
社長及二人以上ノ業務執行委員ヲ以テ有價證券委員會ヲ作り株式社債其他ノ有價證券ノ買入ニ關スル
事項ヲ取扱フ

第五

重役會定時會ハ毎年第一水曜日午前十二時ニ開會シ營業ニ關スル事項ヲ審議ス
特別重役會ハ社長自ラ招集スルカ或ハ重役三人以上ノ請求ニヨリテ招集ス
重役ノ集會ハ十人以上ノ出席アルヲ要ス

第六

定時重役會順序ハ次如クシ

- 一、前會ニテ未決定トナリ居ル事項ノ審議
- 二、營業部長ノ報告
- 三、業務執行委員會ノ報告
- 四、社長ノ報告

五、特別委員會ノ報告

六、營業事務ノ未處理トナレルモノノ審議

七、社長ノ提出スル新規營業ノ審議

八、其他ノ營業ニ關スル審議

議事ノ決定ハ出席者ノ多數決ニヨル

第七

社長ハ重役會々長ノ缺席ノ場合之レカ代理ヲナシ會社ノ營業、事務及所有財産ニ關スル管理ヲナス
社長ハ會社ノ爲メニ總テノ契約ヲナシ小切手、手形ニ署名スルノ權利ヲ有シ受取證書、預證券、倉庫證
券其他會社ノ發行スル諸證券及不動産ノ讓渡抵當ノ解除ニ關スル證券其他會社ノ社印ヲ捺印スヘキ證
書及會社株券ニ署名スルヲ要ス

社長ハ會社營業ニ關スル記録ヲ作成セシメ何時ニテモ業務執行委員ノ檢閲ヲ受クルヲ要ス

社長ハ營業狀況ノ報告ヲ作成シテ定時重役會ニ提出スルヲ要ス

社長ハ會社ノ所有ニ屬セル契約證書有價證券其他ノ證書書類ヲ保管ヲナスヲ要ス

社長ハ重役ヨリ成レル總テノ委員會ノ會員タルヲ要シ會社ノ印類ヲ保管スルヲ要ス

第八

營業部長ハ會社ノ資産負債及營業ニ關スル記録ヲ作成シ役社ノ資産諸證券ヲ保管シ社長、副社長ノ檢閱ニ供スルヲ要ス

第九

小切手、手形、預金證書、紐育綿花取引所證券、紐育珈琲取引所證券、紐育物産取引所證券等ハ社長、副社長、秘書役、營業部長、營業部助役、秘書助役、信託部長、信託部助役ノ何レカニヨリテ署名セラル、ヲ要ス

信託部或ハ外國爲替課ノ發行セル小切手、手形及信用狀ハ前項役員ノ二名ノ捺印アルヲ要ス

第五街支店ノ發行セル小切手、爲替手形、預金證書等ハ第五街支店ノ支配人及定款第三條ノ選任ヲ受ケタル役員一人或ハ二人ノ署名アルヲ要ス但同支店出納役ノ發行セル小切手ハ出納役及前項ノ會員一人ノ署名アルヲ要ス

社員其他此種ノ證券ノ發行ヲ擔保スル信託契約或ハ不動産抵當ニ關スル當會社ノ受託者タル資格ニ於ケル證明、登録及受渡代理者トシテノ證明假諸證書其他信託證書類ハ社長或ハ副社長一人、營業部長或營業部助役、秘書役或ハ秘書助役、信託部長或ハ信託部助役其他本定款第三ニ規定セル重役會ノ任命セル者之レニ捺印スルヲ要ス

第十

秘書役ハ重役會ノ記録及會社ノ記録ヲ保管スル外重役會或ハ社長ノ命スル事務ヲ取扱フモノトス

第十一

役員以下使用人ハ重役ノ指定スル身元保證ヲ提供スルヲ要ス

委員會及役員ハ重役會ノ監督支配ヲ受クヘキモノトス

書記以下ノ使用人ハ社長之ヲ任免ス

書記以下ノ使用人ハ重役會或ハ業務執行委員會ノ特別ノ指定ナキトキハ社長ノ命令ノ下ニアルモノトス

社長毎年一回必要アルトキハ數回業務執行委員會ニ對シ會社ノ使用人人名表及其給料報酬額ヲ報告スルモノトス

第十二

株券ハ社長及營業部長或ハ秘書役署名シ會社々印ノ捺印アルコトヲ要ス

第十三

株式ノ受渡ニハ必ス株券或ハ假株券ノ提出アルヲ要ス新株券ノ發行ハ舊株券ヲ廢棄手續ヲ了シタル上ニ於テナス但株券ノ紛失ノ場合ニハ重役會ハ適當ノ證書ヲ提出セシメタル上新株券ヲ交付ス

第十四

株券社債券抵當諸證券、其他ノ有價證券ハ業務執行委員會或ハ有價證券委員會ノ承認ヲ得タル後賣却
質入等ヲ爲スコトヲ得但貸付金ノ擔保トシテ徵セル有價證券ハ貸付金回收ト同時ニ之レヲ返還スルコ
トヲ得

第十五

定款ノ變更ハ重役全員出席ノ重役會ニ於テ多數決ニテ變更加除スルコトヲ得但前重役會ニ其變更加除
ノ事項ヲ豫告シ置クコトヲ要ス

英國ノ部

第一 千八百九十三年受託者條例

受託者ニ關スル法令統一條例、一八九三年九月二十二日公布

第一章 放 資

第一條 適法ナル放資

受託者ハ信託證書ニ於テ明白ニ禁示セラレサル場合ニハ自己ノ手中ニ存スル信託資金ヲ左ノモノ
ニ放資スルコトヲ得

(a) 英國政府株、公債又ハ政府證券

(b) 英蘭又ハ愛蘭ニ於ケル不動産又ハ相續財産ヲ抵當トスル貸付

(c) 英蘭銀行又ハ愛蘭銀行株

(d) 三分半利付印度公債及三分利付印度公債又ハ今後議院法ニ基キ印度國務卿ノ發行シ印度歳入ヲ
擔保トスル其他ノ資本株

- (e) 一定ノ期間政府ノ利子保證アル有價證券
- (f) 首都工事務局又ハ倫敦市廳ノ發行スル整理株并ニ首府警察區收納官吏ノ發行スル「デベンチユーアストック」
- (g) 特別法ニヨリ設定セラレ投資前十年間其普通株ニ對シ一ケ年三分ヨリ少カラサル配當ヲ爲セル英蘭又ハ愛蘭ニ於ケル鐵道會社ノ社債「レントチャー」ジ保證又ハ優先株
- (h) 英蘭又ハ愛蘭ニ於ケル鐵道又ハ運河會社ニシテ其事業永久又ハ二百年ヲ下ラサル期間ヲ期シ單獨又ハ他ノ鐵道會社ト連合シテ前號ニ記載シタルカ如キ一定ノ收益ヲ舉ケタル會社ノ株
- (i) 印度國務卿ニ於テ利子ヲ支拂フカ又ハ利子保證ヲ與ヘタル印度鐵道會社ノ「デベンチユーアストック」
- (j) 東ベンガル、東印度、サイインド・パンジャブ及デルハイ鐵道ノ乙種年金證券及今後印度國務卿ノ鐵道會社買收ノ爲メニ發行シ印度歲入ヲ擔保トスル同種ノ年金證券ニシテ法律ニヨリ受託者ニ對シ彼等カ既ニ有スル買收セラレタル鐵道株ノ代リニ有スルコトヲ許サレタルモノ並ニ印度鐵道會社ノ丁種及丙種年金證券登錄簿ニ登錄セラレタル延期年金證券
- (k) 印度國務卿ニ於テ株券ニ對シ定額又ハ最低限ノ配當ヲ支拂又ハ保證セラレ若ハ元本ニ對シ定額又ハ最低限ノ利子ヲ保證セラレタル印度ノ鐵道會社株
- (l) 營利ノ爲メニ水ノ供給ヲ目的トシ特別法又ハ特許ニ依リ設立セラレ而シテ放資前最近十年間其

普通株ニ對シ百分ノ五ヲ下ラサル配當ヲ爲セル英蘭又ハ愛蘭ニ存スル會社ノ社債、保證株又ハ優先株

(m) 放資前ノ最近統計ニ基キ人口五萬以上ヲ有スル自治團體又ハ議院法又ハ暫定命令ニ基キ地方團體ノ發行シタル又ハ發行スル株

(n) 議院法ニ依リ設立セラレ放資前ノ最近統計ニ基キ人口五萬以上ヲ有スル地域ニ對シ費用賦課權ヲ有シ且ツ放資前十ケ年間其賦課額カ法律ニ定メタル極限ノ百分ノ八十ヲ超過セサル水利組合ノ發行シタル又ハ發行スル株

(o) 中央裁判所ノ監督又ハ命令ニ基キ一時現金放資ノ必要アル場合ニ許サレタル株、公債又ハ證券右ノ放資方法ハ何時タリトモ互ニ轉換スルコトヲ得

第二條 償還セラルヘキ株ヲブレミアムヲ附シテ購入スルコト

(一) 受託者ハ前條ノ有價證券カ償還セラル、モノニシテ且ツ買入價格カ償還價格ヲ超ユル場合ト雖之ニ對シテ放資スルコトヲ得

(二) 但シ第一條(g)(i)(k)(l)及(m)號ニ掲ケタル株券ニシテ購入後十五ケ年以内ニ額面或ハ他ノ一定額ヲ以テ償還セラル、モノナルトキハ償還額ヲ超エテ之ヲ購入スルヲ得又本號ニ掲ケタル株券ニシテ額面又ハ他ノ一定額ヲ超ユルコト百分ノ十五ナルトキハ凡テ之ヲ購入スルコトヲ得ス

(三)受託者ハ本法ニ依リ購入セラレタル一切ノ償退セラルヘキ株券、公債其他ノ有價證券ヲ償還期迄保有スルコトヲ得

第三條 受託者ノ任意選擇

前二條ニ依リ賦與セラレタル權能ハ受託者之ヲ任意ニ行使スルコトヲ得、但シ信託證書ニ信託資金ノ放資ニ關シ別ニ同意ヲ必要トスル旨ノ規程アルトキハ之ニ從フコトヲ要ス

第四條 前諸條ノ適用

前諸條ハ此條例ノ公布前設定セラレタル信託并ニ公布後ニ設定セラレタル信託ニ適用ス本條例ニ依リ賦與セラレタル權能ハ信託證書ニ於テ賦與セラレタル權能ニ附加セラルヘシ

第五條 放資ノ明示的權能ヲ擴張ス

- (一)不動産擔保ニ放資スル權能ヲ有スル受託者ハ信託證書ニ明白ナル禁止ナキ限りハ左ノ各號ニ規定シタル放資ヲ爲スノ權能ヲ有スルモノト看做サル
 - (a)二百年以上ノ存續期間ヲ有スル財産ニシテ一年一志以上ノ地代保有權又ハ買戻權若ハ地代不支拂ノ場合ノ外取戻權ヲ伴ハサル財産ヲ抵當トスル貸付
 - (b)一八六四年ノ土地收良法ニ基キ設定シタル「チャージ」ニ對シ又ハ「チャージ」ヲ抵當トスル貸付

(二)鐵道會社又ハ之ニ準スヘキ會社ノ抵當又ハ社債ニ放資スル權能ヲ有スル受託者ハ信託證書ニ反對ノ規定ナキ限りハ鐵道會社又ハ前述諸會社ノデベンチユアストックニ放資スルコトヲ得

(三)鐵道又ハ他會社ノ社債又ハ「デベンチユアストック」ニ放資スル權能ヲ有スル受託者ハ信託證書ニ反對ノ規程ナキ限りハ一八七五年地方債條例ニ依リ發行セラレタル「ノミナルデベンチユア」又ハ又ハ「ノミナルデベンチユアストック」ニ放資スルコトヲ得

(四)「マン」島ニ於ル證券又ハ殖民地政府證券ニ放資スル權能ヲ有スル受託者ハ信託證書ニ反對ノ規定ナキ限りハ一八八〇年「マン」島債條例ニ依リ「マン」島廳ノ發行スル證券ニ放資スルコトヲ得

(五)議院法ニ依リ設立セラレ之ニ依リ活動スル會社ノ株券、株、抵當、貸金證書又ハ社債ニ對シ又ハ之ヲ擔保ニ徵シテ信託資金ヲ放資スル一般ノ權能ヲ有スル受託者ハ一八六五年ノ抵當附社債條例ニ依リ適法ニ發行セラレタル抵當附社債ニ對シ又ハ之ヲ擔保ニ徵シテ其資金ヲ放資スルコトヲ得

第六條 排水ノ爲メ賦課アルニ不拘放資スルコトヲ得ル權能

土地ニ放資シ又ハ土地抵當ヲ徵シテ放資シ得ル權能ヲ有スル受託者ハ信託證書ニ購入又ハ抵當ノ土地ハ從前ノ賦課ニ服セサルヘシトノ明白ナル規程ニアルニアラサレハ一八四六年ヨリ一八五六年ニ至ル排水補助條例又ハ一八四七年不動産改良條例又ハ一八六四年ノ土地改良法ニ基キ發セラ

レタル命令ニ依リ地代ヲ課セラル、場合ト雖モ土地ノ購入又ハ抵當ニ放資スルコトヲ得

第七條

受託者ハ「インスクライブドストック」ヲ所持人拂證券ニ變スヘカラサルコト

(一) 受託者ハ其信託約款ノ文言ニヨリ授權セラル、ニアラサレハ次ノ諸法律ニ基キ發行セラレタル所持人拂證券ヲ請求シ又ハ保有スルコトヲ得ス

(a) 一八六三年印度株證券條例

(b) 一八七〇年國債條例

(c) 一八七五年地方債條例

(d) 一八七七年殖民地株條例

(二) 本條例ハ英蘭銀行、愛蘭銀行又ハ前項ノ證券ヲ發行スルノ權能アル者ニ此ノ如キ證券ノ請求者

カ果シテ受託者ナリヤ否ヤヲ訊問スル義務ヲ科セス又受託者ヘ該證券ヲ許容シタルノ故ヲ以テ責任ヲ生セシムルコトナク其許容セラレタル場合ニ於ケル該證券ヲ無効ナラシムルコトナシ

第八條

受託者ノ爲ス貸金及放資ニシテ信託違反ノ責ヲ負ハサルモノ

(一) 財産ヲ擔保ニ徵シテ適法ニ貸付ヲ爲ス受託者ハ貸付ノ當時ニ於ケル財産ノ價格ノ限度迄貸付ヲ爲シタル理由ノミヲ以テ信託違反ノ責任ヲ負フコトナシ但シ貸付ヲ爲スニ當リ受託者ハ財産ノ存在スル地方ニ於テ財産所有者ニ關係ナク雇傭セラレタル測量師又ハ評價人ノ爲シタル報告ニ

基キ其價格ノ三分ノ二ヲ超エサル貸付ヲ爲シテ其評價格ノ適當ノモノナルコトヲ信スヘキ相當ノ理由アルトキニ限ル

(二) 貸借ノ財産ヲ擔保ニ徵シテ貸付ヲ爲ス受託者ハ其貸付ヲ爲スニ際シ貸借ノ權利ノ發生又ハ調査ヲ全部又ハ一部放棄シタル理由ノミヲ以テ信託違反ノ責ヲ負フコトナシ

(三) 財産ヲ購入シ又ハ之ヲ擔保ニ徵シテ貸金ヲ爲スニ際シ特別ノ契約ナキ場合ニ於テ購入者ノ有スル權利ヨリモ小ナル權利ヲ享受シタリトノ理由ノミヲ以テハ裁判所カ注意アル人ノ享受スル權利ト同一ナルヘシト決シタル場合ニ於テモ信託違反ノ責ヲ負フコトナシ

(四) 本條ハ訴訟其他ノ手續カ一八八八年十二月二十四日迄未決ナル場合ヲ除キ現存證券并ニ新證券ノ移轉及本法實施前并ニ後ニ爲シタル放資ニ付之ヲ適用ス

第九條

不當ナル放資ニ基ク損失ノ責任

(一) 受託者カ實際支出シタル金額ニ足ラサル價格ノ抵當擔保ニ對シ信託資金ヲ交付シタル場合ニ於テハ其擔保ハ實際ノ價格ノ限度ニ於テ適法ナル放資ト看做サレ受託者ハ其超過シタル部分ニ對シ利子ヲ支拂フノ責アルモノトス

(二) 本條ハ訴訟其他ノ手續カ一八八八年十二月二十四日迄未決ナル場合ヲ除キ本法施行前又ハ後ノ放資ニ付之ヲ適用ス

第二章 受託者ノ權利義務

其一 新規受託者ノ任命

第十條 新規受託者任命ノ權能

(一) 元來ノ又ハ之ニ代リタル受託者又ハ裁判所ノ任命ニ係ル若ハ然ラサル受託者カ死亡シ十二月以上英王國以外ニ居住シ、信託又ハ之ニ基ク權能ノ全部若ハ一部ヲ辭任シ、其履行ヲ拒絕シ又ハ履行ニ不適當トナリ若ハ履行スル能力ナキニ至リタルトキハ信託證書ニ新規受託者任命ニ關スル條項アル場合ニ在リテハ其證書ニヨリテ任命權ヲ有スル者、指示セラレタル者、若シ之ナキカ又ハアレトモ無能力者ナルカ又ハ其履行ヲ好マサル場合ニ在リテハ其當時生殘シ若ハ一時其職務ヲ繼續セル受託者又ハ其生殘者、若ハ繼續者死亡シタル時ニハ其代表者ニ於テ受託者タルヘキ一人若ハ數人ヲ文書ヲ以テ任命スルコトヲ得

(二) 信託財産ノ全部若ハ一部ニ對シ新規受託者ヲ任命スル場合ニ於テハ

(a) 受託者ノ數ヲ増加スルコトヲ得ヘク又

(b) 信託財産ノ他ノ一都ニ關スル受託者ノ外信託財産ノ或ル一部ニ付更ニ他ノ組ノ受託者ヲ任命スルヲ得、此部分ニ關シ新受託者ヲ任命セスシテ原始受託者カ新受託者ノ一人トシテ任命セ

ラルルコトヲ妨ケス、原始受託者ノ數一人ナリシトキハ更ニ任命セラレ、受託者モ亦一人ナルヘシ

(c) 初メ任命セラレタル受託者一人ナル場合ニアリテハ新規ニ一人以上ノ受託者ヲ任命スル義務ナク其初メ任命セラレタル者數人ナルトキハ當初ノ數ヲ充タスヘキ義務ナシ但シ初メ任命セラレタル受託者一人ナル場合ヲ除クノ外、少クトモ信託ヲ履行スルニ足ル受託者二人アルニアラサレハ一人ノ受託者ハ本條ニ依リ其信託契約ヨリ辭任スルヲ得サルモノトス

(d) 信託財産ヲ委付スルニ必要ナル事項ハ總受託者ニ對シ共同シテ之ヲ爲ス

(三) 新規受託者ハ一切ノ信託財産カ法律其他ニ依リ之ニ委付セラレタル前及後其信託證書ニヨリ初メヨリ任命セラレタル受託者ト同一ノ權能ヲ有シ且ツ同様ノ行爲ヲナスヲ得ヘシ

(四) 死亡受託者ニ關スル本條ノ規定ハ遺言ヲ以テ指定セラレタルトモ遺言人ニ先チテ死亡シタル受託者ノ場合ヲ包含ス、繼續受託者ニ關スル規定ハ本條ノ規定ヲ履行スル意思アルトキハ拒絕又ハ辭退受託者ヲ包含ス

(五) 本條ハ信託證書ニ反對ノ意思ヲ明示セサル場合ニ於テノミ適用ス而シテ信託證書ノ文言並ニ之ニ包含セラレタル規定ニ從ヒ効力ヲ生スヘシ

(六) 本條ハ本條施行前又ハ後ニ於テ設定セラレタル信託ニ付適用ス

第十一條 受託者ノ辭任

- (一) 受託者二人以上アル場合ニ於テ其一人カ證書ヲ以テ信託ヨリ辭任セララルヘキコトヲ宣言シ而シテ其同役及受託者任命ノ權能ヲ有スル者カ證書ヲ以テ其辭任ニ同意シ且ツ信託財産ヲ殘留受託者ニ委付セララル、コトニ同意シタルトキハ新規受託者ノ任命ナクトモ辭任ヲ望ム受託者ハ本法ニ基キ信託契約ヨリ辭任シタルモノト看做サル
- (二) 繼續受託者ヘ信託財産ヲ委付スルニ必要ナル事項ハ其者ノミニ對シテ之ヲ爲ス
- (三) 本條ハ信託證書ニ反對ノ意思ヲ明示セサル場合ニ適用ス而シテ其證書ノ文言並ニ之ニ包含セラレタル規定ニ從ヒ効力ヲ生スヘシ
- (四) 本條ハ本條例施行前又ハ後ニ於テ設定セラレタル信託ニ付適用ス

第十二條 新規又ハ繼續受託者ニ信託財産ヲ委付スルコト

- (一) 新規受託者任命證書カ信託契約ニ含マル、不動産、土地又ハ動産ノ利益、債務ヲ履行シ又ハ之ヲ受領スル權利其他ノ行爲權ヲ受託者ニ委付スヘキ旨ノ任命者ノ宣言ヲ包含スルトキハ其宣言ハ別段ノ讓渡證書ヲ要セスシテ共同借地人トシテ其信託ノ目的ノ爲メニ受託者ニ其不動産、利益又ハ權利ヲ委付スルノ効果ヲ生スルモノトス
- (二) 本法ニヨリ受託者カ辭任スル場合ノ證券カ辭任受託者、繼續受託者及受託者任命ノ權能アル者

ニ依リ爲サレタル本條ニ示シタル宣言ヲ包含スルトキハ其宣言ハ別段ノ讓渡證書ヲ要セスシテ繼續信託者ノミニ共同借地人トシテ信託ノ目的ノ爲メニ宣言ニ示サレタル不動産、利益又ハ權利ヲ委付スルノ効果ヲ生スルモノトス

- (三) 本條ハ法律上ノ不動産、コビーホルド又ハ習慣ニヨリテ有スル土地ノ利益、信託ニ屬スル金錢ヲ得ル爲メ抵當ニヨリ讓渡サレタル土地又ハ法律ニヨリ會社其他ノ團體ノ帳簿ニ於テノミ移轉スヘキ株券、株、年金其他ノ財産ニ付適用セララル、コトナシ

- (四) 登録簿ニ證書ノ登録ヲ爲ス場合ニ於テハ宣言者ヲ讓渡當事者ト看做シ讓渡證書ハ本法ニ依リ權限ヲ有スル宣言者ノ作成シタルモノト看做ス

- (五) 本條ハ一八八一年十二月三十一日以後ニ作成シタル證書ニ付テノミ適用ス

其二 賣 買

第十三條 賣買其他ノ方法ニヨリ賣却ヲ爲シ得ル受託者ノ權能

- (一) 受託者カ信託ニ基キ財産賣却ノ權能ヲ有スルトキハ賣買又ハ契約ノ方法ニヨリ一時ニ又ハ之ヲ分割シテ財産ノ全部又ハ一部ヲ賣却スルコトヲ得ヘシ此場合ニ於テハ損失ヲ負擔スルコトナクシテ賣却契約ヲ變更消滅シ又ハ再賣スル權能ヲ行使スル爲メ受託者ノ適當ト認ムル權源條件ニ從フコトヲ要ス

(二) 本條ハ信託證書ニ反對ノ意思ヲ明示セサル場合ニ於テノミ適用ス而シテ證書ノ文言並ニ之ニ包含セラレタル規定ニ從ヒ効力ヲ生スヘシ

(三) 本條ハ一八八一年十二月三十一日以後有効トナリタル證書ニヨリ設定セラレタル信託契約ニノミ適用ス

第十四條 減價的條件ニ從ツテ賣却スルノ權能

(一) 受託者ノ爲シタル賣却ハ賣却ニ際シ思慮不充分ナリト認メラル、場合ノ外賣却條件カ不必要ニ減價的ナル理由ヲ以テ受益者ヨリ彈効セラル、コトナシ

(二) 受託者ノ爲シタル賣却ハ讓渡證書作成ノ後ニ於テハ賣買契約成立ノ當時買手ト受託者ト共謀セリト認メラル、場合ノ外賣却ノ條件カ不必要ニ減價的ナル理由ヲ以テ買主ニ對シテモ彈効セラル、コトナシ

(三) 受託者ノ爲シタル賣却ニ付テハ買主ハ前ニ掲ケタル理由ニ基ク權源ニ付異議ヲ述フルノ自由ヲ有セス

(四) 本條ハ一八八一年十二月三十一日以後ノ賣却ニ付テノミ之ヲ適用ス

第十五條 37. & 38. Vtd. c. 78. ニ基ク賣却ノ權能

賣主又ハ買主タル受託者ハ一八七四年賣買者條例第二條ノ適用ヲ排除セスシテ賣買ヲ爲スコトヲ

得

第十六條 受動的受託者トシテノ有夫ノ婦ノ讓渡能力

フリーホルド又ハコビーホルドタル相續財產カ受動的受託者トシテノ有夫ノ婦ニ委付セラレタルトキハ其婦ハ獨立ノ婦ト同シク之ヲ讓渡シ又ハ引渡スコトヲ得

其三 各種ノ權利義務

第十七條 銀行業者又ハ訴訟代理人ニ受取證書ヲ作成セシムル權能

(一) 受託者ハ一八八一年讓渡及財產法第五十六條ニ規定スル受取證書ノ保管及作成ヲ訴訟代理人ニ認許スルニ依リ其訴訟代理人ヲ信託契約ニ基キ受託者ヨリ受領セラルヘキ金錢又ハ有價物ノ受拂代理人トシテ任命スルヲ得、受託者ハ其任命ヲ爲シタル理由ノミヲ以テ信託違反ノ責ヲ負フコトナシ訴訟代理人ノ爲ス證書ノ作成ハ各本條ニ於テ訴訟代理人ヲ選命スル者カ受託者ニアラサル場合ト同一ノ効果ヲ有スヘシ

(二) 受託者ハ其捺印受取證書有スル保險證書ノ保管及作成ヲ銀行業者又ハ訴訟代理人ニ認許スルニ依リ其銀行業者又ハ訴訟代理人ヲ保險證書ニ基ク受託者ノ金錢受拂代理人トシテ命スルコトヲ得、受託者ハ其任命ヲ爲シタル理由ノミヲ以テ信託違反ノ責ヲ負フコトナシ

(三) 受託者カ銀行業者又ハ訴訟代理人ヲシテ受託者ニ支拂又ハ移轉ヲ爲サシムルニ必要ナル期間ヲ

超エテ金錢又ハ有價物ノ留置ヲ認許シタルトキハ本法不施行ノ場合ニ生スヘカリシ受託者ノ義務ハ本條ニ依リテ免除スルノ限リニアラス

(四)本條ハ一八八一年十二月二十四日以後受領セラルヘキ金錢又ハ有價物ニ付テノミ之ヲ適用ス

(五)本條ハ信託證書ニ明文ヲ以テ禁止シ又ハ命シタル事項ヲ受託者ニ認容スルノ權能ヲ賦與スルコトナシ

第十八條 建物ヲ保險ニ付スルノ權

(一)受託者ハ建物其ノ他保險ニ付テ得ヘキ財産價格ノ四分ノ三ヲ超エサル限度(既ニ付セラレタル保險金額ヲ含ミ)迄損害又ハ火災保險ヲ附スルコトヲ得此場合ニ於テハ該信託財産ヨリ生スル收益又ハ同一信託ニ屬スル他ノ財産ヨリノ收益ヲ以テ保險料ノ支拂ニ充ツルコトヲ得、其收益ニ關シ全部又ハ一部ヲ收得スルコトヲ得ル權利者ノ同意ヲ得ルコトヲ要セス

(二)本條ハ受託者カ受益者ノ請求ニ依リ無條件ニ移轉スル義務アル建物又ハ財産ニ付之ヲ適用セス
(三)本條ハ本條例施行前又ハ後ニ設定シタル信託ニ付之ヲ適用ス但シ信託證書ニ明文ヲ以テ禁止シ又ハ命シタル事項ヲ受託者認容スルノ權能ヲ賦與スルコトナシ

第十九條 更新シ得ヘキ貸借ノ受託者カ更新及其目的ノ爲メニ金錢ヲ調達スルノ權能

(一)證書契約契約又ハ慣行ニヨリ何時ニテモ更新セラレ得ル終身又ハ年期貸借ノ受託者ハ適當ナ

リト思惟スルトキハ慣習又ハ相當ノ條件ヲ以テ其相續財産ヲ更新貸借スルニツキ全力ヲ用ユルヲ得ヘク而シテ現在、將來又ハ未確定ノ貸借受益者カ請求シタルトキハ常ニ全力ヲ用ユルヲ要ス此目的ノ爲メニ受託者ハ現存期間ノ貸借地ノ交付ヲ爲シ又ハ必要ナル他ノ行爲ヲ爲スヲ得但シ設定行爲又ハ遺言ノ文言ニヨリ畢生間ノ所有其ノ他ノ制限的利益ヲ有スル者カ更新スヘキ義務又ハ更新ノ費用ヲ供スル義務ナクシテ之ヲ享受スルノ權利アルトキハ受託者カ更新ニ關スル受益者ノ文書ニ依ル同意ヲ得タル場合ノ外本條ヲ適用セサルモノトス

(二)更新ノ爲メ金錢ヲ支拂フノ要アルトキハ更新ヲ爲ス受託者ハ更新貸借ニヨリ利益ヲ受クル者ノ爲メ信託ニヨリ其當時手中ニ存スル金錢中ヨリ之ヲ支拂フヲ得ヘシ其目的ノ爲メ充分ナル金錢ヲ所持セサルトキハ更新貸借ニ包含セラルヘキ相續財産ヲ抵當トシ又ハ其當時用益又ハ信託ニ屬スル其他ノ相續財産ヲ抵當トシテ金錢ヲ調達スルヲ得ヘシ而シテ此權限ニ基ク抵當ニ由リ金錢ヲ貸與スル者ハ其金錢カ實際必要ナルコト又ハ貸與セラレタル金錢ハ必要ノ限度ヲ超エサリシコトヲ監視スルノ義務ナキモノトス

(三)本條ハ本條例施行前并ニ後ニ設定セラレタル凡テノ信託ニ付テモ之ヲ適用ス但シ信託證書ニ明文ヲ以テ禁止シ又ハ命シタル事項ヲ受託者ニ認容スルノ權能ヲ賦與スルコトナシ

第二十條 受取證ヲ與フル受託者ノ權能

(一) 信託ニ基キ支拂移轉、讓渡セラル、金錢、證券其他ノ人的財産又ハ不動産ニ對スル受託者ノ文言ニヨル受取證ハ之ニ對スル充分ナル責任ノ免除タルヘシ而シテ支拂、移轉又ハ交付スル者ハ適用注意義務過失又ハ損失ニ對シ責任ヨリ免ルヘシ

(二) 本條ハ本條例施行前並ニ後ニ設定セラレタル信託ニ付之ヲ適用ス

第二十一條 和解其他ヲ爲スコトヲ得ル遺言執行者又ハ受託者ノ權能

(一) 遺言執行者又ハ財産管理人ハ充分ナリト思料スル證據ニ基キ負債又ハ要求ヲ辨濟シ又ハ容認スルコトヲ得ヘシ

(二) 遺言執行者、財産管理人、一團トシテ行爲ヲ爲ス二人以上ノ受託者、又ハ信託證書ニ依リ一人ノ受託者ノミカ權利ヲ有スル場合ニ於テ其單一受託者ハ適當ト思惟スルトキハ負債又ハ要求セラレタル不動産、動産ニ對シテ一部償還和解又ハ不動産、動産ノ擔保ヲ受取り何時ナリトモ債務ノ支拂ヲ認容シ又和解拋棄ヲ爲シ仲裁ニ應ジ若ハ負債、勘定、要求又ハ遺言者或ハ遺言ナクシテ死亡シタル者ノ不動産又ハ信託ニ關スル物件ヲ決裁スルコトヲ得、此等ノ目的ノ爲メニ合意ヲ爲シ、相解、免除其他適當ナル事項ニ關スル證書ヲ作成スルコトヲ得、誠實ニ執行シテ尙損害ヲ生シタルトキハ其責ニ任セス

(三) 本條ハ信託證書ニ反對ノ意思ヲ明示セサル場合ニ於テノミ適用ス而シテ證書ノ文並ニ之ニ包含

セラレタル規定ニ從ヒ効力ヲ生スヘシ

(四) 本條ハ本條例施行前又ハ後ニ於テ成立又ハ設定セラレタル遺言執行、財産管理及信託ニ付之ヲ適用ス

第二十二條 二人以上ノ受託者ノ權能

(一) 二人以上ノ受託者カ共同シテ信託行爲ヲ履行スヘキ場合ニ於テハ信託證書ニ反對ノ規定アル場合ヲ除キ當時ノ生殘者ニ於テ之ヲ履行スヘキモノトス

(二) 本條ハ一八八一年十二月三十一日以後効力ヲ生スル信託證書ニ付テノミ之ヲ適用ス

第二十三條 代人一定ノ權能ニ關スル受託者ノ免責

代人タル權能ヲ以テ誠實ニ勤務シ又ハ金錢ヲ支拂フ受託者ハ行爲又ハ支拂ノ當時代人タル權能ヲ賦與シタル人カ死亡シ又ハ與ヘタル權能ヲ剝脱シタル場合ト雖モ受託者ニ於テ其事實ヲ知ラサルトキハ行爲又ハ支拂ニ對シテ責ヲ負フコトナシ

但シ本條ハ其金錢ニ權利ヲ有スル者カ支拂ヲ受ケタル者ニ對スル權利ヲ妨ケス該權利者ハ受託者ニ對シテ有スルト同一ノ救濟ヲ支拂ヲ受ケタル者ニ對シテ主張スルヲ得ヘシ

第二十四條 受託者ノ默示ノ損害賠償

信託證書ノ規定ニ反セサルトキハ適式ニ受取證書ニ捺印シタル場合ト雖モ受託者ハ實際ニ受取リ

タル金錢及有價證券ニ付テノミ責ヲ負フヘキモノトス而シテ自己ノ行爲受取證怠慢又ハ過失ニ對シテノミ責任ヲ有シ他ノ受託者、銀行、仲買人其ノ他信託資金又ハ有價證券ヲ預リ人ノ所爲ニ對シ若ハ擔保ノ不足其他ノ損失ニ對シテ責ニ任セス但シ故意ノ怠慢ニ基ク場合ハ此限リニアラス而シテ信託履行ニ關スル費用ハ信託財産ヨリ之ヲ辨償シ又ハ支辨スルコトヲ得ルモノトス

第三章 裁判所ノ權能

其一 新規受託者ノ任命及委付命令

第二十五條 新規受託者任命ニ關スル裁判所ノ權能

- (一) 中央裁判所ハ新規受託者ノ任命ヲ便宜ト認メ且ツ裁判所ノ後援ナクシテ之ヲ任命スルコト不便、困難又ハ不可能ナル場合ニ於テハ何時ナリトモ既存受託者ノ代リニ又之ニ増加シテ又ハ現存セサルトキハ別ニ新規受託者ヲ任命スヘキ命令ヲ發スルコトヲ得、裁判所ハ重罪ノ宣告ヲ受ケ又ハ破産ヲ爲シタル受託者ニ代バルヘキ新規受託者ノ任命ニ付テ特ニ命令ヲ發スルコトヲ得
- (二) 本條ニ依ル命令及之ニ伴フ委付命令又ハ讓渡命令ハ從前又ハ繼續受託者ノ責任ノ免除ヲ除キ信託證書ニ包含セル新規受託者任命ノ効果以外ニ効力ヲ有セス
- (三) 本條ハ遺言執行者又ハ財産管理人任命ノ權能ヲ賦與スルコトナシ

第二十六條 土地ニ關スル委付命令

次ノ各號ノ場合即チ

- (i) 中央裁判所カ新規受託者ヲ任命シタルトキ
- (ii) 單獨ニ又ハ他人ト共同シテ土地ノ上ニ權源ヲ有シ又ハ之ヲ所有シ若ハ未確定ノ權利ヲ有スル受託者カ
 - (a) 未成年者ナルトキ
 - (b) 中央裁判所ノ管轄區域外ニ住居スルトキ
 - (c) 失踪シタルトキ
- (iii) 土地ノ所有又ハ權利ヲ共同ニ行フ二人以上ノ受託者中何レカ生殘者ナリヤ不明ナルトキ
- (iv) 土地ノ上ニ權源ヲ有シ又ハ之ヲ所有セリト認メラル、最終ノ受託者ノ生存又ハ死亡カ分明ナラサルトキ
- (v) 土地ノ上ニ權源ヲ有シ又ハ之ヲ所有スル受託者該土地ニ付遺言ヲ爲サシテ死亡シタル場合ニ於テ其受託者ニ相續人又ハ人的代表者ノ存セサルトキ又ハ該受託者ノ相續人、人的代表者若ハ不動産受遺者カ分明ナラサルトキ
- (vi) 共同又ハ單獨ニ土地ノ上ニ權源ヲ有シ又ハ之ヲ所有シ若ハ土地ニ付テ未確定ノ權利ヲ有スル受

託者カ其土地ノ移轉又ハ權利ノ免除ヲ要求シ得ル者ノ爲メニ之ヲ移轉シ若ハ權利ノ免除ヲ要求
セラレ其要求後二十八日間故意ニ其移轉又ハ免除ヲ拒ミタルトキ

ハ中央裁判所ハ其指令スル者ニ一定ノ方法ヲ以テ該土地ヲ委付シ(本法ハ委付命令ト稱ス)又ハ
其指令スル者ニ未確定權利ノ免除又ハ處分ヲ爲スヘキ旨ノ命令ヲ發スルコトヲ得
但シ

(a)命令カ新規受託者任命ニ必然件ヲモノナルキハ土地ハ裁判所ノ命令スル狀態ニ於テ任命ノ當時
受託者タル人々ニ委付セラレヘシ

(b)命令カ他人ト共同シテ權利ヲ有スル受託者ニ關係シ而シテ其受託者カ中央裁判所管轄區域外ニ
住居シ又ハ失踪シタルトキハ土地又ハ權利ハ其他ノ者ニ單獨ニ又ハ他ノ第三者ト共同シテ委付
セラレヘシ

第二十七條 未タ出生セサル者ノ未確定ノ權利ニ關スル命令

信託土地ニ權源ヲ有シ又ハ所有スルニ至ルヘキ未生人カ土地ノ上ニ未確定ノ權利ヲ有スル場合ニ
於テハ中央裁判所ハ其土地ヨリ未確定ノ權利ヲ免除セシメ又ハ未生人カ出生ノ場合ニ所有スルニ
至ルヘキ土地ヲ他ノ第三者ニ委付スル命令ヲ發スルコトヲ得

第二十八條 未成年者抵當ニヨリ移轉ニ代ハル委付命令

金錢ニ對スル擔保トシテ土地ヲ所有シ又ハ土地ノ上ニ未確定ノ權利ヲ有スル人カ未成年者ナルト
キハ中央裁判所ハ未成年者信託ノ場合ニ於ケルト同一ノ方法ニヨリ土地又ハ權利ノ委付免除又ハ
處分ノ命令ヲ發スルコトヲ得

第二十九條 相續人、相續人ノ土地受遺者其他抵當權者ノ人的代表者ニヨル讓渡ニ代ハル委付命令

土地ノ抵當權者カ地代及其利益ヲ受領スルニ至ラスシテ死亡シ抵當ニ關スル金錢カ之ヲ受取ルヘ
キ權利アル者ニ支拂ハレ又ハ後者カ土地ノ再讓渡ニ關スル命令ニ同意シタルトキハ裁判所ハ次ニ
掲クル場合ニ於テ土地ノ委付命令ヲ發スルコトヲ得

(a)抵當權者ノ相續人、人的代表者又ハ土地受遺者カ中央裁判所ノ管轄區域外ニ住居シ又ハ失踪シ
タルトキ

(b)土地ノ讓渡ヲ要求スル權利ヲ有スル人ノ爲メニ爲サレタル要求ニ基キ抵當權者ノ相續人、人的
代表者又ハ土地受遺者カ適當ナル土地讓渡證書提示後二十八日以内ニ之ヲ讓渡スルヲ欲セス又
讓渡ヲ爲サル旨ヲ文書ヲ以テ表示シタルトキ

(c)抵當權者ノ多數ノ土地受遺者ノ何レカ生殘者ナリヤ不明ナルトキ

(d)抵當權者ノ多數ノ土地受遺者中生殘者又ハ抵當權者ノ相續人又ハ人的代表者ニ關シ其生死カ不
明ナルトキ

(e) 土地ニ關シテ遺言ヲナスシテ死亡シタル抵當權者ニ相續人又ハ人的代表者ノ存セサルトキ又ハ抵當權者ノ死亡シ而シテ何人カ其ノ相續人、人的代表者又ハ土地受遺者ナリヤ分明ナラサルトキ

第三十條 土地ノ賣買又ハ抵當ニ對スル判決ニ次ク委付命令

裁判所カ土地賣却又ハ抵當ノ判決又ハ命令ヲ爲シタル場合ニ於テハ土地ノ上ニ權源ヲ有シ之ヲ所有シ又ハ未確定ノ權利ヲ有シ且ツ判決又ハ命令ノ當事者ナル各人ハ本法ニ於テ之ヲ受託者トシテ權利ヲ有スルモノト看做ス中央裁判所ハ適當ト認ムル場合ニ購買者、抵當權者又ハ他ノ者ニ土地ノ全部又ハ一部ノ委付命令ヲ發スルコトヲ得

(註) 一八九四年六月十八日受託者法中改正法第一條ニヨリ修正セラレタルモノ

第三十一條 實質的履行其他ニ對スル判決ニ次ク委付命令

土地ニ關スル契約ノ實質的履行ニ付又ハ割地、割地ニ代ハル賣却若ハ交換ニ付判決ヲ下シタル場合又ハ一般ニ土地ノ讓渡ニ付判決ヲ下シタル場合ニ於テハ中央裁判所ハ訴訟當事者ハ本法ニ於テ土地ノ受託者ナリト宣告シ又ハ訴訟當事者ニ基キ又ハ生前判決關係ノ契約ノ當事者タリシ死亡者ノ遺言又ハ任意ノ設定行爲ニ基キ主張シ得ル未生人ノ利益カ出生ノ場合ニハ本法ニ於テ受託者トナルヘキ者ノ利益ナリト宣告シ之ニ依リテ以テ中央裁判所ハ出生人又ハ未生人ノ權利ニ關スル委

付命令ヲ發スルコトヲ得

第三十二條 委付命令ノ効果

前數條ノ規定ニ基ク委付命令ハ新規受託者任命ニ伴フ委付命令ノ場合ニ於テハ任命前受託者タリシ者ハ中央裁判所ノ命令スルカ如キ狀態ニ於テ土地ノ一切ノ適當ナル讓渡ヲ爲シタリシト同一ノ効果ヲ有ス又若シ受託者無ク又ハ充分ナル能力ヲ有セサルトキハ恰モ受託者アリ而シテ充分ノ能力ヲ有シ中央裁判所ノ命令スル方法ニヨリ凡テ適當ナル讓渡行爲ヲ適當ニ履行シタルト同一ノ効果ヲ有ス其他ノ場合ニ於テハ受託者又ハ前掲規定ニ關聯スル者ハ凡テ充分ナル能力ヲ有スル現存人ニシテ命令ニ依ル効果ヲ發生セシムル爲メニ讓渡行爲又ハ免除ノ履行ヲ爲シタルト同一ノ効果ヲ有ス

第三十三條 讓渡人ヲ任命スル權能

委付命令ヲ發シ得ヘキ凡テノ場合ニ於テ中央裁判所ハヨリ便宜ナリト認ムルトキハ土地ヲ讓渡シ又ハ未確定ノ權利ヲ免除スヘキ者ヲ任命スルコトヲ得而シテ其者ノ命令ニ從ヒ爲シタル讓渡又ハ免除ハ尙該規定ニ基ク命令ト同一ノ効果ヲ有ス

第三十四條 コピーホルドニ關スル委付命令ノ効果

(一) 地主ノ同意ヲ得本法ニ基キコピーホルド委付ノ命令ノ發セラレタル場合ニ於テハ其地ハ *split*

under 又ハ admittance ヲ要セスシテ直ニ委付セラルヘシ

- (二) 本法ニ基キコビーホールドノ讓渡人ヲ任命スル命令ノ發セラレタルトキハ讓渡人ハ土地ノ確認證ヲ作成スル一切ノ事項ヲ爲スヲ要ス地主及其他ノ者ハ領地ノ慣習並ニ普通ノ義務履行方法ニ從ヒ恰モ任命前ノ人カ無能力ニアラス確認其他ノ事項ヲ履行シタルカ如ク土地ニ admittance ヲ爲シ且ツ土地ノ確認ニ必要ノ事項ヲ爲スノ義務アルモノトス

第三十五條 株、close in action ニ關スル委付命令

(一) 左ニ掲クル場合即チ

- (i) 中央裁判所カ新規受託者ヲ任命シタルトキ
- (ii) 單獨ニ又ハ他人ト共同シテ株又ハチョーズ、イン、アクションニ權利ヲ有スル受託者カ
 - (a) 未成年者ナルトキ
 - (b) 中央裁判所ノ管轄區域外ニ住居スルトキ
 - (c) 失踪シタルトキ
 - (d) 文書ヲ以テ爲シタル要求後二十八日間ニ其權利者ノ指示ニ從ヒ株ヲ移轉シ又ハ其配當若ハ收益ヲ受領スルコト又ハチョーズ、イン、アクションノ追求回復ヲ怠リ又ハ拒絕シタルトキ
 - (e) 中央裁判所ノ命令後二十八日以内ニ株ヲ移轉シ其配當又ハ利益ヲ受領シ又ハチョーズ、イン、アクションヲ追求回復スルコトヲ怠リ又ハ拒絕シタルトキ

ン、アクションヲ追求回復スルコトヲ怠リ又ハ拒絕シタルトキ

- (iii) 單獨又ハ他人ト共同シテ株又ハチョーズ、イン、アクションニ權利ヲ有スル受託者ノ生死不明ナルトキ

ハ中央裁判所ハ其任命ニ係ル者ニ株ヲ讓渡シ其配當又ハ收益ヲ受領シチョーズ、イン、アクションヲ追求回復スル權利ヲ委付スル命令ヲ發スルコトヲ得

但

- (a) 裁判所ノ新規受託者任命ニ伴フテ命令ヲ發シタル場合ニハ其權利ハ任命ノ際受託者タル者ニ附與セラルヘク

- (b) 命令ニ依リ權利ヲ處セラル、者カ他人ト共同ニ權利ヲ有スル場合ニ於テハ其權利ハ他人單獨ニ又ハ裁判所ノ任命スル其他ノ第三者ト共同ニ委付セラルヘシ

- (二) 本條ニ依リ委付命令ヲ發スル凡テノ場合ニ於テ裁判所ハヨリ便宜ナリト認ムルトキハ引渡ヲ爲スヘキ相當ノ者ヲ任命スルコトヲ得

- (三) 本法ニ基キ裁判所ノ命令ニ依リ權利ノ讓渡ヲ爲ス權利ヲ附與セラレタル者ハ命令ニ基キ自己又ハ其他ノ者ニ株ヲ讓渡スルコトヲ得、而シテ英蘭銀行及愛蘭銀行其他ノ會社ハ本條ニ基ク命令ヲ遵奉セサルヘカラス

(四) 本條ニ基ク命令ヲ文書ヲ以テ通知シタル後英蘭銀行、愛蘭銀行其他ノ會社カ株又ハ其配當ヲ讓渡シタルトキハ違法ナリトス但シ命令ニ別段ノ指令アルトキハ此限リニアラス

(五) 中央裁判所ハ本法ノ規定ニヨリ賦與セラレタル株又ハチヨーズ、イン、アクシヨンニ對スル權利ヲ行使スヘキ方法ニ關スル宣告又ハ指令ヲ爲スコトヲ得

(六) 委付命令ニ關スル本法ノ規定ハ商船ニ關スル條例ニ基キ登錄セラレタル船株ニ準用ス

第三十六條 命令ヲ請求シ得ヘキ者

(一) 新規受託者任命ニ關スル命令又ハ信託契約ニ屬スル土地、株若ハチヨーズ、イン、アクシヨンニ關スル命令ハ無能力ニ基クト否トニ係ラス土地、株又ハチヨーズ、イン、アクシヨンノ受益者ノ請求ニヨリ又ハ受託者ヲ適法ニ任命シタル者ノ請求ニヨリ發セラルヘシ

(二) 抵當ニ附セラレタル土地、株又ハチヨーズ、イン、アクシヨンニ關スル本法ノ命令ハ無能力ニ基クト否トニ係ラス償却ノ爲メニ利益ヲ受クル者又ハ抵當ニヨリ擔保セラレタル金銭ニ利益ヲ有スル者ノ請求ニヨリ發セラルヘシ

第三十七條 裁判所ノ任命ニ係ル新規受託者ノ權能

完全ナル權限ヲ有スル裁判所ノ任命ニ係ル受託者ハ信託財產カ法律、確認證書又ハ其他ノ方法ニヨリ委付セラレタル前並ニ後共信託契約ニヨリ當初ニ任命セラレタル場合ト同一ノ權力、權限及

行爲能力ヲ有ス

第三十八條 信託不動産ニ費用ヲ課スル權能

中央裁判所ハ新規受託者選任ニ關スル命令、委付命令其他之ニ伴フ命令ノ請求又ハ之ニ基ク讓渡移轉ノ費用及之ニ伴フ費用ヲ該土地又ハ人的不動産ヨリ支拂ヒ又ハ裁判所ノ正當ナリト認ムル方法ニヨリ其指示スル者ニ支拂フコトヲ命スルコトヲ得

第三十九條 公益信託ノ受託者

委付命令ニ關シ本法ニヨリ賦與セラレタル權能ハ其任命ノ信託證書ニヨルト裁判所ノ權限ニヨルトヲ問ハス中央裁判所ノ管轄權下ニ在ル慈善團體其他ノ組合ノ受託者ニ屬スル土地、株、チヨーズ、イン、アクシヨンヲ委付スルコトニ付テモ亦行使スルヲ得ヘシ

第四十條 一定ノ申立ニ基ク命令ハ最後ノ證據タルヘキコト

本法、一八九〇年瘋癲ニ關スル條例又ハ愛蘭ニ於ケル瘋癲ニ關スル條例ニ依リ受託者又ハ抵當權者ノ人的無能力ノ申立又ハ受託者、其相續人、人的代表者又ハ抵當受遺者カ中央裁判所ノ管轄區域外ニ住居シ、失踪シ又ハ受託者、抵當受遺者ノ孰レカ生殘者ナリヤ、最後ノ受託者、相續人、人的代表者、抵當受遺者カ生殘セリヤ不明ナルカ又ハ受託者又ハ抵當權者カ相續人ナク、遺言ヲ爲サスシテ死亡シ其人的代表者又ハ受遺者カ知レサル等ノ申立ニ基キ土地ニ關スル委付命令ノ發

セラル、場合ニ於テハ該命令ノ基ク事實ハ該命令ノ効力ニ關スル一切ノ問題ニ付テ凡テノ裁判所ニ於テ申立テラレタル事項ノ最終證據タルヘシ但シ本條ハ不適當ニ命令ヲ受ケタル場合ニ於ケル再讓渡又ハ命令ニ依リ生シタル費用ノ支拂ヲ命スル中央裁判所ノ權能ヲ妨ケス

第四十一條 英蘭以外ノ土地ニ及フ委付命令ノ適用

本法ニ基キ委付命令ヲ發スヘキ英國中央裁判所ノ權能ハ蘇蘭ヲ除キ女王陛下領土中ノ一切ノ土地及人的不動産ニ及フヘシ

(註)

一八九四年受託者法中改正法律第二條蘇格蘭ヲ除キ女王陛下領土内ニ於ケル凡テノ土地及パーソナルエステートニ對シ
委付命令ヲ發スヘキ一八九三年受託者法第四十一條ニヨル英蘭中央裁判所ニ附セラレタル權能ハ今後愛蘭ニ於ケル中央
裁判所ニ依リテモ實行セラルヘシ

其二 受託者ノ爲ス裁判所ヘノ供託

第四十二條 受託者ノ爲ス裁判所ヘノ信託

- (一) 信託ニ屬スル金錢又ハ有價證券ヲ所持スル受託者ハ之ヲ中央裁判所ニ供託スルコトヲ得金錢又ハ有價證券ハ裁判所ノ規則ニ定ムル所ニ從ヒ中央裁判所ノ命令ニ依リ處分セラルヘシ
- (二) 適當ナル官吏ノ受取證又ハ證明證ハ裁判所ニ供託セラレタル金錢又ハ有價證券ニ付受託者ニ對スル充分ノ免責タルヘシ

- (三) 金錢又ハ有價證券カ受託者タル者ニ委付セラレ其多數ハ裁判所ヘノ供託ヲ希望スレトモ一部ノ同意ヲ得難キ場合ニ在リテハ中央裁判所ハ其一部ノ同意ヲ要セスシテ裁判所ヘ供託スヘキコトヲ命スルヲ得ヘシ、金錢又ハ有價證券ニシテ銀行、ブローカー、又ハ其他ノ預入者ニ預入セラレアル場合ニ於テハ裁判所ハ其預リ人ニ對シ供託ノ爲メ受託者ノ多數ヘ金錢又ハ有價證券ノ拂戻又ハ引渡ヲ命スルコトヲ得、本命令ニヨル支拂引渡ハ權利者ノ爲シタルト同一ノ効力ヲ有ス

其三 雜 則

第四十三條 受託者不在ノ場合ニ判決ヲ下ス權能

中央裁判所ハ訴ニ關シ受託者ノ資格ニテ訴訟ノ被告人タル者ニ對シ精密ニ搜索シ且ツ其人ヲ發見スルヲ得サリシ場合ニ於テハ受託者ノ資格ニ於ケル者ニ對シ恰モ法定ニ出席シ辯護人又ハ訴訟代理人モ亦出廷シタルカノ如ク訴ヲ聽キ之ヲ決定シ判決ヲ下スコトヲ得

第四十四條 土地又ハ礦物ヲ分別シテ賣却スルヲ認可スル權能

- (一) 受託者又ハ其他ノ者カ賣却、交換、割地又ハ自由回復ノ方法ニヨリ土地處分ノ權能ヲ有スル場合ニ於テハ裁判所ハ礦物ヲ除外又ハ留保シ及礦物ヲ獲得又ハ運搬スル權能ヲ附シ若ハ之ヲ附セスシテ土地ヲ處分シ又ハ土地ノ殘餘ヨリ分離シテ前述ノ權能ヲ附シ又ハ之ヲ附セスシテ礦物ヲ處分スルコトヲ認可シ得ヘシ

(註) 一八九四年受託者法中改正法律ヲ以テ受託者ノ次ニ其他ノ者ヲ挿入ス

(二) 前述ノ認可ヲ受ケタル受託者ハ信託證書ニ禁止ナキ限りハ裁判所ニ別段ノ請求ヲ要セスシテ土地又ハ礦物ノ處分ヲ爲スコトヲ得

(三) 本條ハ一八八二年ヨリ一八九〇年ニ至ル「セツトルドランド」條例ニヨリ受託者ノ有スル權能ヲ毀損スルコトナシ

第四十五條 受益者ヲシテ信託違反ノ賠償ヲ爲サシムル權能

(一) 受託者カ受益者ノ文書ヲ以テセル教唆、請求、又ハ同意ニ因リ信託違反ヲ爲シタルトキハ中央裁判所ハ適當ト認ムル場合ニ於テ又假令受益者カ分離收益ノ權利ヲ有シ及先取權ヲ制限セラレタル有夫ノ婦ナリシ場合ト雖モ受託者又ハ受託者ヲ通シテ請求スル者ニ賠償ノ方法ニ依リ信託不動産ニ對スル受益者ノ利益ノ全部又ハ一部ヲ拘束スル命令ヲ下スコトヲ得

(二) 本條ハ本法施行前並ニ後ニ於ケル信託違反ニ付之ヲ適用ス但シ一八八八年十二月二十四日又ハ本法實施期ニ於テ係屬セル訴其他手續中ニ在ル問題ニ付テハ之ヲ適用セス

第四十六條 宮廷又ハ地方裁判所ノ管轄權

中央裁判所ニ關スル本法ノ規定ハ宮廷又ハ地方裁判所ノ管轄内ニ於ケル事件ニ付適用ス而シテ本法ニ基ク宮廷又ハ地方裁判所ノ處分ハ該裁判所ノ處分ヲ羈束スル本法並ニ其他ノ規則ニ依ルヘキ

モノトス

第四章 附 則

第四十七條 信託者任命ニ關スル規程ヲ「セツトルドランド」條例ノ受託者ニ適用スルコト

(一) 新規受託者ノ任命、解任及辭任ニ關スル本法ノ規定ハ一八八二年ヨリ一八九〇年ニ至ル「セツトルドランド」條例ニ依リ裁判所ノ任命、設定行爲又ハ之ニ基ク規定ニ從ヒ任命セラレタル受託者ニ付之ヲ適用ス

(二) 本條ハ本法施行前並ニ後ニ生シタル受託者ノ任命、解任及辭任ニ付之ヲ適用ス
(三) 本條ハ一八八一年財産讓渡條例ノ規定ニ依ル場合ノ外本法實施前効力ヲ發生シタル受託者ノ任命、解任及辭任ヲ無効ナラシメス

第四十八條 信託不動産ハ犯罪人トナリタル受託者ニ依リ影響ヲ蒙ルコトナシ

信託ハ抵當ノ方法ニヨリ或人ニ委付セラレタル財産ハ其人カ一八七〇年沒收條例上ノ犯罪人トナリタル場合ニ於テモ該條例ニ依リ任命セラレヘキ財産管理人ニ委付セラレヘカラスシテ受託者又ハ抵當權者ニ於テ之ヲ留保シ或ハ恰モ彼カ犯罪人トナラザリシ場合ト同シク共同受託者ニ殘存シ又ハ其代表者ニ傳來ス、但シ本法ハ受託者又ハ抵當權者ノ享受スル利益ニ關スル限度ニ於テ財産

上ノ權源ニ影響ヲ及スコトナシ

第四十九條 保障

本法及本法ニ基キ發セラル、命令ハ之ニ從ヒ爲シタル行動ニ付英蘭銀行、愛蘭銀行及凡テノ人ニ對スル保障タルヘシ銀行及各人ハ命令ノ正當ナルコト又ハ裁判所カ正當ナル管轄權ヲ有セシヤ否ヤヲ尋問スルノ要ナシ

第五十條 定義

本法ニ於テハ別ニ説明ナキ限リハ「破産」ナル語ハ愛蘭ニ於テハ支拂不能ヲ包含ス
土地ニ適用セラル、「未確定ノ權利」ナル語ハ不明ナルモ未確定ノ實現シ得ヘキ利益又ハ利益ニ伴フ確ラシサ及即時又ハ未來ノ立入權ヲ包含ス
人ニ對シテ適用セラル、「讓渡スル」又ハ「讓渡」ナル語ハ土地ノ讓渡交付其他移轉處分ノ爲メ必要又ハ適當ナル確認ノ實行ヲ包含ス
「受遺者」ナル語ハ受遺者ノ相續人、相續人ノ受遺者及同種ノ權利ノ移轉ニヨリ之ヲ主張シ得ル者ヲ包含ス

「證書」ナル語ハ議院法ヲ包含ス

「土地」ナル語ハ封建ノ領地、名義上ノ封建領地、有形無形ノ相續財產其ノ利益及不可分ノ共有地

ヲ包含ス

「抵當」及「抵當權者」ナル語ハ各々單ニ金錢ニ對スル擔保トシテ衡平法上思考セラレタル不動產及利益及原始抵當權者ニ依リ權源ヲ委讓セラレタル者ヲ意味ス

「支拂フ」又「支拂」ナル語ハ株又ハ有價證券ニ關シ又ハ「裁判所」ナル語ト結ヒ付キタル場合ニ於テハ裁判所ヘ之ヲ供託スルコトヲ包含ス

「所有シタル」ナル語ハ畢生間ヨリ短キ期間ノ委付不動產又ハ其收益ノ受領證ニ適用ス

「財產」ナル語ハ物的、財產人的財產、不動產、物的財產又ハ人的財產ノ利益債務訴訟中ノ物、所有又ハ所有セサル權利又ハ利益ヲ包含ス

「權利」ナル語ハ不動產及利益ヲ包含ス

「有價證券」ナル語ハ株、「ファンズ」及株式ヲ包含シ裁判所ヘノ供託ノ場合ニハ衡平法條例ニ於ケルト同一ノ意味ヲ有ス

「株」ナル語ハ金額拂込ノ株式ヲ包含ス而シテ本法ニ依リ裁判所ノ發シタル委付命令ニ關スル場合ニハ會社又ハ組合ノ帳簿ニ於テ又ハ移轉證書ニ依リ移轉セラルヘキ「ファンド」、年金證券其他ノ有價證券並ニ株式又ハ其利子ヲ包含ス
株ニ關シ「移轉ス」ナル語ハ移轉セラル、者ノ權源ヲ完成スル移轉者側ノ證書ノ作成其他必要ノ

行爲ヲ包含ス

「信託」ナル語ハ抵當ノ方法ニ依リ移轉セラレタル不動産ニ伴フ義務ヲ包含セス但シ此際例外ヲ除キ「信託」又ハ「受託者」ナル語ハ法定信託受託者カ信託財産ニ受益ヲ有スル場合及死亡者ノ人的代表者ノ職務ニ從フ義務ヲ包含ス

第五十一條 廢止

本法ノ表ニ示ス條例ハ蘇格蘭ニ關スルモノヲ除キ該表第三欄ニ示セル範圍ヲ限リ廢止ス

第五十二條 法律施行ノ範圍

本法ハ蘇格蘭ニ施行セス

第五十三條 略稱

本法ハ一八九三年受託者條例ト稱ス

第五十四條 始期

本法ハ一八九四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(表略)

一八九四年受託者條例中改正法律

第一條 第三十條中修正

一八九三年受託者條例第三十條中「相續人トシテ又ハ債務ノ支拂ニ付テ判決又ハ命令カ下サレタル死亡人ノ遺言ニ基キ」ノ語ヲ削ル(前掲)

第二條 第四十一條ヲ愛蘭ニ擴張ス

一八九三年受託者條例第四十一條ニ依リ蘇格蘭ヲ除キ、女王陛下ノ領土内ニ於ケル一切ノ土地及人的不動産ニ關シ委付命令ヲ發スヘキ英蘭中央裁判所ノ權能ハ爾今愛蘭中央裁判所ニモ與ヘラル

第三條 第四十四條中修正

一八九三年受託者條例第四十四條「受託者」ノ次ニ「又ハ其他ノ者ヲ」加フ

第四條 放資ノ方法ヲ變シタル場合ニ於テ受託者ノ責任

信託證書又ハ一般法ニヨリ受權セラレタル放資ト異ル放資方法ヲ繼續スルノミヲ以テハ受託者ハ信託違反ノ責ヲ負フコトナシ

第五條 略稱

本法ハ一八九四年受託者條例中改正法律ト稱ス

其一一九〇六年官設受託者條例

一四四

官設受託者ノ選任並ニ信託引受ニ關スル法律ノ改正條例（一九〇六年十二月二十一日）

第一章 官設受託者ノ制定

第一條 官設受託者ノ官廳

- (一) 政府ハ官設受託者ノ官廳ヲ制定ス
- (二) 官設受託者ハ官設受託者ナル名稱ヲ附スル單獨法人ニシテ永久ニ存在シ及官印ヲ有ス而シテ他ノ單獨法人ト同シク如上ノ名ヲ以テ訴ヲ爲シ又ハ訴ヲ受クルコトヲ得但シ官設受託者ノ官印アル書類ハ其印章ヲ用ヒタルカ爲メノ理由ヲ以テ私人ノ場合ニ於ケルヨリモ加重セル印紙稅ヲ負擔スルノ義務ナシ

第二章 官設受託者ノ權利義務

第二條 官設受託者ノ一般的權利義務

- (一) 官設受託者ハ本法及本法ニ基キテ發シタル規則ノ定ムル所ニ從ヒ左ノ行爲ヲ爲スコトヲ得ヘシ

(a) 價格小ナル財産ノ管理ニ關スル行爲

(b) 保管受託者ノ爲ス所爲

(c) 通常受託者ノ爲ス行爲

(d) 官選受託者ニ選任セラル、コト

(e) 一八七〇年ノ沒收法ニ基キ犯罪者トナレル者ノ財産管理人ニ選出セラル、コト

- (二) 本法並ニ本法ニ基キ發シタル規則ノ定ムル所ニ從ヒ官設受託者ハ單獨又ハ他ノ一人若ハ數人ト共同シテ本法ニ基キ選任セラレタル權限ニ依リ行爲ヲ爲スコトヲ得ヘシ而シテ同一ノ權利及特權ヲ受ケ裁判所ノ監督並ニ命令ヲ遵奉スヘシ

- (三) 官設受託者ハ絶對ニ又ハ前掲ノ條件ニ基ク場合ヲ除クノ外一般信託ノ受領ヲ拒ムコトヲ得但シ單ニ信託財産ノ價格ノ小ナルヲ理由トシテ信託ノ拒絕ヲ爲スコトヲ得ス

- (四) 官設受託者ハ本法ニ基キ發シタル規則ニヨリ授權セラレタル場合ノ外營業ノ支配又ハ履行ヲ含ム信託債務者ノ利益ノ爲メニスル取極證書ニ基ク信託並ニ支拂不能ナリト信シタル財産ノ管理行爲ヲ引受クルコトヲ得ス

- (五) 官設受託者ハ専ラ宗教又ハ慈善ヲ目的トスル信託ヲ引受クルコトヲ得ス本法又ハ本法ニ基キ發シタル規則ハ慈善ノ爲メニ設ケラレタル土地又ハ基金ヲ受クル官選受託者 Official Trustee ノ

一四五

其一 小額財産ノ管理行爲

第三條 小額財産ノ管理

- (一) 官設受託者ヨリ財産ノ管理方ヲ裁判所ニ請求スルノ權アリト認メラレ且ツ其全財産ノ金額一千磅ヲ超過セサルコトヲ證明セラレタル者ハ該財産ノ管理方ヲ官設受託者ニ請求スルコトヲ得該請求アリタル後受益者カ小資産ノ者ナリト認メラレ、トキハ官設受託者ハ相當ノ理由アルニアラサレハ其財産管理ヲ拒ムコトヲ得ス
- (二) 「ストック」以外ノ信託財産ハ本法ニ基キ當然署名捺印シタル書面ヲ以テ宣言シタル財産管理ヲ爲ス官設受託者ニ委付セラルヘシ而シテ財産ノ一部ヲ組成スル「ストック」移轉ノ權利モ亦一八九三年受託者條例ニ基キ權利移轉ノ爲メ中央裁判所委付命令ヲ發シタルモノト見テ當該受託者ニ委付セラル從テ一八九三年受託者條例ハ適用セラル、モノトス、該委付ニ依リ信託ニ基キ財産管理ノ權限ヲ有スル一般受託者ハ過去ノ行爲ニ關スル場合ヲ除クノ外管理ニ伴フ一切ノ責任ヲ免カル但シ
 - (a) 官設受託者ハ裁判所ノ認許ナクシテ「ストック」移轉ノ權利ヲ行使スヘカラス
 - (b) 本項ハ財産ノ一部ヲ組成スル「コビーホールド」(土地)ニハ適用セス但シ官設受託者ハ土地

ノ讓渡ニ關スル一八九三年受託者條例第三十三條ノ規定ニ基キ裁判所ヨリ選任セラレタルモノト同一ノ權能ヲ有ス從テ該條例第三十四條ノ適用ヲ受クルモノトス

- (三) 官設受託者ハ管理ノ目的ノ爲メ本法ニ基ク規則ノ定ムル條件ニ從ヒ且ツ法令ニ基キ委讓セラレタル中央裁判所ノ管理的權能ヲ行使スルコトヲ得

- (四) 官設受託者ヲシテ裁判ノ手續ヲ要セスシテ管理上生スル問題ニ付中央裁判所ノ意見ヲ聽クヲ得セシメ其他單純ニシテ費用ヲ要セサル本條ノ手續ヲ行フ爲メ本法ニ遵據シテ規則ヲ設クヘシ

- (五) 財産管理ノ爲メ手續ヲ定メ財産價格小ナルカ爲メ官設受託者ノ管理ヲ以テ裁判所ノ管理ヨリモ費用ヲ要セサルモノト認メ又ハ其ノ他ノ理由ニヨリ裁判所ノ管理ニ代フルニ官設受託者ヲ以テスルヲ便宜ナリト認ムル場合ニ於テハ裁判所ハ官設受託者ヲシテ該財産ノ管理ヲ爲サシムル命令ヲ發スルコトヲ得此場合ニ於テハ(裁判所ノ命令ニ從ヒ)本條ノ規定ヲ適用ス

其二 保管受託者ノ爲ズ所爲

第四條 保管受託者

- (一) 官設受託者ハ保管受託者タルコトニ同意シタルトキハ受託者カ定數ヲ下リタルト否トニ拘ラス本法ニ基ク規則ニ從ヒ左ノ場合ニ於テ信託ノ保管受託者ニ任命セラル、コトヲ得
 - (a) 新規受託者ノ選任ヲ裁判所ニ請求シ得ヘキ者ノ請求ニ基キ發セラレタル裁判所ノ命令アリタ

(b) 遺言者、設定者其他ノ信託者ノ定メタルトキ

(c) 新規受託者任命ノ権限ヲ有スル者ノ定メタルトキ

(二) 官設受託者カ保管受託者ニ任命セラレタル場合ニ於テハ

(a) 信託財産ハ單獨受託者ト看做シタル保管受託者ニ移轄ス裁判所ハ必要アリト認メタルトキハ一八九三年受託者條例ニ依ル委付命令ヲ發スルコトヲ得

(b) 信託財産ノ支配及信託ニ基キ受託者ノ行使スヘキ権能ノ行使ハ保管受託者以外ノ一般受託者ニ歸屬ス(以後之ヲ支配受託者ト稱ス)

(c) 保管受託者及支配受託者間ニ在リテハ保管受託者ハ信託財産ニ關スル有價證券及權利證書ノ保管ヲ爲シ支配受託者ハ保管義務ヲ免レ其ノ謄本又ハ抄本ヲ得ルノ權ヲ生ス

(d) 保管受託者ハ支配受託者ヲシテ支配ニ關スル権能其ノ他ノ委讓セラレタル権能(裁判所ニ金錢又ハ有價證券ヲ拂込ム權能ヲ含ム)ヲ行使セシムルニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ要ス但シ其事項カ信託違反ナルカ若ハ人的責任ヲ包含スル場合ハ此限りニ在ラス保管受託者ハ同意セサル事項ニ付支配受託者ノ行爲又ハ過失ニ付責ヲ負フコトナシ

(e) 信託財産ノ利殖金又ハ元本中ニ拂込マレ又ハ之ヨリ支拂ハルヘキ金額ハ保管受託者ヘ拂込マ

レ又ハ之ヨリ支拂ハルヘシ但シ保管受託者ハ信託財産ヨリ生スル配當又ハ他ノ收入ヲ支配受託者、其指名者又ハ其指名者ノ預金トシテ銀行ヘ拂込ムコトヲ得此場合ニ於テハ用途ヲ注意スルノ義務ヲ免レ損失又ハ不當ノ使用ニ付テ責ヲ負フコトナシ

(f) 新規受託者ヲ任命スヘキ権能カ一般受託者ニ歸屬スル場合ニ於テハ支配受託者ノミ此ノ權ヲ行使スルモノトス但シ保管受託者モ亦新規受託者ノ命ヲ裁判所ニ請求スルノ権能ヲ有ス

(g) 一八九三年受託者條例ニ規定スル受託者ノ員數ヲ定ムル場合ニ於テハ保管受託者ハ受託者ノ數ニ加ヘス

(h) 保管受託者ハ信託財産又ハ其一部ノ上ニ權利ヲ發生スル出生、死亡、婚姻、系譜、親族關係其他ノ事實ニ關スル支配受託者ノ爲シタル文書ニ依ル表示ヲ正當ナリト信シ之ニ基キテ誠實ニ爲シタル行爲ニ付責ヲ負フコトナシ其保管受託者ニ關係ナクシテ支配受託者ノ受ケタル法律上ノ通知ニ基キ爲シタル行爲ニ付亦同シ

(i) 裁判所ハ保管受託者、支配受託者又ハ受益者ノ請求ニ依リ且ツ總受益者ノ希望又ハ其他ノ事由ノ證明ニ基キ保管受託關係ヲ終止セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ之ニ關スル命令ヲ發ス裁判所ハ必要又ハ有益ト認ムル場合ニ於テ適應ノ委付命令ヲ發シ其他ノ指令ヲ與フルコトヲ得

(三)本條ノ規定ハ本法ニ基キテ發シタル規則ニ依リ授權セラレ且ツ保管受託者タル官設受託者ノ課スヘキ限度ヲ超エサル手数料ヲ信託財産ニ課シ又ハ之ヨリ支拂フヘキ權能ヲ有スル銀行、保險會社其他ノ組合ニ付適用ス

其三 普通受託者ノ爲ス行爲

第五條 普通受託者、遺言執行者其他ニ官設受託者ヲ任命スルコト

(一)官設受託者ハ其名稱又ハ法律ノ要件ヲ具備シタル名稱ニ於テ本法ニ基キ發シタル規則ニ依リ引受ヲ認許セラレタル者ノ信託又ハ義務ヲ遂行スル爲メニ遺言設定行爲其他ノ信託證書ニヨル受託者トシテ任命セラル、コトヲ得而シテ信託又ハ義務ヲ生スル遺言、設定行爲其他ノ信託證書カ本法施行前又ハ施行後ニ作成セラレ又効力ヲ發生スル場合ニ於テモ元受託者、新規受託者又ハ補充受託者トシテ私人受託者ト同シク同一ノ方法ヲ以テ同一ノ人又ハ裁判所ニ依リ任命セラル、コトヲ得、但シ初メ任命セラレタル受託者カ二人以上ナル場合ト雖モ官設受託者ハ單獨受託者トシテ任命セラルヘキモノトス

(二)官設受託者カ受託者ニ任命セラレタル場合ニ於テハ前任受託者ハ一八九三年受託者條例第十一條ノ定ムル所ニ依リ信託關係ヨリ辭任スルヲ得ヘシ此場合ニ於テハ受託者ノ數二人以下ニ下ルヲ妨ケス又該條ニ必要トスル同意ヲ要セサルモノトス

(三)官設受託者ハ遺言、設定行爲其他ノ信託證書ニ反對ノ規定アル場合ニ於テハ新規受託者又ハ補充受託者トシテ選任セラルコトヲ得ス但シ裁判所ノ命令アル場合ハ此限ニアラス

(四)官設受託者カ新規又ハ補充受託者ニ任命セラレタルトキハ其事實ヲ王國內ニ住所ヲ有シ且ツ知レタル各受益者又ハ其後見人ニ通知ヲ爲スコトヲ要ス通知ヲ受ケタル者カ通知受領後二十一日以内ニ裁判所ニ請求スルトキハ裁判所ハ各受益者ノ利害ニ顧ミ便宜ナリト認メタル場合ニ於テ其任命ヲ禁止スル命令ヲ發スルヲ得ヘシ但シ通知ヲ爲サル場合ト雖モ本條ノ任命ヲ無効ナラシメス

第六條 遺言狀ヲ許容スル權能

(一)本法ニ基ク規則ニ依リ官設受託者カ其名ヲ以テ遺言狀又ハ管理證書ヲ受領スル權能ヲ有スルトキハ遺言狀又ハ管理證書ヲ認容スル權限ヲ有スル裁判所ハ官設受託者ニ之ヲ認許スルコトヲ得此目的ノ爲メ官設受託者ハ法律上管理證書ノ認許ヲ受クル者ト同一ノ權能ヲ有スル者ト看做サル但シ官設受託者ノ同意若クハ召喚ハ他ノ者ニ認許スル管理證書ニ付要件ニアラス又官設受託者及鰥寡又ハ最近親ノ間ニ於テハ鰥寡又ハ子カ反對ノ事由アル場合ノ外鰥寡又ハ最近親ヲ任命スヘキモノトス

(二)遺言狀ヲ得タル遺言執行人又ハ管理證書ヲ得タル管理人ハ死亡者ノ財産管理中ニ在ル場合ト雖

裁判所ノ認可ヲ得且ツ裁判所ノ命スル受益者ニ通知ヲ發シタル後官設受託者ノミノ管理ノ爲メ
又他ノ繼續執行者又ハ管理人アル場合ニ於テハ其共同管理ノ爲メ該財産ヲ官設受託者ニ移轉ス
ルコトヲ得移轉認可ノ命令ハ官設受託者ニ遺言執行者又ハ管理人ノ一切ノ權限ヲ賦與シ從前ノ
執行人又ハ管理人ハ認可日附後ニ生シタル財産ニ關スル行爲又ハ過失ニ付テ責ヲ負フコトナシ
但シ自己又ハ法律上責ヲ負ハシメラル、者ノ行爲又ハ過失ニ付テハ此限ニアラス

第二章 責任、官吏及事務所、手数料

第七條 國庫基金ノ責任

- (一) 官設受託者ニ於テ負擔ノ義務アル責任ハ國庫基金之ヲ負擔スヘシ但シ其責任ニシテ官設受託者
又ハ其所屬官吏ノ關係セルモノニアラス又ハ假令關係セルモノト雖モ相當ノ注意ヲ用ヒテ尙避
クヘカラサリシモノナルトキハ官設受託者又ハ國庫基金共ニ其責ヲ負フコトナシ
- (二) 本法ニ依リ國庫ニ課セラルヘキ金額ハ本基金及其利殖金ヨリ支拂ハルヘシ

第八條 役員及事務所

- (一) 大法官ハ官設受託者ノ官廳ニ適當ナル一人ヲ任命スヘシ此者ハ任意ニ自己ノ欲スル期間事務所
ヲ設ケ大藏省ノ定ムル俸給又ハ手数料ヲ受領シ及其定ムル條件ニ從ヒ任命セラルヘシ

- (二) 大法官ハ大藏省ノ認可ニ基キ本法ノ目的ヲ達スルニ必要ナリト認ムル數人ヲ官設受託者ノ所屬
官吏トシテ任命スヘシ該官吏ハ大藏省ノ認可セル條件ニ基キ事務所ヲ設ケ其定メタル方法ヲ以
テ一定ノ報酬ヲ受クヘキモノトス
- (三) 官設受託者又ハ所屬官吏ニ任命セラルヘキ者ハ現ニ公職ニ在ル者ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得大
藏省ノ要求アル場合ニ於テハ必ス公職ニ在ル者ヲ以テ之ニ充ツヘシ
- (四) 官設受託者ハ大藏省ノ同意ニ依リ大法官ノ命令アル場合ニ於テハ倫敦及其他ノ地ニ事務所ヲ設
クヘシ而シテ支障ナキ限り既ニ公用ニ供セラレタル建築物ヲ以テ其事務所ニ充當スヘシ
- (五) 官設受託者及所屬官吏ノ俸給又ハ報酬並ニ其職務ヲ行フニ付生スル費用又ハ大藏省ノ認可ニ基
キ本法ヲ實施スル爲メニ生スル費用ハ議院所屬經費ヨリ支拂ハルヘシ

第九條 官設受託者ニヨリ課セラル、手数料

- (一) 官設受託者ノ義務ニ關シテハ大法官ノ認可ヲ經テ大藏省ノ定ムル所ニ從ヒ歩合又ハ其他ノ方法
ニ依リ一定ノ手数料ヲ課徴スルモノトス手数料ハ大藏省ノ命シタル官吏ニ依リ其定ムル所ニ從
ヒ賦課徴收セラルヘシ
- (二) 個人受託者カ信託財産ヨリ支拂フコトヲ得ヘキ費用ハ官設受託者モ亦該財産ヨリ支辨スルコト
ヲ得ヘシ此場合ニ於テ手数料ハ該費用ト共ニ附加徴收セラルヘキモノトス

- (三) 手数料ハ大藏省ノ定ムル所ニ依リ本法ニ基ク經費トシテ議院所屬經費ヲ補充スル用途ニ支辨セラルヘク剩餘アルトキハ出納局ニ拂込ムヘシ
- (四) 本條ニヨル手数料ハ本法ノ施行ニ伴フ俸給及其他ノ費用ヲ支辨スルニ足ル歳入ヲ生セシムル爲メ適當ノ運用利殖ヲ施スヘシ(本法ニ基ク損失ニ對シ大藏省ノ固定資金ヲ保護スルニ必要ナリト決定スル金額ヲ包含ス)
- (五) 本條ニ基ク手数料及費用ヲ元本及收益ノ間ニ如何ニ分課スヘキヤハ官設受託者ノ定ムル所ニ由ル

第四章 官設受託者ニ關スル補充的規定

第十條 裁判所ヘノ告訴

- (一) 信託ニ關シテ官設受託者ノ行爲、怠慢又ハ決定ニ由リ權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ裁判所ニ請求ヲ爲スコトヲ得裁判所ハ其正當ト認ムル事項ニ關シ命令ヲ發スルヲ得
- (二) 裁判所ノ規則ニ基キ中央裁判所ニ對スル本條ノ請求ハ中央裁判所衡平法部ノ判決ニ付セラルヘシ

第十一條 官設受託者行爲ノ制限範圍

- (一) 官設受託者又ハ其官吏ハ本法ニ依リ認許セラレタルモノヲ除クノ外報酬ヲ得テ本法ニ基ク行爲ヲナスコトヲ得ス
- (二) 官設受託者ハ本法ニ基キ發シタル規則ニ從ヒ信託ノ爲メ必要ト認メタルトキハ訴訟代理人銀行業者、計算士又ハ「ブローカー」又ハ其他ノ者ヲ使用スルコトヲ得、然レトモ信託ニ關シテ使用セラルヘキモノヲ決定スルニ際シテハ官設受託者ハ信託ノ利害ニ着眼シ信託者及他ニ受託者アル場合ニ於テハ其者並ニ受益者ノ表示スル明示若クハ默示ノ希望ヲ考索中ニ置クコトヲ要ス
- (三) 前號ニ掲ケタル者ハ官設受託者ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ場所ニ於テ宣誓シ、勘定ヲ確メ、出席シ又ハ官設受託者ノ爲スヘキ事項ヲ爲スコトヲ得但シ本法又ハ本法ニ基キ發シタル規則ハ權能ナキ者ニ官設受託者ノ爲メニ又ハ之ニ代リテ法廷ニ出席シ訴訟ヲ爲シ尋問ヲ受ケ若クハ辯護士又ハ適法ノ證明ヲ受ケタル訴訟代理人ニアラサレハ爲シ能ハサル行爲ヲ爲スノ權能ヲ賦與スルモノニアラス
- (四) 管理ヲ許容セラレ又ハ一定ノ權能ニ於テ任命セラレタル私人ヨリ債券又ハ有價證券交付ノ要求アリタル場合ニ於テ官設受託者モ管理ヲ許容セラレ又ハ同一ノ權能力ニ於テ任命セラレタルトキハ該債券又ハ有價證券ヲ交付スルノ要ナシ但シ此場合ニ於テハ債券又ハ有價證券ヲ交付シタルト同一ノ責任及義務ニ從フヘキモノトス

(五) 會社ノ帳簿ニ其名ヲ以テスル官設受託者ノ登録ハ信託ノ通知トハナラス會社ハ官設受託者ハ一ノ法人ナリト云フ理由並ニ又財産ニ關スル取引ノ相手方カ官設受託者ナル事實ハ直チニ信託ノ通知トナルモノニアラストノ理由ノミヲ以テハ官設受託者ノ名ヲ登録スルヲ拒ムノ權能ナカルヘシ

第十二條 官廷裁判所ニ本法ヲ適用ス

官廷裁判所ノ管轄區域内ニ於ケル事件ニ付テハ中央裁判所ニ關スル本法ノ規定ヲ適用ス官設受託者ハ本法ニ基ク任務ヲ行フヘキ官廷地域内ニ居所ヲ定ムヘシ本法ニ基ク官廷裁判所ノ管轄權ノ實行ニ關スル規則ハ一般ニ規則ヲ作り命令ヲ發スルノ權能ヲ有スル官廳ニ依リ發セラルヘキモノトス

第五章 信託勘定ノ検査及計算

第十三條 信託勘定ノ検査及計算

(一) 本法ニ基ク規則ニ從ヒ裁判所ノ別段ノ命令ナキ限りハ信託ノ情況及勘定ハ受託者又ハ受益者ノ請求若ハ通知ニ由リ其者ノ同意シタル訴訟代理人又ハ公許計算士其検査及計算ヲ爲シ若シ同意ナキトキハ官設受託者又ハ其任命ニ係ル者之ヲ行フヘキモノトス但シ(裁判所ノ許可アル場合

ヲ除キ) 検査又ハ計算ハ前ノ検査又ハ計算終了後十二ヶ月以内ニ於テ爲スヲ得ス一般受託者又ハ受益者ハ本條ニ基ク検査又ハ計算ノ爲メ任命セラル、コトヲ得ス

(二) 検査又ハ計算ヲ爲ス者(以後検査人ト稱ス)ハ受託者ノ帳簿、勘定書及證據物並ニ信託ニ基キ保有スル有價證券及權利證書ヲ檢閲スルノ權利ヲ有シ必要ナリト認メタルトキハ之ニ關スル報告及説明ヲ求ムルコトヲ得検査及計算ノ終了シタルトキハ請求者及各受託者ニ勘定書謄本及之ニ關スル報告ヲ添ヘ諸勘定ノ眞偽及信託資産ノ放資ニ依ル有價證券ノ存否ヲ證スル捺印證明書ヲ交付スヘシ

(三) 各受益者ハ本法ニ基ク規則ニ從ヒ相當ノ時期ニ於テ勘定書、報告書及證明書ヲ閱覽シ又ハ之ヲ謄寫スルノ權利ヲ有ス若シ費用ヲ支辨シタルトキハ其謄本又ハ抄本ノ給付ヲ受クルヲ得ヘシ

(四) 検査人ハ裁判所ノ命令ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得而シテ検査人カ變更、辭任、死亡又ハ破産シ若ハ検査計算終了前行爲不能トナリタルトキハ更ニ同一ノ方法ニヨリ新規検査人ヲ任命スルモノトス

(五) 検査人ノ報酬及検査計算ニ伴フ費用ハ本法ニ基ク規則ノ定ムル所ニ依ル而シテ官設受託者カ別ニ指令スル場合ノ外信託財産ニ課スルモノトス
官設受託者ハ請求者又ハ一般受託者ニ此等ノ費用ノ全部又ハ一部ノ負擔ヲ指令スルコトヲ得

- (六) 検査人カ本條ニ基キ權利ヲ行使スル場合ニ於テ證書ノ保管ヲ爲ス者カ検査ヲ行使セシムルコトヲ怠リ又ハ之ヲ拒ミ其他妨害ヲ加ヘタルトキハ検査人ハ裁判所ニ請求ヲ爲スコトヲ得裁判所ハ必要ト認ムル命令ヲ發スルヲ得ヘシ
- (七) 裁判所ノ規則ニ從ヒ中央裁判所ニ爲ス本條ノ請求ハ其衡平法部ノ判決ニ屬スヘシ
- (八) 本條ノ目的ノ爲メニ必要ナル勘定書、報告書又ハ證明書ノ内容ニ關シ虚偽ノ表示ヲ爲シタルモノハ陪審告發ノ場合ニ於テハ二年ヲ超エサル期間ノ禁錮ニ、然ラサル場合ニ於テハ六ヶ月ヲ超エサル禁錮ニ處シ禁錮ニハ勞役ヲ課スルコトヲ得何レノ場合ニ在リテモ刑ニ代ヘ又ハ刑ニ附加シテ罰金ヲ科スルモノトス

第六章 規則、定義、名稱及施行區域

第十四條 規則

- (一) 大法官ハ大藏省ノ同意ヲ以テ本法ノ目的ヲ遂行スル爲メ次ノ諸項ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得
 - (a) 官設受託者ノ事務所ヲ設立シ及其引受クヘキ信託又ハ義務並ニ官設受託者及其官吏ノ交付スル有價證券ヲ規定スルコト
 - (b) 官設受託者ヘ移轉又ハ官設受託者ヨリ財産ヲ移轉スルコト

(c) 保存スヘキ勘定書及其検査

(d) 出張所ノ設立及之ニ關スル規程

(e) 本法ノ適用ヲ除外スル信託又ハ其一節

(f) 保管受託者タル權能ヲ賦與スヘキ組合ノ種類

(g) 本法ニヨル通知ノ形式並ニ方法

- (二) 本法ニ基ク規則ハ兩院ニ提出スヘシ兩院ノ一カ其提出後三十日以内ニ廢止ヲ希望スル旨ヲ表示スルトキハ陛下ハ該規則ヲ廢止シテ無効トスヘシ但シ廢止前該規則ニ基キ爲シタル行爲ノ効力ヲ妨ケス

- (三) 一定ノ目的ノ爲メニ宣言ヲ必要トスル旨規則ヲ以テ定メタル場合ニ於テ宣言者カ其内容ノ眞正ナラサルコトヲ知リテ宣言シタルトキハ輕罪ノ刑ニ處ス

第十五條 定義

本法ニ於テ別段ノ解釋ヲ附スルモノ、外「裁判所」ナル文字ハ中央裁判所ヲ意味ス其管轄區域内ニ於ケル信託ニ關スルモノニ付テハ地方裁判所ヲ意味ス

「管理ノ證書」ナル文字ハ死亡者ノ動産、不動産ノ管理ノ證書ヲ意味ス而シテ一般的ナルト遺言ニ伴フト時又ハ其他ニ於テ制限セラレタルト區別セス

「信託」ナル文字ハ遺言執行又ハ財産管理ヲ包含ス「受託者」ナル文字ハ其意味ニ解釋スヘシ
「信託財産」ナル文字ハ信託ノ方法ニ依リ官設受託者ニ於テ全部又ハ一部ヲ所有又ハ支配スル財産
ヲ包含ス

「個人受託者」ナル文字ハ官設受託者以外ノ受託者ヲ意味ス

「費用」ナル文字ハ出資及負擔ヲ包含ス

「既定セラレタル」ナル文字ハ本法ニ基ク規則ニヨリ既定セラレタルコトヲ意味ス

其他ノ文字ハ一八九三年受託者條例ノ意味ニ同シ

第十六條 本法ノ施行期

本法ハ一九〇八年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條 名稱及施行區域

- (一) 本法ハ一九〇六年官設受託者條例ト稱ス
- (二) 本法ハ愛蘭又ハ蘇蘭ニ施行セス

其三 銀行業者投資信託會社目論見書及定款

有限責任銀行業者投資信託會社設立證書

有限責任銀行業者投資信託會社ハ本日一八六二年ヨリ一八八六年ニ至ル會社法ニ基キ設立セラレ而シ
テ本會社ハ有限責任ナルコトヲ玆ニ證明ス

千八百八十八年四月十三日倫敦ニ於テ署名ス

株式會社登記官吏 ジェー・エス・パーセル

手数料五拾磅也

一 有限責任銀行業者投資信託會社目論見書

第一條 本會社ハ有限責任銀行業者投資信託會社ト稱ス

第二條 本會社ノ登録營業所ハ英蘭ニ所在スヘシ

第三條 本會社ノ目的左ノ如シ

(a) 株式資本ニ依リ資金ヲ調達シ之ヨリ生シタル金額及其他ノ方法ニ依リ取得シ及保有スル金額ヲ
次ノモノニ投資スルコト

英國、外國又ハ殖民地ノ一般法又ハ特別法ニ依リ設立セラレタル會社「トラスト」又ハ法人ノ株券、株債券、債權證書、社債、「デベンチュアストック」假證券其他ノ有價證券

英國、外國又ハ殖民地ノ政府、國領土、主權者、州公共團體其他ノ支配的權力者ノ發行シ又ハ元本若クハ利子ノ全部又ハ一部ノ支拂ニ對シ當該政府國領土、主權者、州、公共團體其他ノ支配的權力者ノ信用、財産又ハ歳入ヲ擔保トシ保證ヲナシ若クハ責任ヲ負擔スル株券、株債券、債權證書、社債、「デベンチュアストック」、假證券其ノ他ノ有價證券

(b) 永久又ハ一時若クハ其ノ他ノ方法ニ依リ本會社ノ債券、債權證書、抵當證書、社債又ハ「デベンチュアストック」ヲ發行シ又ハ賣出シテ本會社ノ目的ヲ達スルカ爲メ資金ヲ借用シ又ハ之ヲ調達スルコト

(c) 會計經理會社トシテ行爲シ且ツ其業務ヲ遂行スルコト

(d) 株、株券、抵當證書、債券、債權證書、有價證券其他ノ商業證券及物的並ニ人的財産ノ委託買入、豫約取得、保有、賣却、交換其他ノ取引

(e) 株、株券、抵當證書、債券、債權證書、有價證券其ノ他證券及物的並ニ人的財産ニ對シテ前拂ヲナスコト

(f) 本會社ノ代理ニ依リ爲サレタルモノナルト否トヲ問ハス金錢ノ支拂、事業ノ成功又ハ株券、株

抵當證書、貸金證券其他ノ有價證券ニ關シ保證ヲ爲スコト

(g) 本會社財産又ハ企業ノ全部又ハ一部（未拂込催告資本又ハ未拂込ノ催告金ヲ含ム）ヲ本會社ニ對スル貸金又ハ債務ノ擔保トシテ質抵當又ハ擔保トスルコト

(h) 貸金ノ周旋ヲ爲シ及貸金又ハ金錢ノ支拂移送若クハ集收及財産ノ管理方ニ付キ代理者トシテノ行爲ヲナシ及一切ノ代理業務ヲ處辨スルコト

(i) 政府、法人、會社又ハ權力主體ノ發行シ若クハ發行スヘキ社債、債券又ハ「デベンチュアストック」ニ關シ及英國法又ハ外國法ニヨリ設立セラレタル會社又ハ法人ノ株券又ハ株ニ關シ其所持人ノ爲ニ受託者トシテノ行爲ヲ爲シ及ヒ一切ノ信託ヲ履行スルコト

(k) 一切ノ措置、契約、合意、協議、法律其他ノ手續、和解調整及設計ヲ爲シ遂行シ告訴シ又ハ答辯スルコト及前掲投資及有價證券ノ保有者トシテ及之ニ利害關係アルモノトシテ本會社ノ保護ニ補助又ハ有益ト認メラル、其他ノ一切ノ行爲及事項ヲ爲スコト

(l) 本會社組織ノ變更ニ付又ハ目的ヲ擴張シ若クハ便宜ナリト認ムヘキ其ノ他ノ志望ニ付法律ノ制定ヲ請願スルコト

(m) 本會社ノ發起、設立及登記費用及之ニ先チ又ハ伴フ費用並ニ本會社ノ株券、社債、「デベンチュアストック」債券其ノ他ノ有價證券ノ全部又ハ一部ヲ放資スルニ有益ナリト認ムヘキ仲買手數

千八百八十八年四月十三日

一六六

右ノ總署名ヲ檢閱ス

倫敦コールドマン町二十四番地ノルトン、ローズ、ノルトン諸氏商會書記
訴訟代理人 チー、ル、ス、ロ、ツ、ク

二 有限銀行業者投資信託會社定款(抄譯)

第一章 解 釋

第一條 (略) 本定款及目論見書ノ用語ヲ解釋セルモノ)

第二章 遵 據 法

第二條 一八六二年會社法甲號表ノ條項ハ本會社ニ適用セス以下各條ハ本會社ノ遵據法タルヘシ

第三章 營 業

第三條 本會社ノ營業ハ目論見書ニ記載シタル事業及目的ノ全部若クハ一部又ハ之ニ隨伴スル一切ノ

事項ヲ包含ス而シテ取締役ニ於テ適當ト認ムルトキハ資本ノ金額又ハ其ノ第一回ノ發行カ應募セ
ラレサル場合ト雖モ其ノ業務ヲ開始スルヲ得ヘシ

第四條 營業ハ本定款及其他ノ規則ニ準據シテ遂行セラルヘク尙定款ニ基ク總會ノ監督ニ從フコトヲ
要ス

第五條 銀行ニ宛テタル本會社ノ小切手、約束手形、爲替手形其他ノ流通證券ハ取締役二人ニ依リ署
名、振出、引受、裏書セラルヘク尙特殊ノ場合ニ在リテハ銀行ノ利益ノ爲メニ必要ノ行爲ヲ爲ス
ヲ得ヘク更ニ總テ書記役又ハ第三取締役ノ副署ヲ要ス但配當支拂小切手及裏書アル本會社ヘノ支
拂小切手ハ書記役又ハ取締役ノ決議ニヨリ受權セラレタル者ノミノ署名ヲ以テ足ル

第六條 取締役ハ本會社ノ株又ハ株券ノ購入又ハ之ヲ擔保トスル貸付ニ本會社ノ資金ノ全部又ハ一部
ヲ使用スルコトヲ得ス

第四章 株 式 資 本

第七條 本會社ノ基本資本ハ三百萬磅トシ之ヲ三十萬株ニ分チ一株ノ金額ヲ十磅トス發行日ニ於テ反
對ノ合意アル場合ノ外本會社ノ株券ハ全額拂込ノ時ニ於テ優先株及利益讓先普通株ニ切半セラル
ハシ優先株ハ本會社利益中ヨリ一年四分半ノ優先増加配當ヲ受クルノ權利ヲ有シ利益讓先普通株

一六七

ハ其殘餘ノ利益ニ付テ配當ヲ要求スルノ權利ヲ有ス清算其他ノ場合ニ於テ社員ニ資本ノ返還ヲ爲スヘキトキハ分配スヘキ資産又ハ資金ハ第一ニ優先株ノ所持者又ハ全額拂込ノ優先株式ニ拂戻ヲ爲シ次ニ利益讓先普通株ノ所持人又ハ全額拂込ノ利益讓先株式ニ拂戻ヲ爲シ尙殘餘アルトキハ拂込ミタル株金額ニ應シテ各自ノ株券又ハ株式ニ均一ニ分配セラルヘシ

第八條 本會社ハ總會ノ決議ニ依リ何時ニテモ株式資本ノ増加ヲナスコトヲ得而シテ新株ハ本會社ノ基本株ト同一ノ權利及特權ヲ享有シテ發行セラルヘク全額拂込ノ上ハ又基本株ト同様ニ優先株及利益讓先普通株ニ分割セラレ及平價又ハ本會社ノ決定シタル割増ヲ附シテ發行スルコトヲ得

第九條 前條ノ規定ニ基キ新株ノ發行ニヨリ調達シタル資本ハ之ヲ基本株式資本ノ一部ト看做スヘク催告株金ノ拂込並ニ株券ノ沒收其他ノ規定ニ關シテハ凡テ其基本株ニ關スル規定ヲ適用ス

第十條 増加資本ノ株券ハ(總會ニ於テ本會社ノ増資ニ關シ反對ノ規定アル場合ハ之ニ依ル)社員ノ有スル公稱資本金額ニ比例シテ之ニ提供セラルヘシ此提供ハ本會社ノ爲ス普通ノ通知方法ニヨリテ之ヲ行ヒ各社員ノ有スヘキ株數及一定ノ期間内ニ引受ヲ爲サ、ルトキハ其提供ヲ拒絕シタルモノト看做スヘキ期間ヲ指示スヘシ該期間ノ經過後若クハ通知ヲ受ケタルモノヨリ引受ヲ拒絕シタル旨ノ通知受領後ニ於テハ取締役ハ會社ニ最モ有益ナリト認ムル方法ニ依リ該株券ヲ處分スヘシ

第十一條 本會社ハ法律ノ認許スル方法ニ依リ何時タリトモ減資ヲ爲シ株券ヲ分割シ又ハ之ヲ併合スルコトヲ得而シテ必要アル場合ニ於テハ取締役ハ減資ニ關スル裁判所ノ認可ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

第十二條 本會社ハ期間ノ到來シタルト否トヲ問ハス會社ニ支拂フヘキ金錢ニ對シ社員ノ名義ヲ以テ登録セラレタル未拂込株券ニ付優先最高ノ差押權又ハ要求權ヲ有ス

第五章 社債ニ依ル資金

第十三條 取締役ハ何時タリトモ債權證書抵當證券社債又ハ「デベンチュアストック」ヲ適當ト認ムル價格若ハ條件ニ基キ發行シテ社債ニ依ル資金ヲ調達スルコトヲ得但利率ハ一年五分ヲ超ユルコトヲ得ス該債券、債權證書、抵當證券、社債又ハ「デベンチュアストック」ハ抽籤又ハ其他ノ方法ニ依リ償還セラル、コトヲ得ヘク又ハ永久的若クハ其他ノモノトナスヲ得ヘシ但總會ノ同意ヲ經スシテ未償還社債又ハ「デベンチュアストック」ノ總額ハ發行中申込アリシ株式資本金額ノ半額ヲ、其他ノ方法ニ依ル借入金ハ常ニ十五萬磅ヲ超過スルコトヲ許サス

第十四條 社債ニ依ル資金ハ浮動擔保ノ方法ニ依リ取締役ノ適當ト認ムル形式權限及救濟手段ヲ具ヘテ會社ノ全營業及資産ヲ擔保トシテ之ヲ借入ル、コトヲ得(取締役カ取締役トシテ受クヘキ責任ニ對シ財産及營業中ヨリ賠償セラルヘキ取締役ノ權利ニ從フコトヲ要ス)

第十五條 社債ニ依ル一切ノ資金ハ其設定又ハ發行ノ日付若クハ之ニ關スル取締役ノ決議ノ日附ニ相違アル場合ト雖モ同一ノ待遇ヲ受クヘキモノトス但シ發行ニ先タチ總會ニ於テ別段ノ決議アリタル場合ハ此限ニアラス

第六章 株券ヲ株ニ轉換スルコト

第十七條 本會社ノ資本ヲ示ス株券ハ發行ノ合意ナキ場合ニ於テハ全額拂込ノ後總會ノ決議ニ依リ優先株及利益讓先普通株ニ切半セラルヘシ

第七章 株 券

第二十條 本會社ハ株券又ハ株ノ登録所持者ヲ其真正ナル所有者ト看做シ他人ノ其株券又ハ株ニ對スル要求若クハ利益ヲ容認スルノ義務ナシ

第八章 株ノ割當及拂込ノ催告(略)

第九章 株券又ハ株ノ移轉(略)

第十章 株券ノ沒收及交付(略)

第十一章 株券預リ證(略)

第十二章 總 會

第五十一條 第一回總會ハ本會社登録後四ヶ月ヲ超エサル期間内ニ取締役ノ決定スル場所ニ於テ開會セラルヘシ

第五十二條 以後ノ總會ハ少クモ年一回一八八九年及其遞次年ニ開カルヘシ但總會ニ於テ別段ノ決議ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第五十三條 前條ノ年次總會ヲ通常總會ト稱シ其他ノ總會ヲ臨時總會ト稱ス

第五十四條 取締役ハ適當ト信スル場合ニハ何時ニテモ臨時總會ヲ召集スルコトヲ得本會社ノ株式資本額ノ十二分ノ一以上ヲ有スル投票權利者タル十人以上ノ株主ノ文書ニ依ル請求アルトキハ取締役ハ臨時總會ヲ召集スルコトヲ要ス

第五十五條 株主ノ請求書ニハ總會ノ目的ヲ明示シテ之ヲ本會社ノ本店ニ提出スヘシ該請求書ハ請求者ノ一人若クハ數人ノ捺印セル同形ノ文書ヨリナルモノトス

第五十六條 前條ノ請求書ヲ受領シタルトキハ取締役ハ臨時總會招集ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス取締役
 カ請求後二十一日以内ニ招集ノ手續ヲ爲サ、ルトキハ請求者又ハ第五十四條ノ條件ヲ具備シタル
 株主ハ自ら臨時總會ヲ倫敦又ハミッドルセツキスニ於テ相當ノ時期ニ開催スルコトヲ得此臨時總
 會ハ其取締役ニ依リ將タ請求者ニ依リ招集セラル、ヲ問ハス請求書ニ記載シタル事項ニ付テノミ
 決議ヲ爲スモノトス本條ニ基ク總會ノ決議ハ更ニ特別決議ニ附シテ確定セラルヘキモノニシテ第
 五十四條ノ條件ヲ具備シタル請求者又ハ其他ノ者ハ特別決議ノ爲メ總會ヲ招集スルコトヲ得

第十三章 總會ノ手續(略)

第十四章 株主ノ投票(略)

第十五章 受託者及取締役

第七十八條 取締役ハ職務上當然本會社ノ受託者タルヘシ
 第七十九條 本會社ノ取締役ハ四人以上十人以下トス
 第八十條 取締役ハ取締役會ノ定數ニ缺員ヲ生シタル場合ト雖モ其權能ヲ行使スルヲ得ルモノトス
 第八十一條 各取締役ハ自己名義ノ登録株額面二千磅以上ヲ所有スルコトヲ要ス

第八十二條 第一回ノ取締役左ノ如シ(人名略)

第八十三條 取締役ハ自己ノ行爲又ハ共同シタル行爲ニ付テノミ責任ヲ有ス

第八十四條 本會社ハ特別決議ニ依リ取締役ヲ解任スルコトヲ得普通決議ニ依リ其代理者ヲ選任シ又
 ハ補充取締役ヲ選任スルコトヲ得

第八十五條 取締役ノ定數ニ缺員ヲ生シタルトキハ取締役ハ何時ニテモ其補缺ノ爲メ總會ヲ招集スル
 コトヲ得取締役カ總會ヲ俟タスシテ補缺ヲ必要ト認メタルトキハ取締役ニ於テ補缺ヲ爲シ(但其
 選任ニ係ル取締役ハ次ノ總會迄職務ヲ行フニ止ル)又ハ次ノ通常總會迄之ヲ延期スルヲ得ヘシ總
 會ハ何時タリトモ補缺ヲ爲シ得ルモノトス

第八十五條ノ一 一八九五年ニ開會セララルヘキ總會及爾後毎年開催セララル、通常總會ニ於テ取締役中
 二人ハ交代ニ辭任シ總會カ適當ナリト認メタルトキハ之ヲ再選シ若クハ他ノ適任者ヲ以テ之ヲ補
 缺スルモノトス

第八十五條ノ二 取締役ノ交代辭任ニ付疑ヲ生シタルトキハ秘密投票ニ依リ取締役之ヲ決ス辭任シタ
 ル取締役ハ適當ナリト認メラレタル場合ニ於テ再選セララル、コトヲ得ルモノトス

第八十五條ノ三 辭任スヘキ取締役ニアラサル者ハ取締役會ノ推薦アルニアラサレハ選舉前十四日以
 上三ヶ月以内ニ自書ノ被選希望通知書ヲ本會社ノ書記役ニ通シ又ハ本店ニ發送シタル場合ノ外選

舉セラル、ノ資格ナキモノトス

第八十五條ノ四 毎年ノ通常總會ニ於テ辭任取締役ノ代リトシテ新ニ取締役ノ選舉ヲ行ハサルトキハ辭任取締役ハ再選セラレタルモノト看做ス

第八十六條 取締役ニシテ資格株數ヲ保有セス破産シ支拂ヲ停止シ、債權者ト協諾ヲ爲シ瘋癲トナリ若クハ取締役會ニ出席セサルコト引續キ六ヶ月ニ互ル(此場合ニ取締役會ニ於テ別段ノ決議アルトキハ之ニ從フ)トキハ其職ヲ去ルヘキモノトス

第八十七條 取締役ハ個人トシテ會社ノ株式所有者トシテ營業ヲ爲シ又ハ本會社ト契約ヲ爲シ若ハ本會社ノ放資セル商會ノ組合員トシテ本會社ノ關與セル營業又ハ契約ニ利害關係ヲ有スルコトヲ得ヘシ但シ此場合ニ於テハ利害關係ヲ有スルコト及其事項ニ關シ票決權ヲ行使セサルヘキコトヲ取締役會ニ報告スルコトヲ要ス取締役ハ自己又ハ商會トシテ本會社ノ代理人、書記役、支配人、銀行業者、仲買人、法律顧問其他ノ役員トナルコトヲ得但報酬其他ノ條件ニ關シテハ取締役會ノ決スル所ニ依ル

第八十八條 第一回ノ取締役又ハ取締役會ノ推薦ニヨリ選任セラレタルモノ、外少クモ選舉前三ヶ月間資格ヲ有シ選舉前一週間以上ノ期間内ニ自書セル被選希望通知書ヲ書記役ニ通シ又ハ本店ニ發シタル場合ノ外取締役ニ選舉セラル、資格ナキモノトス

第八十九條 取締役ハ自己ノ義務遂行ニ由リ生シタル損失及費用ヲ會社ヨリ賠償セラルヘシ但故意又ハ過失ニヨリ招キタルモノハ此限ニ在ラス取締役又ハ他ノ取締役又ハ會社ノ役員使用人ニ對シ會社ノ得タル財産若クハ擔保ノ價格又ハ權源ノ不足ヨリ生シタル損失其他義務履行ニ關シ故意過失以外ノ事項ニ對シ責任ヲ負フコトナシ特ニ取締役ハ會社ノ爲ニ保有スル株券有價證券其他ノ財産ニ伴フ責任ニ對シ本會社ノ資本中ヨリ賠償ヲ受ケ其賠償ハ社債「デベンチュアストック」其他ノ會社債務ニ先チ第一ニ會社財産ニ課セラルヘク其賦課及賠償ニ關シ必要ナル證書其他ノ書類ヲ作成スルコトヲ得ルモノトス

第十六章 取締役ノ權能

第九十條 取締役ニ委付セラレタル權能ハ取締役會ニ於テ出席シタル取締役ノ多數決ニ由リ之ヲ決スルモノトス

第九十一條 本會社ノ業務ハ本會社ノ設立及登記ノ費用及之ニ先チ又ハ伴フヘキ諸費用ヲ支拂ヒ又ハ發行セラレタル本會社ノ株券、社債「デベンチュアストック」債權證書ノ全部若ハ一部ヲ放資スルニ有益ナリト認ムル仲買手數料其他ノ諸費用ヲ支辨シタル取締役ニ依リ支配セラルヘシ而シテ定款若ハ其他ノ規程ニ依リ總會ニ於テ行使スヘキ權能ナリト定メタルモノ、外取締役ノ權